

日高六郎著作目録

平川 千宏

目 次

I. 図 書	10
1. 著 書	10
2. 共著書	10
3. 編 書	12
4. 共編書	14
5. 訳 書	20
II. 図書の一部	21
III. 雑誌記事	36
IV. 新聞記事	85
あとがき	107

日高 六郎

1917年中国・青島に生れる。41年東京帝国大学文学部社会学科卒。戦後、東京大学新聞研究所教授。69年同辞職。76年～89年京都精華短期大学教授。社会学、マスコミ論、戦後思想史の研究のほか、平和、教育・文化、人権等の諸問題について、運動にも深くかかわりながら、一貫して発言を続ける。国民文化会議代表を長くつとめたほか、国民教育文化総合研究所所長、神奈川人権センター所長等を歴任。89年以後フランス在住。

凡 例

本編には、1943(昭和18)年から2004(平成16)年8月までの日高六郎の著作1665点を収録した。

全体を前掲の目次のように分けた。

I. 図 書

「1.著書」から「5.訳書」までのそれぞれのなかは、出版年月順に配列した。

記載事項は、タイトル、出版者、出版年月、頁数、(叢書名)である。

共著書、共編書、共訳書については、共著者、共編者、共訳者名を記載した。また、「2.共著書」以下では、日高の執筆部分を記載した。

II. 図書の一部

図書の一部に掲載された日高の著作を収録した。全集・講座の付録月報類、図書の帯、内容見本、広告チラシに掲載されたものもここに収めた。

配列は、図書の出版年月順とした。年月が同じ場合はタイトルの50音順とし、出版月が不明のものはその年の最後に配列した。

記載事項は、タイトル、掲載図書の著編者、『掲載書名』、(出版者、出版年月)、掲載頁である。

以下は「Ⅲ.雑誌記事」「Ⅳ.新聞記事」においても共通である。

書評には、特定のタイトル、欄名がついていることが多いが、それらは省き、全て<書評>とした。

対談、鼎談、座談会、共同討議等の場合は、対談者、鼎談者、他の出席者等を記載した。

I-1にあげた日高の著書に収められているものは、そのことを記載した。

Ⅲ. 雑誌記事

配列は雑誌の発行年月順とした。年月が同じ場合はタイトルの50音順とし、出版月が不明のものはその年の最後に配列した。

記載事項は、タイトル、「掲載誌名」巻(号)または号数、発行年月、掲載頁である。

Ⅳ. 新聞記事

配列は新聞の発行年月日順とした。年月日が同じ場合はタイトルの50音順とした。

記載事項は、タイトル、「掲載紙名」、発行年月日である。

I. 図 書

1. 著 書

現代イデオロギー

勁草書房 1960.11 588p

原水爆とのたたかい 平和の声 まちに村に

国土社 1963.11 173p (みつばち図書館 17)

日高六郎教育論集

一ッ橋書房 1970.11 430p

人間の復権と解放

一ッ橋書房 1973.11 358p

戦後思想と歴史の体験

勁草書房 1974.10 280p

戦後思想を考える

岩波書店 1980.12 205p (岩波新書)

第35回毎日出版文化賞受賞

The price of affluence ; dilemmas of contemporary Japan

Kodansha International [1984] 176p

『戦後思想を考える』の英語版

私の平和論

岩波書店 1995.10 191p (岩波新書)

日高六郎・記憶と回想 (仮題)

筑摩書房 近刊予定

2. 共著書

社会科学入門

みすず書房 1949.10 352p

他の共著者：佐々木斐夫ほか10名 日高執筆：「文化人類学」

[中学校用教科書] 民主主義と明るい生活 第三学年 上, 下

中教出版 1951.6 2冊

他の共著者：岡田謙ほか3名 同じ内容のものが1952.1(上), 1952.5(下),

1953.6(上, 下) にも刊行

抵抗の学窓生活

要書房 1951.9 191p

他の共著者：大河内一男ほか15名 日高執筆：「船上の記憶など」

社会学 社会と文化の基礎理論

光文社 1952.4 410,12p

共著者：福武直 日高執筆：「第1章 人間と社会」「第3章 文化と社会」
〔高等学校用教科書〕 一般社会 社会生活の基礎

中教出版 1952.6 480p

共著者：宗像誠也ほか5名 同じ内容のものが1953.2, 1954.1, 1955.1にも
刊行

日本人の思想と意識

春秋社 1953.6 254p (現代日本人の「生き方」2)

他の共著者：佐々木斐夫ほか2名 日高執筆：「日本人のものの考え方につ
いて」「青年の自画像——学生と労働者のばあい」

〔小学校用教科書〕 あかるい社会 6年の上, 下 改訂版

中教出版 1953.6 2冊

他の共著者：桑原正雄ほか6名

〔小学校用教科書〕 あかるい社会 6年の上, 下 新版

中教出版 1954.6 2冊

他の共著者：周郷博ほか7名 同じ内容のものが1955.2, 1956.6にも刊行

〔中学校用教科書〕 中学生の社会科

中教出版 1954.6 380p

他の共著者：岡田謙ほか2名

岩波講座 現代 11 現代の民衆

岩波書店 1964.1 372p

他の共著者：斉藤真ほか13名 日高執筆：「まえがき」「現代の民衆」

サルトルとの対話

人文書院 1967.6 160p

他の共著者：平井啓之ほか9名 日高執筆：「<座談会>知識人・核問題を
めぐって」「解題」

シンポジウム 現代日本の思想 戦争と日本人

三省堂 1967.12 216p (三省堂新書)

他の参加者：上山春平ほか6名 「あとがき」も日高執筆

シンポジウム 沖縄 引き裂かれた民族の課題

三省堂 1968.4 215p (三省堂新書)

他の参加者：木下順二ほか 22名

共同討議 対決の思想

小田切秀雄編 勁草書房 1968.6 256p

他の参加者：江口朴郎ほか 12名

共同討議 転形期 八〇年代へ

潮出版社 1979.12 274p

他の参加者：加藤周一ほか 2名 日高執筆：「共同討議 進行する管理化社会にどう対応するか」「共同討議 『三島』を通して天皇制と大衆を考える」
「あとがきに代えて」

戦後とは何か

青弓社 1985.8 162p

他の共著者：鶴見俊輔ほか 2名 日高執筆：「『戦後思想を考える』を書いて」
おかさんの教育相談 II 小学生のいる暮らし・高学年篇

筑摩書房 1986.2 227p

他の共著者：奥地圭子ほか 2名 日高執筆：「『相談』のあとのお茶の時間」
「あとがき」

同時代人丸山真男を語る

国民文化会議編 世織書房 1998.8 107p (転換期の焦点 6)

共著者：加藤周一 日高執筆：「『ラディカルな民主主義』について」「討論」

この百年の課題

西島健男編 朝日新聞社 2001.3 325p (朝日選書)

西島健男によるインタビュー 他の共著者：鶴見俊輔ほか 20名 日高インタビュー：「戦争責任」

3. 編書

現代心理学 6 政治と経済の心理学

河出書房 1955.1 312,11p

日高執筆：「あとがき」

マス・コミュニケーション講座 5 現代社会とマス・コミュニケーション

河出書房 1955.2 317,21p

日高執筆：「はしがき」「マス・コミュニケーションと現代社会」

講座 道徳教育 8 社会生活と道徳教育

牧書店 1956.9 168p

日高執筆：「はしがき」「子どもたちをとりまく社会環境 都市」(共著)

「日本人の道徳意識——古いものと新しいもの」(共著)

人間の研究 3 人間と社会

有斐閣 1959.8 194p

日高執筆：「はしがき」「街頭の中の人間」

社会学論集 理論篇

河出書房新社 1959.11 388p (大学セミナー双書)

日高執筆：「はしがき」「イデオロギー・社会心理・社会的性格」(再録)

1960年5月19日

岩波書店 1960.10 279p (岩波新書)

社会科教育大系 5 現代の世界と日本 (下)

三一書房 1963.4 254p

日高執筆：「むすびにかえて」

20世紀を動かした人々 15 マスメディアの先駆者

講談社 1963.11 424p

日高執筆：「序」

現代日本思想体系 34 近代主義

筑摩書房 1964.7 388p

日高執筆：「解説 戦後の『近代主義』」

戦後日本思想大系 1 戦後思想の出発

筑摩書房 1968.7 420p

日高執筆：「解説 戦後思想の出発」

戦後資料 マスコミ

日本評論社 1970.4 505p

シンポジウム 意識のなかの日本

朝日新聞社 1972.7 286p

日高執筆：「はじめに」「ナショナリズムと天皇制——その歴史と論理・討論」「高度経済成長と大国主義・討論」「アジアと日本・討論」「あとがき」

憲法改悪反対運動入門

オリジン出版センター 1981.6 317p

日高執筆：「護憲のために」

戦後日本を考える

筑摩書房 1986.7 320p

日高執筆：「戦後青年の意識」「あとがきに代えて」

現代日本を考える

筑摩書房 1987.6 274p

日高執筆：「あとがきに代えて」

明日の日本を考える

筑摩書房 1988.6 290p

日高執筆：「明日の日本を考える」「あとがきに代えて」

世界のいまを考える

筑摩書房 1989.7 308p

日高執筆：「あとがきに代えて」

変る世界を考える

筑摩書房 1990.7 326p

日高執筆：「あとがきに代えて」

激動する世界と日本を考える

筑摩書房 1992.3 262p

日高執筆：「湾岸戦争のなかの日本を考える」「あとがきにかえて」

日本と中国——若者たちの歴史認識

梨の木舎 1995.9 235p（教科書に書かれなかった戦争 Part 19）

日高執筆：『『日本と中国——若者たちの歴史認識』刊行によせて』

4. 共編書

現代心理学 1～6

河出書房 1954.8～1955.3 6冊

他の共編者：相良守次ほか4名 日高執筆：第6巻の「あとがき」

マス・コミュニケーション講座 1～6

河出書房 1954.11～1955.12 6冊

他の共編者：清水幾太郎ほか2名 日高執筆：第1巻の「マス・コミュニケーション概論」, 第5巻の「はしがき」「マス・コミュニケーションと現代社会」

講座 道德教育 4～8

牧書店 1955.12～1957.3 5冊

1～3巻は未刊か 他の共編者：勝田守一ほか3名 日高執筆：第8巻の「はしがき」「子どもたちをとりまく社会環境 都市」(共著)

「日本人の道德意識」(共著)

仲間のなかの恋愛

河出書房 1956.9 195p (河出新書)

他の共編者：磯野誠一ほか3名

講座 社会学 1～9, 別巻

東京大学出版会 1957.10～1958.9 10冊

共編者：福武直, 高橋徹 日高執筆：第7巻の「結びにかえて——『大衆社会』研究の方向について」, 第8巻の「変革期における人間像——社会的性格との関連について」

講座 現代芸術 1～7

勁草書房 1958.3～1961.6 7冊

他の共編者：阿部知二ほか5名 日高執筆：第3巻の「大衆社会と芸術」

社会学辞典

有斐閣 1958.4 977, 83p

共編者：福武直, 高橋徹 日高執筆：「イデオロギー」「インテリゲンチヤ」「階級意識」ほか

現代社会集団論

東京大学出版会 1958.12 218p

共編者：北川隆吉 日高執筆：「イデオロギー・社会心理・社会的性格」(再録)

講座 現代マス・コミュニケーション 1～3

河出書房新社 1960.7～1961.5 3冊

他の共編者：清水幾太郎ほか2名 日高執筆：第3巻の「むすびにかえて——テレビ時代の活字と文化」

社会科教育大系 1～5

三一書房 1961.3～1963.4 5冊

他の共編者：入江敏夫ほか4名 日高執筆：第5巻の「むすびにかえて」

世界思想教養全集 1～24

河出書房新社 1962.4～1964.5 24冊

他の共編者：桑原武夫ほか2名 日高執筆：第15巻の「『現代アメリカの思想』概説」「解題 フロム『自由からの逃走』」

知識人の思想と行動 新しい連帯のために

麦書房 1964.3 302p

共編者：木下順二，野間宏 日高執筆：「知識人の責任と連帯」「公開シンポジウム——現在における知識人の役割と責任」

倫理・社会

学生社 1964.4 335p

共編者：福武直 日高執筆：「はしがき」(福武と共著)

につぼん診断

三一書房 1964.10 221p (三一新書)

共編者：佐藤毅 日高執筆：「あとがき」(佐藤と共著)

講座 マス・コミュニケーションと教育 1～3

明治図書出版 1965.10～11 3冊

共編者：依田新，木原健太郎 日高執筆：第1巻の「序にかえて——マス・コミュニケーションと教育」

マス・コミュニケーション入門

有斐閣 1967.2 259p (有斐閣双書)

共編者：佐藤毅，稲葉三千男 日高執筆：「コミュニケーションとはなにか」

社会学のすすめ

筑摩書房 1968.6 293p (学問のすすめ 4)

共編者：作田啓一 日高執筆：「社会学を考える」

岩波講座 哲学 5 社会の哲学

岩波書店 1969.4 354p

共編者：城塚登 日高執筆：「戦後日本における個人と社会」

現代婦人問題講座 1 婦人政策・婦人運動

亜紀書房 1969.7

共編者：田中寿美子 日高執筆：「婦人解放の今日的課題」

現代社会学大系 1～15

青木書店 1969.11～1990.2 15冊

他の共編者：岩井弘融ほか4名

大学の国際化と外国人教員

第三文明社 1980.7 360p

共編者：徐龍達 日高執筆：「まえがき」「外国人研究者と国公立大学——

- 一韓国人研究者の独白」 「対談・なぜ外国人教員を差別するのか」
教育実践の記録 別冊1 子ども現代誌
筑摩書房 1982.2 301p
共編者：高山英男 日高執筆：「子どものなかの〈時代の感性〉」（高山と
共著）
- 私の戦争体験 若い世代に語りつぐ
労働教育センター 1982.8 180p
共編者：総評教宣局 日高執筆：「〈戦争体験〉を考える」
- 国分一太郎文集 1～10
新評論 1983.3～1985.6 10冊
他の共編者：太田堯ほか6名 日高執筆：第2巻の「この巻を読んで」
- 二十一世紀への進路
ミネルヴァ書房 1986.2 256p
共編者：榎本貴志雄 日高執筆：「戦後日本と私たちの未来」「シンポジウ
ム 21世紀への進路」
- 子どもの心の奥に潜むもの
奥地圭子著 アドバンテージサーバー 1993.4 61p（ブックレット「生き
る」1）
共編者：国民教育文化総合研究所 日高執筆：「ブックレット「生きる」を
刊行します」が本シリーズ各冊の巻末にあり
- 環境と人間
山田国広著 アドバンテージサーバー 1993.4 62p（ブックレット「生き
る」2）
共編者：国民教育文化総合研究所
- 君の中にある数学
銀林浩著 アドバンテージサーバー 1993.4 62p（ブックレット「生きる」
3）
共編者：国民教育文化総合研究所
- 全盲学生のアメリカ留学
勝山広子著 アドバンテージサーバー 1993.7 61p（ブックレット「生き
る」4）
共編者：国民教育文化総合研究所
- 戦争責任の受けとめ方——ドイツと日本

加藤周一著 アドバンテージサーバー 1993.7 59p (ブックレット「生きる」 5)

共編者：国民教育文化総合研究所

なぜ、本を読むのか——体験的読書論

斉藤次郎著 アドバンテージサーバー 1993.10 60p (ブックレット「生きる」 6)

共編者：国民教育文化総合研究所

ファミコン時代の子どもたち

野上暁著 アドバンテージサーバー 1993.10 59p (ブックレット「生きる」 7)

共編者：国民教育文化総合研究所

エイズの表情

吉岡忍著 アドバンテージサーバー 1993.11 61p (ブックレット「生きる」 8)

共編者：国民教育文化総合研究所

テレビドラマのなかの家族

松尾羊一著 アドバンテージサーバー 1993.11 62p (ブックレット「生きる」 9)

共編者：国民教育文化総合研究所

やぶ医者が見た日本の医療

なだ いなだ著 アドバンテージサーバー 1993.11 61p (ブックレット「生きる」 10)

共編者：国民教育文化総合研究所

先生へのメッセージ

曾田簫子ほか著 アドバンテージサーバー 1994.3 61p (ブックレット「生きる」 11)

共編者：国民教育文化総合研究所

学校の精神風土

石川憲彦著 アドバンテージサーバー 1994.1 62p (ブックレット「生きる」 12)

共編者：国民教育文化総合研究所

歪んだ鏡——日本の新聞とテレビ

原寿雄著 アドバンテージサーバー 1994.5 59p (ブックレット「生きる」

13)

共編者：国民教育文化総合研究所

文化としての漫画と歴史

池田理代子著 アドバンテージサーバー 1994.6 61p (ブックレット「生きる」 14)

共編者：国民教育文化総合研究所

教科書検定——私の体験

暉峻淑子著 アドバンテージサーバー 1994.7 61p (ブックレット「生きる」 15)

共編者：国民教育文化総合研究所

子どもに会う——体験の子ども論

森田ゆり著 アドバンテージサーバー 1994.8 62p (ブックレット「生きる」 16)

共編者：国民教育文化総合研究所

米をつくりたいと思った

立松和平著 アドバンテージサーバー 1994.10 61p (ブックレット「生きる」 17)

共編者：国民教育文化総合研究所

子どもたちは書く——ドイツのいま

レギーナ・ルッシュ編 藤江・ヴィンター・公子編訳 アドバンテージサーバー 1994.10 62p (ブックレット「生きる」 18)

共編者：国民教育文化総合研究所

マイノリティーが開く国際化 大阪府立柴島高校の試み

佐々木徹著 アドバンテージサーバー 1995.1 61p (ブックレット「生きる」 19)

共編者：国民教育文化総合研究所

女性の参画でひらくゆたかな老い

樋口恵子編 アドバンテージサーバー 1995.3 [63p] (ブックレット「生きる」 20)

共編者：国民教育文化総合研究所

抗日戦争と一女性——宋慶齡の場合

仁木ふみ子著 アドバンテージサーバー 1995.6 61p (ブックレット「生きる」 21)

共編者：国民教育文化総合研究所

いじめ自殺と学校——先立たれた親の訴え

鎌田慧著 アドバンテージサーバー 1995.8 61p (ブックレット「生きる」
22)

共編者：国民教育文化総合研究所

女たちの挑戦, 仕事

古庄弘枝著 アドバンテージサーバー 1995.8 63p (ブックレット「生きる」 23)

共編者：国民教育文化総合研究所

いま子どもたちの闘は

高史明著 アドバンテージサーバー 1995.9 61p (ブックレット「生きる」
24)

共編者：国民教育文化総合研究所

バイオリン職人の夢

上金正利著 アドバンテージサーバー 1995.10 61p (ブックレット「生きる」 25)

共編者：国民教育文化総合研究所

21世紀 私たちの選択

日本評論社 1996.5 248p

共編者：高島通敏 日高執筆：「戦後五〇年を考える」「あとがき」(高島と
共著)

5. 訳書 (共訳書を含む)

自由からの逃走

エーリッヒ・フロム著 東京創元新社 1951.12 335p (現代社会科学叢書)

人間の歴史の物語 上, 下

ヴァン・ローン作 日高八郎共訳 岩波書店 1952.1～8 2冊 (岩波少年
文庫)

社会学

W.J.H. シュプロット著 城戸浩太郎共訳 岩波書店 1956.12 232p

自由からの逃走 新版

エーリッヒ・フロム著 東京創元社 1965.12 337p (現代社会科学叢書)

人間の歴史の物語 上, 下 改訳

ヴァン・ローン作 日高八郎共訳 岩波書店 1974.12～1975.8 2冊（岩波少年文庫）

Ⅱ. 図書の一部

1940年代

階級意識 国際社会科学協会編『社会科学講座 4 社会意識』（二見書房 1947.5） p29～59

社会学 <概説 人文科学> 『科学年鑑 2』（日本科学社 1948.8） p238～241

マックス・ウェーバーの人間観——合理的なるものと非合理的なるもの 鎌倉文庫編刊『マックス・ウェーバー研究 1』（1948.12） p277～303 『現代イデオロギー』に所収

社会学に於ける心理学的・生物学的方法について 東京大学社会学会編『現代社会学の諸問題——戸田貞三博士還暦祝賀論文集』（弘文堂 1949.2） p121～141

文化人類学 日高ほか著『社会科学入門』（みすず書房 1949.10） p207～229

1950年代

私たちに問いかけるもの 東大協同組合出版部編刊『わだつみのこえに応える日本の良心』（1950.6） p127～132

現代社会の文化形態 弘文堂編集部編『社会科学講座 5 近代社会の構造と危機』（弘文堂 1951.2） p69～81

船上の記憶など 日高ほか著『抵抗の学窓生活』（要書房 1951.9） p113～118 大河内一男ほか編『わが学生の頃』（三茅書房 1957）にも所収

日本社会の構造とそのゆがみ 清水幾太郎編『国民講座 1 日本の思想』（河出書房 1951.10） p85～96

人間と社会 日高、福武直著『社会学 社会と文化の基礎理論』（光文社 1952.4） p11～72

文化と社会 日高、福武直著『社会学 社会と文化の基礎理論』（光文社 1952.4） p159～260

新しい人間像——その現実的な基盤 勝田守一編『岩波講座 教育 3 日本の教育』（岩波書店 1952.7） p33～65 『日高八郎教育論集』に所収

- 解説 清水幾太郎著『社会的人間論』(創元文庫 1952.8) p125～129
- 風俗 創文社編集部編『新倫理講座 4 社会と人倫』(創文社 1952.8)
p153～156
- 日本人のものの考え方について 日高ほか著『現代日本人の「生き方」 2
日本人の思想と意識』(春秋社 1953.6) p1～8
- 青年の自画像——学生と労働者のばあい 日高ほか著『現代日本人の「生き方」
2 日本人の思想と意識』(春秋社 1953.6) p193～254 『現代イデオ
ロギー』に所収
- 解説 『現代随想全集 13 三木清・清水幾太郎集』(創元社 1953.8) p442
～446 「清水幾太郎集」の解説
- 日本人の文学生活 機能と効用 中野好夫ほか編『岩波講座 文学 1 文学
とはなにか』(岩波書店 1953.11) p303～314
- マス・コミュニケーション 創文社編集部編『現代史講座 5 明日への課題』
(創文社 1953.11) p202～207
- 文壇とジャーナリズム 桑原武夫ほか編『岩波講座 文学 2 日本の社会と
文学』(岩波書店 1953.12) p235～250
- いかに生くべきか 日本放送協会編『友への手紙 第2集』(宝文館 1954.4)
p159～165
- 戦争と家庭 周郷博ほか編『児童問題講座 2 家庭編』(新評論社 1954.7)
p91～98
- 解説 清水幾太郎著『社会学ノート』(河出文庫 1954.8) p171～174
- 《旧意識》の原初形態 遠山茂樹編『日本資本主義講座 戦後日本の政治と経
済 9 軍国主義の復活』(岩波書店 1954.8) p165～190 『『旧意識』
とその戦後形態』として『現代イデオロギー』に所収
- 思想・文化 戦後におけるイデオロギーの動向 創文社編集部編『現代史講座
別巻 戦後日本の動向』(創文社 1954.8) p83～99 「戦後におけるイデ
オロギーの動向』として『現代イデオロギー』に所収
- イデオロギーと大衆社会 創文社編集部編『現代宗教講座 2 マルクス主義
か宗教か』(創文社 1954.11) p54～62
- あとがき 日高編『現代心理学 6 政治と経済の心理学』(河出書房 1955.1)
p315～318
- マス・コミュニケーションと現代社会 日高編『マス・コミュニケーション講
座 5 現代社会とマス・コミュニケーション』(河出書房 1955.2) p237

～ 253 同書の「編者のことば」も日高著
古い意識のなかのあたらしさについて 『岩波講座 文学の創造と鑑賞 月報
5』(岩波書店 1955.3) p1～3 『日高六郎教育論集』に所収
新聞の与えるもの 千葉雄次郎編『新聞』(有斐閣 1955.8) p75～98
マス・コミュニケーション概論 清水幾太郎編『マス・コミュニケーション講
座 1 マス・コミュニケーションの原理』(河出書房 1955.8) p7～67
現代社会と道德教育 長田新監修『現代道德教育講座 1 道德教育の原理』
(岩崎書店 1955.10) p127～138
生活綴方とコトバ 岡部政裕編『講座 日本語 5 ことばと文学』(大月書店
1956.3) p133～143
社会心理学的研究における二、三の問題点について——ささやかな反省 福武
直編『日本社会学の課題 林惠海教授還暦記念論文集』(有斐閣 1956.3)
p37～45 「社会心理学研究における問題点」として『現代イデオロギー』
に所収
マス・コミュニケーションとことば(荒瀬豊共著) 石黒修ほか編『ことばの
講座 5 現代社会とことば』(東京創元社 1956.3) p9～34
第六目標・第二分科会「教育と文化を進めるために教師は父母や青年と提携し
てどのような実践活動をしてきたか」〔報告〕 日本教職員組合編『日本の教
育 第五集 第五次教育研究全国集会報告』(国土社 1956.5) p507～540
文化人類学 みすず書房編集部編『社会科学入門』(みすず書房 1956.6)
p255～268 日高ほか著『社会科学入門』(みすず書房 1949)所収の「文化人
類学」を大幅に改稿したもの
子どもたちをとりまく社会環境 都市(宍戸健夫共著) 日高編『講座 道德
教育 8 社会生活と道德教育』(牧書店 1956.9) p19～29
日本人の道德意識——古いものと新しいもの(宍戸健夫ほか共著) 日高編
『講座 道德教育 8 社会生活と道德教育』(牧書店 1956.9) p99～168
文学とマス・コミュニケーション(稲葉三千男共著) 本多秋五編『体系 文
学講座 6 現代文学の問題』(青木書店 1956.11) p127～143
ヨーロッパにおける対立と混乱 岩波書店編刊『岩波講座 現代思想 1 現
代の思想的状況』(1956.11) p109～134 「二つの大戦の間」として『現代
イデオロギー』に所収
機械時代における人間の問題 岩波書店編刊『岩波講座 現代思想 8 機械
時代』(1957.3) p335～362 『現代イデオロギー』に所収

- 現代社会と道德教育 勝田守一ほか編『現代道德教育講座 1 道德教育の原理』(岩崎書店 1957.4) p127～138
- 文化と社会 安藤良雄ほか編『社会』(学生社 1957.4) p314～348
- 愛国心について 勝田守一ほか編『明治図書講座 学校教育 12 現代社会と学校教育』(明治図書出版 1957.6) p104～116
- 第十七分科会「職場の問題」〔報告〕(五十嵐頭共著) 日本教職員組合編『日本の教育 第六集 第六次教育研究全国集会報告』(国土社 1957.7) p591～616
- 結びにかえて——「大衆社会」研究の方向について 日高ほか編『講座 社会学 7 大衆社会』(東京大学出版会 1957.10) p237～246 「『大衆社会』研究の方向」として『現代イデオロギー』に所収
- 世代 岩波書店編刊『岩波講座 現代思想 11 現代日本の思想』(1957.11) p127～154 『現代イデオロギー』に所収
- 新しい日本社会のために 福武直編『日本の社会』(毎日新聞社 1957.12) p247～262 「新しい前進のために」として『現代イデオロギー』に所収
- 思いだせること 思いだせないこと 阿部知二ほか編『子どもに聞かせたいとっておきの話 3』(英宝社 1957.12) p200～204
- 都市のこころ <地域> 国分一太郎ほか編『教師生活 増補版』(新評論社 1958.2) p217～227
- 第四分科会「社会科教育」〔報告〕(遠山茂樹, 今井誉次郎共著) 日本教職員組合編『日本の教育 第七集 第七次教育研究全国集会報告』(国土社 1958.6) p111～138)
- 変革期における人間像——社会的性格との関連について 日高ほか編『講座 社会学 8 社会体制と社会変動』(東京大学出版会 1958.6) p251～263
- 大衆社会と芸術 日高ほか編『講座 現代芸術 3 芸術を担う人々』(勁草書房 1958.8) p99～121 「大衆社会における芸術と文化」として『現代イデオロギー』に所収
- 戦争と人間性の崩壊 『講座 現代倫理 7 現代的状況における人間』(筑摩書房 1958.9) p47～65
- <共同討議> 大衆運動のモラル 『講座 現代倫理 7 現代的状況における人間』(筑摩書房 1958.9) p243～282 他の参加者: 倉持米一ほか4名
- 戦後の倫理思想 『講座 現代倫理 11 転換期の倫理思想(日本)』(筑摩書房 1959.1) p199～222

- 講師団代表の意見——第八次教育研究の成果 日本教職員組合編『日本の教育 第八集 第八次教育研究全国集会報告 下』(国土社 1959.6) p249～253 「教育評論」(1959.3) 掲載のものとはほぼ同じ内容
- 街頭の中の人間 日高編『人間の研究 3 人間と社会』(有斐閣 1959.8) p145～169 同書の「はしがき」も日高著
- 敗戦をどう受けとめたか <戦後を考える 1> 白井吉見編『現代教養全集 月報16(第16巻付録)』(筑摩書房 1959.12) p5～7
- 全国的な文化交流をふかめ つよめるためにどうしたらよいか 国民文化会議 編刊『1959 国民文化全国集会・資料』(1959) p36～39, 32

1960年代

- 「弱さ」を「強さ」に転化するために——政治と教育との結びつき 新評論編集部編『ゆずりわたすことのできぬもの 国民教育における抵抗と創造 <日本の教師にうったえる 3>』(新評論 1960.1) p174～183 「教育評論」(1960.1)の「第九次全国集会を前にして考えてもらいたいこと」に加筆したもの
- 「主体性」論争の季節 <戦後を考える 3> 白井吉見編『現代教養全集 月報18(第18巻付録)』(筑摩書房 1960.2) p6～7
- 政治的「未来図」の発想様式——末広重恭「二十三年未来図」を中心として(香内 三郎共著) 伊藤整ほか編『近代日本思想史講座 3 発想の諸様式』(筑摩書房 1960.5) p223～266
- 講和条約締結 <戦後を考える 5> 白井吉見編『現代教養全集 月報20(第20巻付録)』(筑摩書房 1960.6) p6～7
- 「国民文学」論をめぐる <戦後を考える 7> 白井吉見編『現代教養全集 月報22(第22巻付録)』(筑摩書房 1960.8) p5～6
- 六全協とスターリン批判 <戦後を考える 9> 白井吉見編『現代教養全集 月報25(第25巻付録)』(筑摩書房 1960.10) p6～7
- 政治・社会・教育 『岩波講座 現代教育学 1 現代の教育哲学』(岩波書店 1960.11) p159～172 「政治の責任と教育の責任」として『現代イデオロギー』に所収
- むすびにかえて——テレビ時代の活字文化 日高ほか編『講座 現代マス・コミュニケーション 3 ジャーナリズム』(河出書房新社 1960.11) p264～267

- 新興宗教 <戦後を考える 11> 白井吉見編『現代教養全集 月報27(第27巻付録)』(筑摩書房 1960.12) p6～7
- 社会科学教育の役割と目標 『岩波講座 現代教育学 12 社会科学と教育Ⅰ』(岩波書店 1961.4) p125～142 同書の「まえがき」も日高著
- 社会科学教育における系統性——序論にかえて 『岩波講座 現代教育学 13 社会科学と教育Ⅱ』(岩波書店 1961.6) p1～8
- 民主主義と政治 『岩波講座 現代教育学 13 社会科学と教育Ⅱ』(岩波書店 1961.6) p203～234
- はしがき 日高監修『マス・レジャー叢書 2 マス・レジャー論』(紀伊国屋書店 1961.10) pI～VI
- はしがきに代えて 生活科学調査会編『余暇』(医薬出版 1961.12) 2p(頁付なし) 同書・増補版(ドメス出版 1970.4)にも所収
- <討論> 現代における革命と平和 井汲卓一ほか編『講座 現代のイデオロギー 5 現代日本の思想と運動1』(三一書房 1962.3) p215～256 討論者：佐藤昇
- もし国民文化創造という言葉を使うのならば 国民文化会議編刊『第六回国民文化全国集会資料』(1962.4) p4～7
- 第十分科会 国民文化のイメージを検討し新しい文化の創造主体を確立するために〔報告と討論〕 国民文化会議編刊『第六回国民文化全国集会記録』(1962.5) p72～77 討論参加者：竹内好ほか多数
- 『現代アメリカの思想』概説(加藤秀俊共著) 日高ほか編『世界思想教養全集 15 現代アメリカの思想』(河出書房新社 1962.11) p3～17
- 解題 フロム『自由からの逃走』 日高ほか編『世界思想教養全集 15 現代アメリカの思想』(河出書房新社 1962.11) p393～396
- 生活記録運動——その二、三の問題点 日本作文の会編『講座 生活綴方 5 生活綴方と現代教育・文化』(百合出版 1963.4) p283～297
- むすびにかえて 日高ほか編『講座 社会科学教育大系 5 現代の世界と日本(下)』(三一書房 1963.4) p249～253
- 展望・現代の生活状況 社会思想社編集部編『現代の焦点 (現代教養文庫)』(社会思想社 1963.9) p262～266
- 序 日高編『20世紀を動かした人々 15 マスメディアの先駆者』(講談社 1963.11) 巻頭6p(頁付なし)
- <記念講演> 現代における教師の役割 鹿児島県教職員組合文化部編『鹿児

- 島の教育 第14次教研のまとめと第15次教研テーマ推進』(鹿児島県教職員組合 1963.12) p383～403
- 現代の民衆 日高ほか著『岩波講座 現代 11 現代の民衆』(岩波書店 1964.1) p1～25 『戦後思想と歴史の体験』に所収
- <対話> 日高六郎氏と日本の近代化 中村雄二郎著『日本文化の焦点と盲点 対話とエッセエ』(河出書房新社 1964.1) p5～22 対話者：中村雄二郎
- 知識人の連帯と責任 日高ほか編『知識人の思想と行動』(麦書房 1964.3) p226～244
- <公開シンポジウム> 現在における知識人の役割と責任 日高ほか編『知識人の思想と行動』(麦書房 1964.3) p245～294 他の参加者：木下順二ほか18名
- 今日における文化状況と日本の課題 国民文化会議編刊『日本文化の現状と問題点 第七回国民文化全国集会資料』(1964.5) p6～34 『人間の復権と解放』に所収
- 解説 『斉藤喜博著作集 8』(麦書房 1964.7) p563～573 「斉藤喜博さんの仕事」として『日高六郎教育論集』に所収
- 戦後の「近代主義」 日高編『現代日本思想大系 34 近代主義』(筑摩書房 1964.7) p7～52 『戦後思想の歴史と体験』に所収
- 〔個人特性〕にあらわれた新動向 平和経済計画会議〔編〕刊『政党支持と政党意識の動向についての調査報告——とくに東京と千葉における』(1964.12) p45～80
- <記念講演> 政治と教育 宮崎県教職員組合〔編〕刊『みやざきの教育 第14次教研のまとめ 1964』 p2～18
- 〔討論〕 第二部会 労働省婦人少年局〔編刊〕『今日における家庭の役割 産業社会の進展の中で 第12回全国婦人会議』〔1964〕 p73～139 他の参加者：後藤卓子ほか14名
- <記念講演> 自主教研の課題 山形県教育労働組合連合会, 山形県高等学校教職員組合編『山形の教育 県教連第14次・高教組11次合同教研報告集』(山形教育用品株式会社 1965.3) p467～480
- <共同討論> 日韓問題をどう考えるか 『日韓問題 日韓条約はだれに利益をもたらすか』(青木書店 1965.10) p62～80 他の参加者：斉藤孝, 増島宏
- 序にかえて——マス・コミュニケーションと教育 日高ほか編『講座 マス・

- コミュニケーションと教育 1 『マス・コミュニケーション時代の教育』
 (明治図書出版 1965.11) p1～14
- 「倫理・社会」教育と「道徳教育」 立正大学哲学研究室編『講座 社会と倫理
 5 現代の倫理と倫理教育』(日本評論社 1966.8) p1～10 同書の「は
 しがき」も日高著
- 沖縄・安保——アメリカの民衆に知らせたいこと 鶴見俊輔ほか編『反戦の論
 理——全国縦断日米反戦講演記録』(河出書房新社 1967.1) p72～75
- コミュニケーションとはなにか 日高ほか編『マス・コミュニケーション入門』
 (有斐閣 1967.2) p1～9
- <座談会> 「紀元節」はなぜ復活されたか 『紀元節問題 「建国記念の日」
 制定はなにをめざすか』(青木書店 1967.2) p52～69 他の出席者：遠山
 茂樹ほか2名
- 都民の自発性を信頼すること 『わが愛する東京——革新都政に期待する』
 (社会新報 1967.3) p117～119
- 『構想力の論理』を読んだころ 『三木清全集 8 月報』(岩波書店 1967.5)
 p3～6 1985.3刊行の第2刷にもあり
- 解題 日高ほか著『サルトルとの対話』(人文書院 1967.6) p55～62 同書
 所収の「<座談会> 知識人・核問題をめぐって」の解題
- <記念講演> 未来に生きる教師の役割 群馬県教職員組合編刊『群馬の教育
 第十七次』〔1967〕 p3～11
- 教育・思想支配の日本的構造 日本教職員組合ほか編『教育反動』(一ツ橋書
 房 1968.6) p11～22 『日高六郎教育論集』に所収
- 社会学を考える 日高ほか編『社会学のすすめ (学問のすすめ 4)』(筑摩
 書房 1968.6) p3～12
- 討論 文学的立場編『共同討議 対決の思想』(勁草書房 1968.6) p75～254
 他の参加者：小田切秀雄ほか12名
- 解説 戦後思想の出發 日高編『戦後日本思想大系 1 戦後思想の出發』
 (筑摩書房 1968.7) p3～38 『戦後思想と歴史の体験』に所収
- 日高六郎証言 教科書検定訴訟を支援する全国連絡会編『家永・教科書裁判
 第2部 証言篇2』(総合図書 1968.9) p237～298
- <権威>があるかのように 教科書検定訴訟を支援する全国連絡会編『家永・
 教科書裁判 第2部 証言篇3 月報3』(総合図書 1969.1) p1～2
- 私の目ざす教科書 家永先生の教科書訴訟を支援する市民の会編『変革への提

言』(学芸書房 1969.1) p118～146 「私の教科書論」として『日高六郎教育論集』に所収

戦後日本における個人と社会 日高ほか編『岩波講座 哲学 5 社会の哲学』(岩波書店 1969.4) p39～63 『戦後思想と歴史の体験』に所収

婦人解放の今日的課題 日高ほか編『現代婦人問題講座 1 婦人政策・婦人運動』(亜紀書房 1969.7) p311～318

70年安保の問題点と闘いの展望 憲法擁護国民連合編刊『70年を闘うために』(1969) 掲載頁未詳

1970年代

序にかえて——城戸浩太郎の思い出 城戸浩太郎著『社会意識の構造』(新曜社 1970.7) pi～viii

小田実の知識人論 『小田実全仕事 月報2(第8巻付録)』(河出書房新社 1970.8) p2～3

問題提起(1) 国民文化会議ほか編刊『第10回国民文化全国集会記録』(1970.12) p4～10

<記念講演> 国民の教育権の確立をめざして 沖縄教職員会教育文化部編『沖縄教育 第17次教育研究集会報告書(教科)』(沖縄教職員会 1970) p20～40

一九七〇年代の革新自治 自治労議員連盟編刊『地方選挙の理論と実践』(1970) 掲載頁未詳

〔証言〕 金嬉老公判対策委員会〔編〕刊『金嬉老問題資料集 V 証言集1』(1972.2) p57～69 金嬉老公判対策委員会編『金嬉老問題資料集成 上』(むくげ社 1982)に所収

解説 戦後思想史における教研と記念講演 日本教職員組合編『歴史と教育の創造 日教組教育研究集会記念講演集』(一ツ橋書房 1972.4) p7～36

はじめに 日高編『シンポジウム 意識のなかの日本』(朝日新聞社 1972.7) p1～4

ナショナリズムと天皇制——その歴史と論理・討論 日高編『シンポジウム 意識のなかの日本』(朝日新聞社 1972.7) p78～124 他の参加者：甘粕健ほか8名

高度経済成長と大国主義——企業主義と国益主義・討論 日高編『シンポジウム 意識のなかの日本』(朝日新聞社 1972.7) p165～208 他の参加者：

今川瑛一ほか9名

アジアと日本——欠落をうめるものはなにか・討論 日高編『シンポジウム意識のなかの日本』(朝日新聞社 1972.7) p247～285 他の参加者：今川瑛一ほか8名

市民と市民運動 伊東光晴ほか編『岩波講座 現代都市政策 2 市民参加』(岩波書店 1973.1) p39～60 似田貝香門ほか編『リーディングス日本の社会学 10 社会運動』(東京大学出版会 1986)に再録

代表委員あいさつ 民主教育をすすめる国民連合編刊『民主教育をすすめる国民集会記録 1975.3.6～7』(1975.4) p1～2

解説 『鶴見俊輔著作集 3 思想Ⅱ』(筑摩書房 1975.7) p453～463

代表委員あいさつ 民主教育をすすめる国民連合編刊『民主教育をすすめる国民集会記録 1975.10.22～23』(1975.12) p1～2

〔記念講演〕 教育の原点を求めて——人類史への挑戦 山梨県教職員組合ほか編刊『山梨の教育 第25次教研報告集』(1976.3) p6～8

加藤周一 朝日新聞社編刊『現代人物事典』(1977.3) p332～333

福武直 朝日新聞社編刊『現代人物事典』(1977.3) p1148

前田俊彦 朝日新聞社編刊『現代人物事典』(1977.3) p1271

<記念講演> 教師のぎりぎりいっぱいの仕事 日本教職員組合編『日本の教育 第26集 日教組第26次・日高教第23次 教育研究全国集会報告』(一ツ橋書房 1977.5) p25～38 ほぼ同内容のものが「教育評論」(1977.3)に掲載

戦後文化運動史のすすめ 『岩波講座 日本歴史 月報25(第23巻付録)』(岩波書店 1977.5) p3～7

<パネル・ディスカッション> これからの図書館を考える 昭和51年度全国図書館大会実行委員会編『昭和51年度全国図書館大会記録』(日本図書館協会 1977.7) p10～30 他の参加者：浪江虔ほか4名

「わが解体」の痛切 『高橋和巳全集 月報11(第11巻附録)』(河出書房新社 1978.3) p1～3

<基調講演> 未来の地方(地域)政治を考える——論点整理と問題提起 京都市政調査会編『自治への展望・京都 80年代の指標を求めて』(ナカニシヤ出版 1978.12) p9～26

「新しき星重派」について 『加藤周一著作集 月報7(第13巻附録)』(平凡社 1979.4) p5～8

- 国際児童年と有事立法 国民教育研究所編『別冊国民教育 3 子どもの権利
児童の権利宣言 20周年・国際児童年』(労働旬報社 1979.5) p115～117
無名性の声 月田善之助, 山本リエ編『底辺から 差別・抑圧と闘う文学』
(創樹社 1979.11) 帯の推せん文
- <共同討議> 進行する管理化社会にどう対応するか 日高ほか著『共同討議
転形期 80年代へ』(潮出版社 1979.12) p71～139 他の参加者: 鶴見俊
輔, 高島通敏
- <共同討議> 「三島」を通して天皇制と大衆を考える 日高ほか著『共同討
議 転形期 80年代へ』(潮出版社 1979.12) p197～268 他の参加者:
加藤周一ほか2名
- あとがきに代えて 日高ほか著『共同討議 転形期 80年代へ』(潮出版社
1979.12) p269～274

1980年代

- 「やさしさ」と「正しさ」と「かしこさ」について 『ロマン・ローラン全集
月報6(第17巻付録)』(みすず書房 1980.4) p4～6
- まえがき 日高ほか編『大学の国際化と外国人教員』(第三文明社 1980.7)
p3～5
- 外国人研究者と国公立大学——韓国人研究者の独白 日高ほか編『大学の国
際化と外国人教員』(第三文明社 1980.7) p207～215
- <対談> なぜ外国人教員を差別するのか 日高ほか編『大学の国際化と外国
人教員』(第三文明社 1980.7) p230～250 対談者: 加藤周一 同じ内容
のものが「潮」(1980.3)にも掲載
- 桑原講演の思い出 『桑原武夫集 月報8(第8巻付録)』(岩波書店 1980.11)
p3～5
- <記念講演> 80年代の教育の課題 民主教育をすすめる国民連合編刊『第10
回民主教育をすすめる国民大集会記録』[1980] p4～10
- 軽々と歩く竹内さん 『竹内好全集 月報5(第2巻付録)』(筑摩書房 1981.1)
p1～2
- 証言 山下処分撤回を進める会編刊『高校紛争と教育 山下裁判闘争 日高六
郎証言記録』(1981.3) p11～77
- 護憲のために 日高編『憲法改悪反対運動入門』(オリジン出版センター
1981.6) p9～16

<シンポジウム> 今後の護憲運動をいかにすすめるか 憲法改悪反対・平和と民主主義を守る第17回国民大会編集委員会編『生かそう憲法 くらしと平和に '80』(憲法擁護国民連合〔1981〕) p94～110 他の参加者：大脇雅子ほか2名

解説 子どものなかの<時代の感性>(高山英男共著) 日高ほか編『教育実践の記録 別冊1 子ども現代誌』(筑摩書房 1982.2) p9～25

<戦争体験>を考える 日高ほか編『私の戦争体験 若い世代に語りつぐ』(労働教育センター 1982.8) p1～17

戦争からうけた体験、天皇からうけた屈辱を忘れない 日本はこれでいいのか 市民連合編『8・15を読む・語る』(第三書館 1982.8) p137～145 渡辺清『私の天皇観』の紹介

日本人論について 杉本良夫ほか編著『日本人論に関する十二章 通説に異議あり』(学陽書房 1982.9) p3～5 ちくま学芸文庫版(2000刊)にも所収 高校『現代文』について 教科書問題を考える市民の会編刊『教科書問題・市民の声 別冊 教科書問題 市民の声 執筆者の声』(1982.11) p22～29

古くて新しい市民運動 岩波書店編集部編『これからどうなる 日本・世界・21世紀』(岩波書店 1983.5) p405～406

<座談会> 水俣調査の課題をめぐって 色川大吉編『水俣の啓示 不知火海総合調査報告 下』(筑摩書房 1983.7) p467～503 他の出席者：色川大吉ほか6名

この巻を読んで 『国分一太郎文集 2 政治と教育のあいだ』(新評論 1983.11) p295～303

〔発言〕 狭山事件の真相究明に努力を続ける野間宏を囲む会編刊『狭山事件の真相究明に努力を続ける野間宏を囲む会記録』(1984.2) p8～9

個別的課題と全体像の展望 「使い捨て時代を考える会」十周年シンポ実行委員会編『これからどうする社会とくらし 「使い捨て時代を考える会」創立十周年記念シンポジウム』(柏樹社 1984.7) p50～59

<対談> 使い捨て時代を超えて 「使い捨て時代を考える会」十周年シンポ実行委員会編『これからどうする社会とくらし 「使い捨て時代を考える会」創立十周年記念シンポジウム』(柏樹社 1984.7) p125～193 対談者：植田劭

<座談会> 冤罪を生む裁判——二審判決をめぐって 狭山事件再審弁護団編『自白崩壊 狭山裁判20年』(日本評論社 1984.9) p163～189 他の出席

- 者：山上益朗，土方鉄
- 『戦後思想を考える』を書いて 日高ほか編『戦後とは何か』（青弓社 1985.8）
p37～68
- 戦後四〇年と日本国憲法 憲法改悪反対・平和と民主主義を守る第22回国民
大会編集委員会編『生かそう憲法 くらしに平和を '85』（憲法擁護国民連合
〔1986〕） p94～99
- ＜記念講演＞ 私たちの求める教育改革 山梨県教職員組合ほか編刊『山梨の
教育 第35次教研報告集』（1986.2） p16～24
- 戦後日本と私たちの未来 日高ほか編『21世紀への進路』（ミネルヴァ書房
1986.2） p7～44
- ＜シンポジウム＞ 21世紀への進路 日高ほか編『21世紀への進路』（ミネル
ヴァ書房 1986.2） p185～251 他の参加者：榎本貴志雄ほか多数
- 「相談」のあとのお茶の時間 日高ほか著『おかあさんの相談 II 小学生のい
る暮らし・高学年編』（筑摩書房 1986.2） p209～226 同書の「あとがき」
も日高著
- 戦後青年の意識 日高編『戦後日本を考える』（筑摩書房 1986.7） p257～284
あとがきに代えて 日高編『戦後日本を考える』（筑摩書房 1986.7） p315～318
解説 『岡村明彦集 5 未来の生命のために』（筑摩書房 1986.12） p409～417
あとがきに代えて 日高編『現代日本を考える』（筑摩書房 1987.6） p269～271
「君が代」訴訟にあたって 『いけん君が代 君が代強制住民カンサ請求意見
陳述』（阿吽社 1987.2） p2～6 「君が代」訴訟をすすめる会編『資料「君
が代」訴訟』（緑風出版 1999）にも再録
- 暢子さんは熱中症候群 日高暢子著『心をこめてメランコリック』（新宿書房
1988.5） p175～184
- 「文化」の場としての学校を 民主教育をすすめる国民連合編刊『1988民主教育
シンポジウム記録 これからの教育をどうすすめるか』（1988.5） p33～37
p47～50に質問に対する回答，p59～61に「まとめ」の発言あり
- 明日の日本を考える 日高編『明日の日本を考える』（筑摩書房 1988.6）
p261～284
- あとがきに代えて 日高編『明日の日本を考える』（筑摩書房 1988.6） p285
～288
- 共生への模索 水俣大学を作る会編『共生への模索 水俣大学構想』（二期出版
1988.7） p8～14

<鼎談> これからの運動にむけて 香野健一編『原発ありがとう!』(径書房 1988.7) p51～85 鼎談者:小原良子, 柳田耕一

『狭山事件』と『真空地帯』 「野間宏と現代文学を語る」実行委員会編刊『宇宙・生命・人間 野間宏と現代文学を語る』(1988.10) p17～21

教育改革の原理をどこに求めるか——臨教審答申批判 民主教育をすすめる国民連合編刊『第17回民主教育をすすめる国民大集会記録』(1988) p4～11

<記念講演> わたしたちの手で教育改革を 北海道教職員組合編刊『北海道の教育 38 第38次教育研究全道集会(室蘭市)報告』(1989.3) p39～60

あとがきに代えて 日高編『世界のいまを考える』(筑摩書房 1989.7) p303～306

政権交代の論理と社会党支持基盤の移行拡大 日本社会党本部機関紙局出版部編『社会党の現在と未来 『月刊社会党』400号記念シンポジウム全記録』(日本社会党中央本部機関紙局 1989.7 社会新書) p123～136 質問に対する回答がp189～190にあり

老と幼の同時代経験 『長谷川如是閑集 月報3(第3巻付録)』(岩波書店 1989.12) p1～4

1990年代

代表委員あいさつ 民主教育をすすめる国民連合編刊『第19回民主教育をすすめる国民大集会記録』(1990.1) p2～3

あとがきに代えて 日高編『変わる世界を考える』(筑摩書房 1990.7) p321～323

思い出 福武直先生追悼文集刊行会編刊『回想の福武直』(1990.7) p10～12

組織を超える志 「古在由重 人・行動・思想」編集委員会編『古在由重 人・行動・思想』(同時代社 1991.7) p61～64

意見表明権ということ 神奈川県人権センター編刊『ひゅーまん 見る・知る・考える／人権と私たち』(1991) p1

湾岸戦争のなかの日本を考える 日高編『激動する世界と日本を考える』(筑摩書房 1992.3) p191～217

あとがきにかえて 日高編『激動する世界と日本を考える』(筑摩書房 1992.3) p255～259

<記念講演> 「教育研究活動」と人権の思想 日本教職員組合編『日本の教育 第42集 日教組第42次教育研究全国集会(秋田)報告』(一ツ橋書房 1993.7)

p31～47

「憲法九条の存在がもっとも大きな国際貢献である」とためらいながら主張したい 派兵チェック編集委員会編刊『「非武装国家」の現在の意味を考える—「平和基本法」構想を問う』(1993.8) p4～17

自由と平等について 前田俊彦追悼録刊行会編刊『瓢箪まんだら 追悼・前田俊彦』(1994.4) p17～21

「ブックレット」発刊にあたって 神奈川人権センター編刊『多民族・多文化共生 (人権ブックレット 1)』(1994.6) [p1]

<記念講演> 子どもたちの今と未来を明るく 山梨県教職員組合ほか編刊『山梨の教育 第44次教研報告集』(1995.1) p18～32

『日本と中国—若者たちの歴史認識』刊行によせて 日高編『日本と中国 若者たちの歴史認識』(梨の木舎 1995.9) p1～4

刊行にあたって(宮坂広作, 原田三郎共著) 日高ほか監修『教育総研理論講座 1～3』(明石書店 1996.1～6) p3

国際化時代の人権 神奈川人権センター編刊『国際化時代の人権入門』(明石書店発売 1996.2) p7～21 同書改訂版(1997.7)にも収録

「選択のとき」のとき 『丸山真男集 月報6(第8巻付録)』(岩波書店 1996.2) p1～3

戦後五〇年を考える 日高ほか編『21世紀 私たちの選択』(日本評論社 1996.5) p1～14 土井たか子, 加藤周一の対談「いま改めて考えること」の聞き手も日高

人権はみんなの宝物 『人権メッセージ集』(神奈川県人権啓発推進会議 1997.5) p132

初心の創造性 日本教職員組合編刊『日教組50年史』(1997.6) p287

刊行のことば 『野間宏著 完本狭山裁判 内容見本』(藤原書店 [1997]) [p1]

はじめに—「狭山裁判」と野間宏 野間宏著『完本 狭山裁判』(藤原書店 1997.7) p1～4

三つの小話^{こぼなし} 『岩波講座 現代の教育 0 教育への告発』(岩波書店 1998.1) p46～54

フロム Erich Fromm (1900-80)『自由からの逃走』1941年刊 見田宗介ほか編『社会学文献事典』(弘文堂 1998.2) p76～77 日高による要約紹介
来栖のこと 関谷滋ほか編『となりに脱走兵がいた時代 ジャテック, ある市

- 民運動の記録』(思想の科学社 1998.5) p310～320 日高へのインタビューがp298～299にもあり
- <書かれていないページ> について 『久野収集 月報4(第4巻付録)』(岩波書店 1998.8) p1～4
- 「ラディカルな民主主義」について 日高ほか著『同時代人丸山真男を語る』(世織書房 1998.8) p41～92
- 討論 日高ほか著『同時代人丸山真男を語る』(世織書房 1998.8) p93～107
討論者：加藤周一
- 哀悼 川本輝夫さんを偲ぶ会・文集編集スタッフ編『熱意とは事ある毎に意志を表明すること 川本輝夫さん追悼文集』(川本輝夫さんを偲ぶ会 1999.8) p26
- 水俣病四〇年の日本 水俣フォーラム編刊『水俣展 MINAMATA Exhibition』(1999.9) p16～17
- 「21世紀の学校図書館」を推せんします 日本学校図書館教育協議会編『21世紀の学校図書館 情報化・専門司書教諭・学図法改正』(労働教育センター 1999.12) チラシ・2p分

2000年代

- 社会の未来・子どもの未来 国民教育文化総合研究所編刊『教育総研10年史』(2000.11) p4
- 平和への祈り 筑摩書房編集部編『二十一世紀に希望を持つための読書案内』(筑摩書房 2000.12) p110～113

Ⅲ. 雑誌記事

1940年代

- <翻訳> シューマンの洋琴協奏曲イ短調 「音楽公論」 3(9) 1943.9 p56～62
- <翻訳> シューマンの洋琴協奏曲イ短調(続) 「音楽公論」 3(10) 1943.10 p66～86
- 文化の概念をめぐる(一)——文化社会学的一試論 「哲学雑誌」 686 1944.4 p66～86
- 集団の封鎖性と開放性について 「年報社会学研究」 1 1944.6 p273～300
- <新刊批評> 佐藤慶二著『文化社会学』 「年報社会学研究」 1 1944.6 p401～402

- 〈新刊批評〉カール・ヤスペルス著 森昭訳『マックス・ウエーバー』 「年報社会学研究」1 1944.6 p411～413
- 〈新刊批評〉重松俊明著『社会の基本概念』 「年報社会学研究」1 1944.6 p419～420
- 〈新刊批評〉松本潤一郎著『戦時社会文化』 「年報社会学研究」1 1944.6 p434～435
- 〈新刊批評〉松本潤一郎著『社会理論』 「年報社会学研究」1 1944.6 p436～438
- ベルグソンとデモクラシーの心理学 「響宴」2 1946.6 p65～75 『現代イデオロギー』に所収
- インテリゲンチヤ 「真善美」9 1946.9 p36～40 「近代文学」(1947.2・3)の「大知識人論」とは異なる
- 文化の概念をめぐって(二)——文化社会学的一試論 「哲学雑誌」697 1946.12 p78～89
- 大知識人論 「近代文学」2(2) 1947.2・3 p2～12 「知識人の位置について」として『現代イデオロギー』に所収
- アメリカ社会学の近況——American Journal of Sociology 最新号の紹介 「社会学研究」1(1) 1947.4 p139～151
- 〈書評〉岡田謙著『民族学』 「社会学研究」1(1) 1947.4 p154～155
- 〈座談会〉平和革命とインテリゲンチヤ 「近代文学」2(3) 1947.4 p28～45
他の出席者：荒正人ほか5名
- 〈近代文学サロン〉 「近代文学」2(5) 1947.7 p20
- 人間解放の立場と発展段階説 「季刊大学」2 1947.7 p35～39
- 「寛容」の社会意識について 「社会と学校」1(7) 1947.11 p32～35
- 「現代」と「現代人」 「近代文学」2(8) 1947.11 p15～16
- 〈Rhumb〉 「響宴」9 1947.11・12 p64
- 隅々まで読む〈私の読書法〉 「日読ニュース」1 1947.12 p3
- 総合雑誌 〈文化展望〉 「進路」3(1) 1948.1 p37
- 文化変動の理論によせて 「社会圏」2(1) 1948.1 p7～12
- 現代における宗教の位置 「進路」3(2) 1948.2 p8～14
- 雑誌 〈文化展望〉 「進路」3(2) 1948.2 p43
- 社会学 〈学界展望〉 「社会」3(3) 1948.3 p36～38
- 社会時評 「社会圏」2(3) 1948.3 p34～35

春秋の筆法〈時評 社会〉「綜合文化」2(3) 1948.3 p26～27
ことばの魔術〈時評 社会〉「綜合文化」2(4) 1948.4 p40～41
二十世紀論「近代文学」3(4) 1948.4 p1～10『現代イデオロギー』に所収
二つの世界〈時評 社会〉「綜合文化」2(5) 1948.5 p42～43
現代の争いと文学者の良心——政治と文学について「群像」3(6) 1948.6 p5
～13『現代イデオロギー』に所収
文化の概念をめぐる社会学的考察〈哲学研究報告要旨〉「人文」2(2) 1948.9
p119
行動の場に立って——野間宏氏と中村真一郎氏とに寄せる小さな感想「近代
文学」3(11) 1948.11 p11～18 筆者名は篠 久喜
〈座談会〉『インテリゲンチヤ』をめぐって「近代文学」3(12) 1948.12 p27
～37 筆者名は篠 久喜 他の出席者：川口浩ほか4名
人間とかれの自由について——あるいは「主体性論」に対する一つの小さな横
槍「近代文学」4(1) 1949.1 p2～7 筆者名は篠 久喜『現代イデオロ
ギー』に所収
個人と社会について「展望」40 1949.4 p4～14『現代イデオロギー』に所
収
人間の科学——新しい科学の立場 〈廿世紀新思潮講座〉「知性」(国土社)
2(5) 1949.5 p32～38『現代イデオロギー』に所収
職業としての文学「近代文学」4(9・10) 1949.10 p26～28
十八世紀と現代「近代文学」4(12) 1949.12 p2～7『現代イデオロギー』に
所収

1950年代

反抗について「女性線」5(2) 1950.3 p14～18
〈合評会〉キンゼイ報告「人間における男性の性行為」について「中央公論」
65(4) 1950.4 p162～173 他の出席者：猪木正道ほか2名
自然と歴史について——アメリカ独立宣言と共産党宣言「人間」5(4) 1950.4
p26～32『現代イデオロギー』に所収
〈座談会〉現代と知識人「近代文学」5(5) 1950.5 p41～57 他の出席者：
本多秋五ほか6名
〈アンケート〉現代日本の青年に対する緊急な要望3項「群像」5(7) 1950.7
p62

- 人間と社会〈社会学講座〉「社会学評論」 1 1950.7 p74～92
〈アンケート〉あなたはこの夏に何をよみますか…… 「Books」 6 1950.8 p7
〈座談会〉社会学とその周辺 「社会学評論」 3 1950.11 p59～87,93
イデオロギーとパーソナリティ〈世界の学会〉「思想」 319 1951.1 p79～88
『現代イデオロギー』に所収
〈書評〉カミュ著『ペスト』 「近代文学」 6(1) 1951.1 p81～82
イデオロギーとパーソナリティ 「哲学雑誌」 66(710) 1951.2 p126～127,132
〈座談会〉政治と文学 「近代文学」 6(3) 1951.3 p1～18 他の出席者：埴谷
雄高ほか7名
〈座談会〉愛国心の検討——とくに平和の問題との関連において 「日本評論」
26(4) 1951.4 p89～102 他の出席者：柳田謙十郎ほか3名
〈書評〉柳瀬襄爾著『文化人類学』 「社会学評論」 2(1) 1951.5 p103～104
ジャーナリズムの奇蹟 「人間」 6(6) 1951.6 p76～78
新聞と読者の要求 「思想」 324 1951.6 p6～9
プロポーシヨンの感覚〈アンケート 大新聞に与ふ〉「展望」 66 1951.6 p52
～53
展望 「展望」 67 1951.7 p108～111
〈アンケート〉我が文学生活 「近代文学」 6(5) 1951.8 p106
一地方都市における新聞の機能——アメリカの場合 「社会学評論」 6 1951.8
p8～14
竹山道雄氏への手紙——大晦日の午後のこと〈戦後作家論 10〉 「近代文学」
6(5) 1951.8 p24～25
講話に対する意見・批判・希望 「世界」 70 1951.10 p186～187
〈鼎談〉社会科学者の社会科批判 「教育」 3 1952.1 p39～49 鼎談者：遠山
茂樹、大田堯
新聞における合理と非合理 「東京大学新聞研究所紀要」 1 1952.[3] p46～53
〈対談〉ファシズムの心理——E.フロム『自由からの逃走』〈書評〉 「世界」
75 1952.3 p123～132 対談者：清水幾太郎
農村における新聞のよまれかた——その理解の程度について 「新聞学評論」
1 1952.3 p130～139 同内容のものが短い「討論部分」を付して「人類科学」
(1952.5)にも掲載
社会学の現代的課題——一つの覚書き 「一橋論叢」 27(5) 1952.5 p36～46
〈同人雑記〉「近代文学」 7(7) 1952.7 p58

- 人間改造と表現能力——抑圧された意識とその解放 「教育」 10 1952.8 p21
～27
- 総選挙に対する意見・批判・希望 「世界」 82 1952.10 p193～194
- 三大新聞 報道の自由は守られているか(城戸又一ほか共著) 「改造」 33(16)
1952.11 p190～205
- ファシズムの社会心理 「思想」 341 1952.11 p47～55 『現代イデオロギー』
に所収
- マス・コミュニケーションの力〈特集・日本の診断——総選挙の結果から〉
「群像」 7(12) 1952.12 p159
- とらわれの町〈談話室〉 「世界」 87 1953.3 p135～136
- 「一つの意見」ということ 「近代文学」 8(4) 1953.4 p54～56
- 文芸時評(久保田正文ほか共著) 「近代文学」 8(4) 1953.4 p68～71
- 「わかりませんグループ」について 「婦人公論」 38(4) 1953.4 p69～75
- 読まねばならぬ本百種(植村鷹千代ほか共著) 「婦人公論」 38(5) 1953.4 臨時
増刊 p167～192
- 平和の維持に関する意見・批判・希望 「世界」 89 1953.5 p143～144
- 文芸時評(平野謙ほか共著) 「近代文学」 8(6) 1953.6 p92～96
- 〈共同研究〉歪められた文化環境と青年 「改造」 34(8) 1953.7 p42～51 他
の参加者：伊藤整ほか4名
- 文芸時評(荒正人ほか共著) 「近代文学」 8(7) 1953.7 p89～93
- 文芸時評(久保田正文ほか共著) 「近代文学」 8(8) 1953.8 p99～102
- 笑うものと笑われるもの〈時評 そのときどき〉 「世界」 92 1953.8 p40～
41
- かたき役と飼い犬〈時評 そのときどき〉 「世界」 93 1953.9 p51～53
- 広場日記 「群像」 8(10) 1953.9 p206～212
- 文芸時評(本多秋五ほか共著) 「近代文学」 8(9) 1953.9 p94～99
- 日本の知性の非生産性——思想は民衆から生命を得る〈知性論争 第2回〉
「改造」 34(12) 1953.10 p112～117
- 文芸時評(荒正人ほか共著) 「近代文学」 8(10) 1953.10 p147～152
- 〈座談会〉帰郷運動——新しい学生運動 「中央公論」 68(12) 1953.11 p146
～153 他の出席者：北通文ほか7名
- アリバイについて〈時評 そのときどき〉 「世界」 95 1953.12 p141～142
- 〈書評〉伊藤整著『火の鳥』 「婦人公論」 39(2) 1954.2 p211～212

- 文芸時評(本多秋五ほか共著) 「近代文学」 9(2) 1954.2 p119～122
 〈座談会〉新しい女性への期待 「婦人公論」 39(3) 1954.3 p96～101 他の
 出席者：串田孫一ほか2名
- 文芸時評(荒正人ほか共著) 「近代文学」 9(3) 1954.3 p117～120
- 文芸時評(山室静ほか共著) 「近代文学」 9(4) 1954.4 p121～127
- 〈書評〉竹内好著『国民文学論』 「文学」 22(5) 1954.5 p98～100
- 〈対談〉自殺はあなたの心にも〈風俗時評〉「思想の科学(第3次)」 33 1954.5
 p67～74 対談者：井村恒郎
- 〈座談会〉どこに道を拓くか——今日の学生と学生生活 「世界」 102 1954.6
 p141～154 他の出席者：杉捷夫ほか3名
- 《東京》新しい芽生え 〈一九五四のメーデーをみる〉「世界」 103 1954.7
 p121～126
- 渦まく悪気流 〈社会時評〉(小島信男ほか共著)「新日本文学」 85 1954.8
 p146～150
- 〈講演・討論〉生活綴方運動の問題点「思想の科学(第3次)」 36 1954.8 p26
 ～29 他の参加者：上原専録ほか14名 日高は「討論」に参加
- あたらしい不安 あたらしい希望 〈社会時評〉(小沢信男ほか共著)「新日本文
 学」 86 1954.9 p130～135
- 強風圏・微風圏 〈社会時評〉(小沢信男ほか共著) 「新日本文学」 87
 1954.10 p116～121
- フロイドとフロム 〈何を読むべきか〉 「知性」 1(4) 1954.11 p140～142
- 〈対談〉読者の問題をめぐって 「思想の科学(第3次)」 40 1954.12 p45～50
 対談者：鶴見和子
- 〈討議録 2〉政治指導を生かす力 「世界」 108 1954.12 p87～99 他の参
 加者：辻清明ほか6名
- 〈書評〉寺島洋之助編『入道雲』 「教育」 42 1955.1 p84～86
- 政治的無関心について——とくにインテリのばあい 「思想の科学(第3次)」
 41 1955.1 p36～44
- 言論の自由とマス・コミ 〈今日の文化の問題——平和問題談話会文化部会報
 告〉「世界」 110 1955.2 p170～178
- 〈書評〉竹内好著『知識人の課題』 「婦人公論」 40(2) 1955.2 p274
- 文芸時評 「知性」 2(2) 1955.2 p62
- 教育の組合意識(佐々木三男共著) 「知性」 2(3) 1955.3 p38～43

- 労働者とマス・コミュニケーション過程（高橋徹ほか共著）「東京大学新聞研究所紀要」4 1955.3 p65～108
- 労働者とマス・コミュニケーションとの結びつき——一調査報告 「思想」370 1955.4 p28～39
- 交際〈新生活三カ年計画〉 「知性」2(5) 1955.5 p55～57
- 心にしみ通る本——「わたくしたちの憲法」について 「書斎の窓」23 1955.5 p9～12
- 長野県教研集会に参加して 「新しい教室」10(5) 1955.5 p2～4 「清水を集めて水脈へ」として『日高六郎教育論集』に所収
- 共同の了解点を出したい〈第四集『日本の教育』を読んで〉 「教育評論」4(5) 1955.6 p71～72
- 労働者の政治意識（高橋徹ほか共著）「思想」373 1955.7 p37～56
- 〈座談会〉労働者の学習活動（1）「教育」48 1955.7 p24～37 他の出席者：北川隆吉ほか多数
- 〈座談会〉労働者の学習活動（2）「教育」49 1955.8 p26～35 他の出席者：北川隆吉ほか多数
- 〈共同研究〉社会科改定における平和教育の問題 「教育評論」4(6) 1955.8 p109～126 他の参加者：勝田守一ほか3名
- はっきりしたねらいと実践〈第4次のレポートから〉 「教育評論」4(7) 1955.9 p64～67
- マス・コミュニケーションの効果〈教育と新聞〉「新聞研究」50 1955.9 p19～22
- 〈座談会〉私たちは自分自身を変革する——銀行員のサークル活動 「知性」2(11) 1955.11 p43～47 他の出席者：鶴見和子ほか5名
- ネオ・ファシズムに抗するために——協力の現実的基盤について 「知性」2(11) 1955.11 p88～92
- 異なった学問的立場の協力——社会学の場合（上）「思想」380 1956.2 p1～8 『現代イデオロギー』に所収
- 客観的条件の共通の理解〈知識人の協力をめぐって〉 「知性」3(3) 1956.3 p156～157 小松攝郎編『日本の知識人』（法律文化社 1957）に所収
- 教研大会の問題点〈特集 松山の教研集会に出席して〉「思想の科学会報」13 1956.3 p7～8
- 文芸時評 「知性」3(3) 1956.3 p119

- 学生生活について〈「集団調査 学窓を巣立つ人々 その希望と現実」回答をよんで〉「婦人公論」41(4) 1956.4 p90～92
- 異なった学問的立場の協力——社会学の場合(下)「思想」382 1956.4 p14～27 『現代イデオロギー』に所収
- 文芸時評 「知性」3(4) 1956.4 p30
- 〈座談会〉時流裁断(5)「群像」11(5) 1956.5 p141～153 他の出席者：木下順二，清水幾太郎
- 〈座談会〉時流裁断(6)「群像」11(6) 1956.6 p112～124 他の出席者：木下順二，清水幾太郎
- 〈インタビュー〉教育をささえる基盤をきずく——むすびつきをどう深めるか「教育技術」11(4) 1956.7 p19～24
- サークルのおいたち〈サークル時評 第1回〉(黒田三郎ほか共著)「知性」3(8) 1956.7 p208～213
- 〈思想の言葉〉「思想」386 1956.8 p62～63 筆署名：M.M.R 「国民感情と戦争責任」として『現代イデオロギー』に所収
- 戦争体験と戦後体験——世代のなかの断絶と連続「世界」128 1956.8 p50～56 『現代イデオロギー』に所収
- 前に進む女性たち——回答をよんで〈「集団調査 専門職をもつ女性たちの生き甲斐」〉「婦人公論」41(8) 1956.8 p212～216
- 〈鼎談〉青少年の文化財はこれでいいのか「青少年問題」3(9) 1956.9 p18～26 鼎談者：志鎌八千代，五島貞次
- 個人と社会——巨大なものとの微小なもの「婦人公論」41(10) 1956.10 p376～380
- 〈座談会〉知識人というもの——自由の問題を中心にして「世界」130 1956.10 p208～222 他の出席者：南博ほか2名 小松攝郎編『日本の知識人』(法律文化社 1957)に所収
- 声明『日本の社会』執筆辞退について(長州一二共著)「教育評論」5(10) 1956.10 p67～69 『日高六郎教育論集』に所収
- 教科書を歪めるものはだれか——文部省の見解と責任を問う「中央公論」71(12) 1956.11 p60～70 『日高六郎教育論集』に所収
- 仲間のなかの恋愛「知性」3(13) 1956.11 p108～109
- 〈座談会〉集団調査にみる女性の新しい芽生え「婦人公論」41(12) 1956.12 p248～255 他の出席者：鶴見和子ほか4名

- 〈思想の言葉〉「思想」390 1956.12 p70～71 筆者名：M.M.R 「ハンガリーの動乱」として『現代イデオロギー』に所収
- 教科書を守る力 「歴史地理教育」23 1957.1 p4～9
- 〈書評〉『現代ヒューマニズム講座 第1巻』 「近代文学」12(1) 1957.1 p96
- 〈対談〉社会党〈日本の現実1〉「群像」12(1) 1957.1 p222～236 対談者：河野密
- 〈座談会〉第六次教研全国集会にのぞむもの「教育評論」6(2) 1957.2 p10～24 他の出席者：阿部知二ほか2名
- 流血の記録 砂川〈今月のスクリーン〉「知性」4(2) 1957.2 p150
- 「F項ページ」の誤解はとけない 「中央公論」72(3) 1957.3 p233～239
- 大衆社会におけるマス・コミュニケーションの問題 『東京大学新聞研究所紀要』6 1957.3 p117～127
- 〈対談〉自民党〈日本の現実3〉「群像」12(3) 1957.3 p164～176 対談者：三木武夫
- 第六次教育研究全国集会を終えて 「教育評論」6(3) 1957.3 p1
- 〈アンケート〉偏見について思うこと 「世界」136 1957.4 p317～318
- 〈書評〉チェディ・ジャカン著『禁じられた自由』 「知性」4(4) 1957.4 p192～193
- 〈対談〉学術会議〈日本の現実5〉「群像」12(5) 1957.5 p164～176 対談者：茅誠司
- 〈対談〉教研活動と組合運動 「教育評論」6(6) 1957.6 p94～108 対談者：国分一太郎
- 〈対談〉総評〈日本の現実7〉「群像」12(7) 1957.7 p184～198 対談者：岩井章
- 城戸浩太郎のこと 「知性」4(5) 1957.8 p140～141
- 〈座談会〉オートメーションと人間生活 「教育評論」6(8) 1957.8 p36～48 他の出席者：梅根悟ほか2名
- 雑誌「童話」をまねたこと 「日本児童文学」3(7) 1957.8 p62～64
- 〈思想のことば〉「思想」398 1957.8 p104～105 筆者名：M.M.R
- 戦後体験の証言——「傷は癒えたか」を読んで 「世界」140 1957.8 p214～217
- 〈対談〉共産党〈日本の現実9〉「群像」12(9) 1957.9 p148～162 対談者：志賀義雄

日本の教育と知識人——ジャンセン教授の論文について 「世界」 142 1957.10
p166～170

〈座談会〉道徳教育——何が問題か 「世界」 143 1957.11 p50～67 他の出席者：伊藤昇ほか3名

〈対談〉〈日本の現実 11〉「群像」 12(11) 1957.11 p135～149 対談者：加藤周一

〈思想の言葉〉「思想」 402 1957.12 p104～105 筆署名：M.M.R 「精神と人間」として『現代イデオロギー』に所収

イデオロギー・社会心理・社会的性格 「思想」 403 1958.1 p57～68 『現代イデオロギー』に所収

〈討論〉人間の回復〈特集・技術と人間と体制〉「世界」 145 1958.1 p90～115 他の参加者：星野芳郎ほか2名

〈書評〉石垣綾子著『近代日本恋愛史』 「日本」 1(2) 1958.2 p199

〈書評〉松成・田沼他著『日本のサラリーマン』 「銀行労働調査時報」 86 1958.2 p28～29

「教育研究活動」の現状と問題点〈時評〉「思想」 405 1958.3 p124～132 「具体的経験と理論的抽象」として『日高六郎教育論集』に所収

〈書評〉加瀬俊一著『外交官』 「日本」 1(3) 1958.3 p199

新聞時評 「中央公論」 73(3) 1958.3 p55

新しい、本の読みかた〈読書の愉しみ〉「日本」 1(4) 1958.4

〈座談会〉新しい人間関係の創造 「教育評論」 7(6) 1958.4 p105～118 他の出席者：上原専録ほか2名

新聞時評 「中央公論」 73(4) 1958.4 p137

〈座談会〉社会学辞典を語る 「書齋の窓」 56 1958.5 p4～14 他の出席者：福武直ほか2名

〈思想の言葉〉「思想」 408 1958.6 p40～41 筆署名：M.M.R

〈座談会〉政治と教師 「教育評論」 7(9) 1958.7 p68～78 他の出席者：宮原誠一ほか2名

「実感」と「理論」について——特集「八月十五日」を読んで 「世界」 152 1958.8 p254～260 『現代イデオロギー』に所収

〈座談会〉思想の科学研究会の性格と方向について 「思想の科学会報」 22 1958.9 p1～52 他の出席者：永井道雄ほか多数

新聞のあるコラムについて 「群像」 13(9) 1958.9 p146～151

- 闘争力・その今日的課題〈シンポジウム・日教組の闘争力〉「教育評論」76
1958.10 p42～53
- 若い世代の道德について——パートタイム道德と24時間道德〈読切連載教養講座6〉「教育手帖」88 1958.10 p34～37 『日高六郎教育論集』に所収
〈調査報告〉勤評問題を現地にみる——その社会的背景と本質(小松茂夫ほか共著)「中央公論」73(11) 1958.11 p244～266
- テレビジョン研究の一つの前提 「思想」413 1958.11 p23～29
〈アンケート〉警職法改正と戦前の警察「群像」13(12) 1958.12 p153
警職法「改正」反対に立ち上る国民 「世界」156 1958.12 p19～26
交流のために無数の土管を! 「国民文化」2 1958.12 p16
〈思想の言葉〉「思想」414 1958.12 p58～59 筆者名:M.M.R
〈座談会〉統一の芽をどう育てるか——警職法反対運動の経験のなかから
「世界」157 1959.1 p225～241 他の出席者:石田雄ほか4名
大衆運動について〈ゼミナール・私たちの政治1〉「婦人公論」44(1)
1959.1 p170～180 他の出席者:丸山真男ほか5名
日教組第八次教育研究全国集会の成果をみる 「教師の友」67 1959.1・2
p31
〈座談会〉サークル運動の昨日・今日・明日——演劇サークルを中心に 「国民文化」3 1959.2 p2～6 他の出席者:木下順二ほか3名
〈座談会〉試験地獄〈ゼミナール・私たちの政治2〉「婦人公論」44(2) 1959.2
p176～186 他の出席者:白井吉見ほか4名
〈シンポジウム〉「新聞の中立性」について「新聞学評論」9 1959.3 p1～26 他の参加者:池松文雄ほか2名
大衆論の周辺——知識人と大衆の対立について「民話」2(3) 1959.3
p2～10 『現代イデオロギー』に所収
「第八次教育研究全国集会」をめぐる問題点〈時評〉「思想」417 1959.3 p130
～144 「多様ななかの自発性」として『日高六郎教育論集』に所収
第八次教育研究の成果「教育評論」81 1959.3 p48～51 『日本の教育 第八集』(1959)掲載のものとはほぼ同じ内容
マス・コミュニケーション〈ゼミナール・私たちの政治3〉「婦人公論」
44(3) 1959.3 p180～188 他の出席者:荒垣秀雄ほか4名
〈座談会〉「近代主義」をめぐって「教育評論」82 1959.4 p32～43 他の出席者:海後勝雄ほか2名

- 〈思想の言葉〉「思想」418 1959.4 p88～89 筆者名：M.M.R 「アジア・ヨーロッパ・日本」として『現代イデオロギー』に所収
- 〈書評〉ウィリアム・H.ホワイト著『組織のなかの人間』 「朝日ジャーナル」1(6) 1959.4.19 p70～71
- 大衆論の周辺——サークルの問題をめぐって 『民話』2(4) 1959.4 p2～11 『現代イデオロギー』に所収
- 地方選挙〈ゼミナール・私たちの政治4〉「婦人公論」14(4) 1959.4 p142～150 他の出席者：辻清明ほか4名
- 編集後記「思想の科学(第4次)」48 1959.4 p96
- 〈問題提起〉王国主義の打破と計画性を〈サークル運動の質的転換をめざして文化活動地方代表者会議開く〉「国民文化」4 1959.4 p2～3 「文学」(1959.6)に再録
- 安保条約〈ゼミナール・私たちの政治5〉「婦人公論」44(5) 1959.5 p89～97 他の出席者：入江啓四郎ほか4名
- マルクス主義者への二、三の提案 「現代の理論」1 1959.5 p50～57 『現代イデオロギー』に所収
- 憲法第九条〈ゼミナール・私たちの政治6〉「婦人公論」44(6) 1959.6 p98～106 他の出席者：鶴飼信成ほか4名
- 「組織の問題」について 「思想」420 1959.6 p2～3
- 〈共同討議〉職場教研の障害とその克服のために 「教育」102 1959.7 p32～34 他の参加者：大槻健ほか2名
- 皇太子結婚と子どもたち〈笹目だより1〉「月刊教師生活」1 1959.7 p10～11
- 作らせるもの 作るもの——岐路に立つマス・コミ 「世界」163 1959.7 p158～166
- 天皇制〈ゼミナール・私たちの政治7〉「婦人公論」44(9) 1959.7 p90～99 他の出席者：宮沢俊義ほか2名
- 現代における組織の問題(上) 「思想」422 1959.8 p36～42
- 〈座談会〉サークルの諸問題——サークル問題研究会をはじめるにあたって 「国民文化」6 1959.8 p4～8 他の出席者：関根弘ほか5名
- 女性と戦争体験〈ゼミナール・私たちの政治8〉「婦人公論」44(11) 1959.8 p142～150 他の出席者：戒能通孝ほか5名
- 〈対談〉今日の教組運動に要請されるもの——日教組第21回定期大会をめぐっ

て 「教育評論」 86 1959.8 p28～33 対談者：森田俊男
教育と政治〈ゼミナール・私たちの政治 9〉「婦人公論」 44(12) 1959.9
p128～136 他の出席者：桑原武夫，金沢嘉一
サークル的姿勢をささえるものは何か 「作文と教育」 10(10) 1959.9 p28～
39 『日高六郎教育論集』に所収
〈書評〉パッカード著『地位を求める人々』(洋書)「朝日ジャーナル」 1(27)
1959.9.13 p76～77
ふるさとの歌〈笹目だより 2〉「月刊教師生活」 2 1959.9 p7
〈共同討議〉政府の安保改定構想を批判する 「世界」 166 1959.10 p15～42
他の参加者：荒瀬豊ほか多数 同誌・477号(1985.7)に再録
サークル的姿勢について 「文学」 27(10) 1959.10 p1～5 「サークル的姿勢」
として『現代イデオロギー』に所収
そのうそ，ほんと？ 〈笹目だより 3〉「月刊教師生活」 3 1959.10 p10
日本の外交〈ゼミナール・私たちの政治 10〉「婦人公論」 44(13) 1959.10
p58～65 他の出席者：森恭三，加藤周一
『人間と社会 人間の研究Ⅲ』〈わが著書を語る〉「Books」 114 1959.10 p33
～34
放送“会社員”のニヒリズム—— 一編集者への手紙 「CBCレポート」 3(10)
1959.10 p28～30
官僚と「良心」〈笹目だより 4〉「月刊教師生活」 4 1959.11 p11
労働問題〈ゼミナール・私たちの政治 11〉「婦人公論」 44(14) 1959.11
p146～154 他の出席者：大河内一男，松岡三郎
高姿勢と低姿勢〈笹目だより 5〉「月刊教師生活」 5 1959.12 p10
〈思想の言葉〉「思想」 426 1959.12 p100～101 筆者名：M.M.R 「運動の
なかのニヒリズム」として『現代イデオロギー』に所収
世論〈ゼミナール・私たちの政治 12〉「婦人公論」 44(15) 1959.12 p78～
85 他の出席者：新井達夫，清水幾太郎

1960年代

第九次教研全国集会を前にして考えてもらいたいこと 「教育評論」 91 1960.1
p73～75 「強さということ，弱さということ」として『日高六郎教育論集』
に所収
〈共同討議〉ふたたび安保改定について——第二回研究報告 「世界」 170

- 1960.2 p37～91 他の参加者：垣花秀武ほか多数 同誌・477号(1985.7)に「第一部」を再録
- 現代における組織の問題(下)「思想」428 1960.2 p89～97
- サークル〈ゼミナール・私たちの社会2〉「婦人公論」45(2)1960.2 p110～118 他の出席者：国分一太郎ほか3名
- 映画「荷車の歌」「月刊教師生活」8 1960.3 p11
- 〈書評〉ロマン・ローラン著『社会評論集』「みすず」12 1960.3 p45～46
- 合同教研全国集会に参加して——ある若い教師への手紙〈時評〉「思想」430 1960.4 p121～131 「国民教育運動への展望」として『日高六郎教育論集』に所収
- 〈書評〉福武直編『日本人の社会意識』「朝日ジャーナル」2(21)1960.5.22 p74～75
- 〈対談〉われわれは何をなし得るか「世界」173 1960.5 p41～56 対談者：久野収
- 働く女性の権利〈ゼミナール・私たちの社会5〉「婦人公論」45(5)1960.5 p96～104 他の出席者：田中寿美子ほか3名
- 安保改定と民主主義〈ゼミナール・私たちの社会6〉「婦人公論」45(6)1960.6 p112～120 他の出席者：松岡洋子ほか3名
- 〈座談会〉大衆行動と岸政権「朝日ジャーナル」2(25)1960.6.19 p7～14 他の出席者：水口宏三ほか2名
- 〈思想の言葉〉「思想」432 1960.6 p58～59 筆署名：M.M.R
- 五月二〇日から六月一九日まで——〈民主主義擁護闘争〉の問題点〈時評〉「思想」433 1960.7 p129～136 「五月一九日から六月一九日まで」として『現代イデオロギー』に所収
- 〈シンポジウム〉形なき組織の中で「思想の科学(第4次)」63 1960.7 p75～89 他の参加者：高島通敏ほか3名
- 安保阻止闘争と日本の民主主義「教育評論」99 1960.8 p18～24 「安保闘争と日本の民主主義」として『人間の復権と解放』に所収
- 安保闘争と教育の問題〈今月の研究テーマ〉「月刊教師生活」11 1960.8 p1～3 『日高六郎教育論集』に所収
- 運動における多様性と統一性について「思想」434 1960.8 p67～72 「運動における多様性と統一性」として『現代イデオロギー』に所収
- 〈共同討議〉現在の政治状況——何を為すべきか「世界」176 1960.8 p217

- ～259 他の参加者：隅谷三喜男ほか6名
〈共同討議〉これからの政治的争点「中央公論」75(9)1960.8 p80～97 他の参加者：阪本楠彦ほか3名
新聞の健忘症〈資料 最近の新聞批判 新聞を読んで〉「新聞研究」109 1960.8 p57
暴力について「みすず」18 1960.9 p22～25, 21
五・一九以後の大衆運動——人民主権の思想を自らのものに「法学セミナー」55 1960.10 p2～9
たった一人から「声なき声のたより」15 1960.10 p10～11
教組と国民運動「教育評論」103 1960.11 臨時増刊 p124～126
〈座談会〉農村をどう変えるか——総選挙を前にして「世界」179 1960.11 p65～81 他の出席者：中野芳彦、堀越久甫
〈思想の言葉〉「思想」438 1960.12 p72～73 筆者名：M.M.R
旧軍隊と労働組合〈同時代観〉「思想の科学(第4次)」69 1961.1 p32～33
言論の自由と暴力について「東京大学新聞研究所紀要」9 1961.2 p1～15
第十次教研全国集会に期待すること「教育評論」106 1961.2 p59～62
〈座談会〉国民運動における教研と教師——第10次教研全国集会と第五回国民文化全国集会に参加して「教育評論」107 1961.3 p30～38 他の出席者：稲葉三千男ほか2名
健忘症〈同時代観〉「思想の科学(第4次)」72 1961.4 p60～61
言論を護るもの侵すもの「世界」184 1961.4 p76～83
国民教育論をめぐって「思想」442 1961.4 p1～8 『日高六郎教育論集』に所収
〈座談会〉現状をどう見るか——表現の自由とテロリズム「新日本文学」16(4)1961.4 p112～123 他の出席者：大江健三郎ほか2名
〈書評〉学生運動研究会著『現代の学生運動』「朝日ジャーナル」3(16)1961.4.16 p53
ずれてゆく希望——国民教育を守ることについて「子どものしあわせ」1961.4 p6～8
〈思想の言葉〉「思想」443 1961.5 p94～95 筆者名：M.M.R
島小の卒業式「月刊教師生活」20 1961.5 p11～12
〈書評〉憲法問題研究会編『憲法を生かすもの』「新週刊」1 1961.5.11 p78
共産党綱領草案を読んだ感想「経済評論」10(7)1961.6 臨時増刊 p114～

- 〈座談会〉革新運動と日共第8回大会「朝日ジャーナル」3(30) 1961.7.23 p6
～13 他の出席者：佐藤昇ほか2名
- 〈座談会〉第十一次教研をどう前進させたらよいか——20次までの基本路線に
位置づける努力を「教育評論」113 1961.7 p20～30 他の出席者：持田
栄一ほか2名
- 〈座談会〉天皇 ナショナリズム 伝統「別冊新日本文学」1 1961.7 p256
～272 他の出席者：宮本常一ほか2名
- 〈対談〉国民体験は生きている——安保闘争一年後の課題「世界」187 1961.7
p42～58 対談者：清水慎三
- 〈座談会〉「長い夜の記録」をめぐって——紡績の娘たちと若い俳優たちとの交
流から「国民文化」21 1961.8 p7～11 他の出席者：沢井余四郎ほか多
数
- さめた二十度主義者〈同時代観〉「思想の科学(第4次)」76 1961.8 p54～
55
- 第5回自治研全国集會に期待する「月刊自治研」3(9) 1961.9 p74～76
農民のそろばん——岩波新書『海に見える村の一年』を読んで「図書」145
1961.9 p22～23
- 非武装中立「思想」447 1961.9 p12～17
- 国民運動と組織「世界」191 1961.11 p163～173
- 〈思想の言葉〉「思想」449 1961.11 p66～67 筆者名：M.M.R 「核の問題
——その考え方」として『戦後思想と歴史の体験』に所収
- 〈シンポジウム〉変革の主体について「思想の科学会報」31 1961.11 p1～
21 他の参加者：荒瀬豊ほか多数
- 党派への所属と大衆組織「新日本文学」16(11) 1961.11 p159～162
- 灰色のなかのバラ色とバラ色のなかの灰色と「国民文化」24 1961.11 p12
～13
- 部分認識の責任〈同時代観〉「思想の科学(第4次)」79 1961.11 p60～61
- 二つの会議を終って「国民文化」25 1961.12 p21～23
- 無欲顔貌の眼〈巻頭言〉「わだつみの声」11 1961.12 p2
- 国民文化会議への期待〈春夏秋冬 文化〉「中央公論」77(1) 1962.1 p71
- 〈座談会〉教研全国集會の課題「教育評論」120 1962.1 p52～61 他の出席
者：森田俊男ほか3名

- 〈座談会〉一九六二年を迎えて——状況をつきやぶるもの・抵抗の原点をもとめて「国民文化」26 1962.1 p4～15 他の出席者：上原専録，木下順二
- 言論の自由について——日本における報道機関の問題点 「日本学術会議月報」3(2) 1962.2 p3～5
- 思想運動の条件 —— 「思想の科学」事件からなにを学ぶか 「国民文化」30 1962.5 p9～13
- 『思想の科学』天皇制特集号について——その廃棄から復刊まで〈時評〉「思想」455 1962.5 p138～144
- 歴史学の出発はここから 「図書」153 1962.5 piii 『岩波講座 日本歴史』の推せん文
- 「社会運動」のシンポジウムに寄せて 「社会学評論」49 1962.6 p2～4
- 生活記録運動と私（1）「日本の記録」3 1962.6 p28～30
- 〈対談〉安保二年目の思想状況 「現代の眼」3(6) 1962.6 p16～29 対談者：竹内好 『人間の復権と解放』に所収
- 執筆者＋印刷工の交流誌〈非マス・コミュニケーション時評〉「思想の科学（第5次）」84 1962.7 p68～71
- 現代人の百科全書——岩波新書と私 「図書」156 1962.8 pviii～ix
- 国民文化のヴィジョンをもとめて〈全体集会にたいする報告1〉「関西国民文化」32 1962.8・9 [p6～10]
- 大衆運動の思想 「新日本文学」17(8) 1962.8 p140～145
- 人間復権の主張 「世界」200 1962.8 p276～282 読者による「私の戦後記録」を読んでの感想
- 〈インタビュー〉転形期のジャーナリズム——変質過程の中から芽生えるもの 「現代の眼」3(9) 1962.9 p36～43 聞き手：安田武
- 民主主義運動をめぐるひとつの感想 「月刊労働問題」52 1962.9 p79～82
- 現代における自己疎外 「思想」460 1962.10 p2～8
- この豊かな人間性／この強い精神力——グラムシの「獄中からの手紙」を読んで 「学習のひろば」8 1962.10 p31～34
- 〈書評〉ノーマン・ジェイコブス編 NHK放送学研究室訳『千万人の文化』 「新聞学評論」12 1962.10 p97～102
- 〈座談会〉文化と教育のあいだ——隔絶をもたらしたものはなにか 「教育評論」133 1962.11 p46～53 他の出席者：木下順二ほか3名
- 〈座談会〉遠くの危機にヒヤリ 近くの危機にボンヤリ——キューバ・沖縄・

- 日韓会談の問題点 「国民文化」 37 1962.12 p2～13 他の出席者：伊藤成彦ほか3名
- 〈座談会〉本と論文，ことしの成果——高度成長にとり残された論壇（上）
「エコノミスト」 40 (51) 1962.12.18 p62～67 他の出席者：伊藤善市，長洲一二
- 〈座談会〉本と論文，ことしの成果——高度成長にとり残された論壇（下）
「エコノミスト」 40 (52) 1962.12.25 p62～67 他の出席者：伊藤善市，長洲一二
- 〈討議〉 '62年の思想——吉本隆明著『擬生の終焉』をめぐって 「思想の科学（第5次）」 89 1962.12 p70～80 他の参加者：竹内好ほか2名
- 平和運動への二，三の提言 「月刊総評」 68 1962.12 p63～69
- 〈思想の言葉〉「思想」 465 1963.3 p30～31
- 愚鈍なる善意 「思想の科学会報」 39 1963.4 p2～3
- 平和運動を国民の手に 「エコノミスト」 41 (14) 1963.4.9 p32～36 『日本原爆論大系 4』（日本図書センター 1999）に所収
- 〈書評〉田中耕太郎ほか著『大学の自治』滝川幸辰著『激流』家永三郎著『大学の自由の歴史』 「朝日ジャーナル」 5 (17) 1963.4.28 p58～59
- この状況をどうする 〈特集 十六年目の平和憲法〉 「現代の眼」 4 (5) 1963.5 p16～23
- 知識人の責任と連帯 「世界」 209 1963.5 p186～194
- 〈座談会〉連帯の条件 〈特集 現代知識人の課題〉 「現代の眼」 4 (6) 1963.6 p54～66 他の出席者：安部公房ほか2名
- 〈座談会〉教研のみのりを豊かにするために 「教育評論」 143 1963.7 臨時増刊 p92～100 他の出席者：漆田俊男ほか4名
- 〈座談会〉労働組合の文化活動——その現実から未来像をさぐる 「国民文化」 44 1963.7 p2～8 他の出席者：漆崎達郎ほか3名
- 平和運動への期待——原水協の活動再開に寄せて 「世界」 212 1963.8 p52～57 『人間の復権と解放』に所収
- 原水禁世界大会を終って 〈時評〉 「思想」 472 1963.10 p128～136
- 〈座談会〉原水禁運動の回顧と展望 「月刊総評」 78 1963.10 p8～24, 92 他の出席者：岩井章ほか3名
- 〈シンポジウム〉放送研究の進め方 「新聞学評論」 13 1963.10 p1～36 他の参加者：後藤和彦ほか13名

- 「退廃」を生みだすもの 「エコノミスト」 41(号数なし) 1963.10.10(秋季別冊) p100～105
- 〈討論〉原水禁運動の理念と現実——第九回原水禁世界大会を終って 「世界」 214 1963.10 p62～79 他の参加者：安部一成ほか2名
- 〈座談会〉戦後思想の断面 「世代」 1(8) 1963.11 p44～64 他の出席者：小田切秀雄ほか4名
- 〈座談会〉平和運動の理念と現実 「新日本文学」 18(11) 1963.11 p110～123 他の出席者：夏堀正元ほか3名
- 〈座談会〉本と論文、ことしの思想的風土——激動期に苦悩する論壇 「エコノミスト」 41(51) 1963.12.24 p62～67 他の出席者：長洲一二ほか2名
- 〈座談会〉欲望の“開発”と“変革” 「現代の眼」 4(12) 1963.12 p62～72 他の出席者：中村雄一郎ほか2名
- 〈書評〉S. バーバー著 青井和夫訳編『小集団と政治行動』 「朝日ジャーナル」 5(52) 1963.12.29 p62～64
- ジャーナリズム研究への注文 「現代ジャーナリズム」 1(1) 1964.1 p2～3
- 全国教研集会への提案 「教育」 166 1964.1 p60～64 「わが内なるものへの目」として『日高六郎教育論集』に所収
- 歯どめについて 〈同時代観〉「思想の科学(第5次)」 102 1964.1 p90～91 『戦後思想と歴史の体験』に所収
- 労働者はいま何を考えているか 「朝日ジャーナル」 6(2) 1964.1.12 p21～25
- 〈対談〉異なる思想の協力と交流 〈現代の対話 2〉 「現代の理論」 2 1964.3 p30～42 対談者：飛鳥井雅道
- 教組運動と国民運動 「教育評論」 154 1964.4 p52～54
- 〈共同討議〉日韓交渉の基本的再検討 「世界」 220 1964.4 p18～58 他の参加者：石川滋ほか多数
- 現在の思想状況と今後の文化運動 「緑と太陽」 12 1964.4 p10～16 北九州国民文化会議発足記念講演要旨
- 〈座談会〉民主主義を守るために——身辺の支配のしくみをさぐる 「エコノミスト」 42(15)(春季別冊) 1964.4.10 p110～118 他の出席者：渋谷利久ほか4名
- いまなにが必要か——思いつきのでない具体的提案 「国民文化」 54 1964.5 p4～5
- 〈座談会〉文学と現代 「新日本文学」 19(5) 1964.5 p98～111 他の出席

- 者：佐々木基一ほか3名
〈思想の言葉〉「思想」481 1964.7 p100～101 「核の問題——その考え方」として『戦後思想と歴史の体験』に所収
書見台の思い出／乱読のすすめ〈読書自由席〉「学習のひろば」29 1964.7 p64
〈対談〉日本思想史における学生運動の位置 「思想の科学(第5次)」108 1964.7 p2～17 対談者：大沢真一郎
〈往復書簡〉文化運動の現実——第七回国民文化全国集会をめぐって(中門勲共著) 「新日本文学」19(8) 1964.8 p166～171
〈座談会〉「最終報告書」の背景(特集 憲法問題の緊急課題)「現代の眼」5(8) 1964.8 p84～103 他の出席者：小林孝輔ほか3名
同人拡大の意味〈『近代文学』の思い出(B)〉 「近代文学」19(3) 1964.8 p107～108
〈対談〉原水禁運動の分裂の中で 「世界」224 1964.9 p100～117 対談者：安部一成 『人間の復権と解放』に所収
文化的・思想的次元での闘い——今後三年間の運動方針について 「国民文化」58 1964.9 p7～9
戦争と学生 「わだつみの声」24 1964.10 p11～13
〈特集 シンポジウム〉平和運動の現状をいかに打開するか 「現代の眼」5(10) 1964.10 p24～82 他の参加者：安部一成ほか8名
国民文化会議の歴史と課題(山部芳秀共著) 「月刊労働問題」78 1964.11 p27～30
〈座談会〉教師像をめぐって 「教育評論」163 1964.11 p47～54 他の出席者：春日正治ほか4名
歴史の教訓と理性の立場 「展望」71 1964.11 p12～33 『戦後思想と歴史の体験』に所収
〈座談会〉現代日本のナショナリズム——民主主義との結合を求めて 「エコノミスト」43(1) 1964.12.29・'65.1.5 p38～48 他の出席者：家永三郎、加藤周一
中国の核実験と全面禁止への道 「世界」228 1964.12 p47～58
〈シンポジウム〉日本の新聞 「新聞学評論」14 1965.3 p70～121 他の参加者：内川芳美ほか9名
〈アンケート〉いま何をすべきか 「世界」234 1965.4 臨時増刊 p84～85

ベトナム戦争に関して

いわゆる青年層の保安化ということ 「月刊社会教育」89 1965.4 p48～53

〈対談〉戦後二〇年を考える——新しい展望を求めて 「国民文化」65 1965.4 p2～13 対談者：野間宏 一部省略して「創造と連帯の条件」として『人間の復権と解放』に所収

《ベトナム侵略反対の夕べ》の結語 六・九国民行動の意味 「国民文化」68 1965.7 p12 や、詳しいものが「新日本文学」(1965.8), 「現代の理論」(同)に掲載

大衆運動の新しい形式——六月九日「ベトナム侵略反対の夕べ」結語 「新日本文学」20(8) 1965.8 p150～151 同内容のものが「現代の理論」(1965.8)にも掲載

〈対談〉日本の平和運動の方向〈戦後二十年の現実と課題 4〉「エコノミスト」43(33) 1965.8.3 p50～59 対談者：不破哲三

〈座談会〉市民運動の公理を求めて——自覚と行動を結ぶもの 「朝日ジャーナル」7(33) 1965.8.8 p12～19 他の出席者：中野好夫ほか3名

〈討論〉ヴェトナム問題と日本の進むべき道 「文芸」4(10) 1965.9増刊 p44～102 他の参加者：坂本義和ほか多数「八・一五記念徹夜討論集会(ティーチ・イン)議事録全文 戦争と平和を考える」の第1部

もう一度質問する 「文芸」4(10) 1965.9増刊 p154～155 八・一五記念徹夜討論集会における質問

一大饗宴を——〈国民文化月間〉をむかえて 「国民文化」71 1965.10 p2～3

〈インタビュー〉大衆運動の統一はいかにあるべきか 「現代の理論」21

1965.10 p68～81 聞き手：安藤仁兵衛 『人間の復権と解放』に所収

原理としての中立 「世界」239 1965.10 p38～41

戦後は終わっていない——「ティーチ・イン」はテレビにのって 「学習のひろば」44 1965.10 p25～29

〈座談会〉論壇・一九六五年——著書、論文からみた今年の総括 「エコノミスト」43(55) 1965.12.28 p48～57 他の出席者：水田洋、伊東光晴

教研活動の自主性・創造性・連帯性 「教育評論」180 1966.1 p16～2 『日高六郎教育論集』に所収

〈座談会〉戦後民主主義の危機と知識人の責任——日韓強行採決をめぐる 「世界」242 1966.1 p122～141 他の出席者：石田雄ほか2名

日本ナショナリズムの分岐点——日韓条約強行採決にさいして 「展望」85

1966.1 p40～52
総合的機能の回復を〈『思想』500号記念によせて〉「思想」500 1966.2 p72
日韓問題と日本の知識人——未来への模索〈特集 国民文化会議シンポジウム〉「現代の眼」7(2) 1966.2 p42～87 他の参加者：上田耕一郎ほか多数
忘れるということ「わだつみの声」32 1966.2 p2～5
政治意識と個人特性の関連についての調査報告「東京大学新聞研究所紀要」
14 1966.3 p14～51
無辜の民〈巻頭言〉「わだつみの声」33 1966.[4] 1p(頁付なし)
いま一度吟味したい〈児童憲章十五周年によせて わたしの思うこと いいこと〉「子どものしあわせ」120 1966.5 p40
運動方針をめぐる討論 発展か停滞か?〈国民文化会議1966年度大会の討論〉
「国民文化」78 1966.5 p3～11 他の参加者：稲葉三千男ほか多数
〈討論〉日本の中立をめぐって「現代の理論」29 1966.6 p23～45 他の参加者：貴島正道ほか2名
魅力のある読みもの 歴史学研究会編『日本史年表』 「図書」202 1966.6 p5 同書の推せん文
国民の支持は「非武装中立」今こそ必要な民主勢力の結集と指導「平和と民主主義」218 1966.7 p2
〈思想の言葉〉「思想」505 1966.7 p84～85
〈書評〉勝田守一著『国民教育の課題』 「教育」198 1966.7 p94～95
安保闘争の展開と陥穽「世界」249 1966.8 p23～34
〈アップール〉八月十五日を迎えるにあたって(阿部知二ほか共著)「新日本文学」21(9) 1966.9 p172 「八・一五記念国民集会実行委員会」のアピール
〈座談会〉三木清と語る「図書」206 1966.10 p2～34 他の出席者：谷川徹三ほか3名
戦争拡大の危険と反戦平和の原理——いまなにをなすべきか「新日本文学」21(10) p104～107
〈全体討論〉反戦への論理と行動〈ベトナムに平和を! 日米市民会議〉「文芸」5(10) 1966.10 p221～280 参加者多数
〈対談〉スターリン主義克服のために「思想の科学(第5次)」135 1966.10 p2～16 対談者：北小路敏
〈斎藤喜博対談7〉教育と人間(7)「教育」203 1966.12 p6～20「政治と教育」として『日高六郎教育論集』に所収

- 〈座談会〉論壇 この一年——分極化する思想状況 「朝日ジャーナル」 8 (53)
1966.12.25 p12～19 他の出席者：川田侃, 田口富久治
- 〈対談〉若い世代の考え方をどう見るか 「学習のひろば」 59 1967.1 p24～
28 対談者：針生一郎
- 〈斎藤喜博対談 8〉教育と人間 (8) 「教育」 205 1967.2 p122～131 「政治
と教育」として『日高六郎教育論集』に所収
- 〈座談会〉10・21 スト処分問題をめぐって——国民的監視と支援を 「世界」
255 1967.2 p167～177 他の出席者：野村平爾, 吉野源三郎
- 〈対談〉中国文化大革命とマルクス主義——毛首相は果たして正統派か 「エコ
ノミスト」 45 (7) 1967.2.21 p56～63 対談者：古在由重
- 〈座談会〉おかしな教科書——子どもの創造性をつみつとるもの 「朝日ジャーナ
ル」 9 (12) 1967.3.19 p18～25 他の出席者：小野周ほか3名
- 〈シンポジウム〉現代を生きる思想の課題——構造改革論の思想的反省 「現代
の理論」 38 1967.3 p5～34 他の参加者：長洲一二, 沖浦和光
- 〈シンポジウム〉国際政治とマス・コミュニケーション 「新聞学評論」 16
1967.3 p68～84 他の参加者：斎藤孝ほか4名
- ベルグソン 「道徳と宗教の二源泉」 〈私の古典 50〉 「エコノミスト」 45 (12)
1967.3.28 p70～73 エコノミスト編集部編『私の古典』 (毎日新聞社
1967) に所収
- 教育における創造の問題 「教育評論」 198 1967.4 p12～17 『日高六郎教
育論集』に所収
- 現実・思想・思想者について——若い友への手紙 「展望」 100 1967.4 p38
～49 『戦後思想と歴史の体験』に所収
- 〈書評〉藤田省三著『維新の精神』 「潮流ジャーナル」 1 (3) 1967.5.21
p100～101
- 〈シンポジウム〉ベトナム戦争と深まる日本の協力体制 「世界」 258 1967.5
p24～72 他の参加者：仲晃ほか4名
- 革新都政における対話を考える——東大で対話した美濃部都知事 〈東大五月祭シ
ンポジウム〉の記録 「潮流ジャーナル」 1 (7) 1967.6.18 p26～31 他の参
加者：原寿雄, 美濃部亮吉
- 〈講演〉「草の実会」の歩みと婦人運動 「草の実」 14 (5) 1967.6 p4～13 草
の実会ほか編『現代史に生きて』 (たいまつ社 1969) に所収
- 〈対談〉読書の姿勢——岩波文庫の昔と今 「図書」 214 1967.6 p2～23 対

談者：丸山真男

沖繩・戦略体制の中の差別 「世界」 261 1967.8 p10～17

〈対談〉パストとしての民主主義 「現代の眼」 8(8) 1967.8 p100～111 対

談者：小田実 『人間の復権と解放』に所収

若い世代の八・一五 〈直言〉「学習のひろば」 66 1967.8 p5

〈インタビュー〉新聞を考える視点 「展望」 106 1967.10 p146～154

言論と世論の力をよみがえらせよ 〈特集 羽田の流血 ③私はこう思った〉

「朝日ジャーナル」 9(44) 1967.10.22 p13

10・21 国際統一行動の意味と今後の展望 「世界」 265 1967.12 p121～125

〈対談〉「明治百年祭」とどうとりくむか 「歴史評論」 208 1967.12 p1～17

対談者：遠山茂樹，司会：犬丸義一

国家より良心を 〈“脱走”事件をめぐって〉 「文芸」 7(1) 1968.1 p276～277

世代 「図書」 221 1968.1 p2～12 『日高六郎教育論集』に所収

〈対談〉日米共同声明と70年安保の焦点 「平和と民主主義」 235 1968.1 p2

～4 対談者：水口宏三

「福祉国家」イデオロギーと労働者——労組文化運動講座より 「国民文化」

98 1968.1 p6～9 「月刊社会教育」(125 1968.4)にも転載

政治運動・市民運動・学生運動——佐世保の一週間の意味 〈革新統一への模索

1) 「朝日ジャーナル」 10(6) 1968.2.11 p16～20

五十嵐良雄氏への書簡 「国民文化」 100 1968.3 p5 同号掲載の五十嵐良雄

「私のなかの国民文化会議とは」に対する返書

〈対談〉知識人の政治参加と文化創造 「新日本文学」 23(3) 1968.3 p72～87

対談者：野間宏

〈対談〉七〇年問題をどう考えるか 「現代の眼」 9(3) 1968.3 p48～59 対

談者：武者小路公秀

国民教育の創造と教師 「教育評論」 213 1968.4 p10～17 『日高六郎教育論

集』に所収

〈座談会〉現代政治と直接民主主義 「現代の理論」 51 1968.4 p35～65 他

の出席者：飛鳥田一雄ほか2名

〈提言〉下からの太いパイプを——第11回自治研全国集會に期待する 「月刊

自治研」 10(4) 1968.4 p2～5

〈対談〉現代における教育の責任——知識人としての教師像 「世界」 271

1968.6 p27～36 対談者：勝田守一

〈対談〉 職業意識と組合意識 「月刊労働問題」 122 1968.6 p68～75 対談者：氏原正治郎

結語 「国民文化」 105 1968.8 p15 「第4回8・15記念国民集会」における結語

直接民主主義と「六月行動」 「世界」 273 1968.8 p27～36 ベトナムに平和を！市民連合編『資料・「ベ平連」運動 上』（河出書房新社 1974）に所収
行政改革とコミュニケーション〈行財政臨時調査会専門委員にきく 行政改革にいかに関与すべきか〉「都政人」 32(9) 1968.9 p39～42

逆説のなかの真実〈アンケート 沖縄の本土復帰に関する意見〉 「世界」 275 1968.10 p119～120

〈シンポジウム〉 七〇年闘争と統一戦線 「現代の理論」 57 1968.10 p118～142 他の参加者：岩垂寿喜男ほか2名

社会主義・民主主義・ナショナリズム〈チェコ事件をどう受けとめるか（Ⅰ）問題提起〉「世界」 276 1968.11 p76～79

「新宿」が提起したもの——事実か忘れられている 「朝日ジャーナル」 10(45) 1968.11.3 p15～16

〈討論〉 チェコ事件をどう受けとめるか（Ⅱ） 「世界」 277 1968.12 p68～88 他の参加者：市井三郎ほか3名 小田実編『戦後日本思想大系 16 現代人間論』（筑摩書房 1969）に所収

〈座談会〉 学生・労働者・市民の奔流する状況〈七〇年闘争のエネルギー・その2〉 「朝日ジャーナル」 11(2) 1969.1.12 p54～61 他の出席者：高野実ほか2名

問題提起 いま、国民文化会議は何をなすべきか 「国民文化」 110 1969.1 p8～9

〈座談会〉 「70年闘争」をつらぬく思想 「月刊社会党」 142 1969.2 p61～82 他の出席者：野間宏ほか2名

思想反動と歴史の偽造——戴天仇の詩についての感想 「教育評論」 226 1969.2 p10～14

〈対談〉 戦後日本の言論と文化 「現代の眼」 10(2) 1969.2 p96～105 対談者：美作太郎

合評 〔〈第2回現代評論社賞銓衡経過〉〕 「現代の眼」 10(4) 1969.4 p220～224 他の参加者：青地辰ほか2名

〈討論〉 いま問われているものは何か——歴史の転換点に立って新しい世界像

- を求める「エコノミスト」47(16) 1969.4.20 臨時増刊 p34～58 他の参加者：長洲一二ほか4名
- 〈座談会〉戦後民主主義の現局面と憲法 「展望」125 1969.5 p48～62 他の出席者：小田実, 鶴見良行
- 〈思想の言葉〉「思想」539 1969.5 p102～103
- 〈対談〉戦後民主主義と沖縄解放 「現代の眼」10(5) 1969.5 p128～138 対談者：いいだ・もも
- 安保とマスコミ 「マスコミ市民」27 1969.6 p3
- 常任代表あいさつ 「国民文化」116 1969.7 p4 「一九六九年国民文化会議大会」でのあいさつ
- 知識人としての教師ということ 〈特集 勝田守一先生の死を悼んで〉「教育」240 1969.10 p16～18 『日高六郎教育論集』に所収
- 近藤日出造著『安保がわかる』を批判する 〈「講座・70年問題を考える」より〉「国民文化」120 1969.11 p2～5
- 別個の主体として(談) 〈週刊アンポへの手紙〉「週刊アンポ」1 1969.11 1p (頁付なし)

1970年代

- 〈座談会〉七〇年代をつらぬく思想 「月刊社会党」156 1970.2 臨時増刊 p2～28 他の出席者：野間宏ほか2名
- 〈対談〉「人民の武装」をめぐる 「週刊アンポ」7 1970.2 p29～32 対談者：前田俊彦
- 〈書評〉歴史の必然性と人間の自由——前田俊彦『瓢鰻亭通信』に寄せて 「思想」550 1970.4 p136～148 『戦後思想と歴史の体験』に所収
- 封殺される少数者の声 [〈第3回現代評論社賞選評〉] 「現代の眼」11(4) 1970.4 p221
- 〈思想の言葉〉「思想」551 1970.5 p82～83
- 地方自治体職員は事大主義意識からどうやって脱出できるか 「都政人」34(5) 1970.5 p12～16
- 〈対談〉人間と国家と安保と——新たな出発点に立って 「エコノミスト」48(27) 1970.6.30 p19～28 対談者：小田実 『人間の復権と解放』に所収
- 入門以前ということについて 「思想の科学(第5次)」182 1970.6 p4～8 『日高六郎教育論集』に所収

- 家永裁判の意味するもの——70年代の国民教育と国家教育 「教育評論」
 249 1970.8 臨時増刊 p10～15 「国民教育と国家教育」として『人間の復権
 と解放』に所収
- 〈座談会〉教科書裁判と教育権 「教育」252 1970.8 増刊 p104～122 他の
 出席者：斎藤喜博，大田堯
- 住民運動を支える論理 「別冊 経済評論」2 1970.8 p154～157
- 〈書評〉サー・スタンリー・アンウィン著 布川角左衛門，美作太郎訳『出版
 概論』 「出版ニュース」841 1970.8 中旬 p18～19
- 〈対談〉七〇年闘争を総括する視点 「現代社会主義」26 1970.8 p2～19
 対談者：清水慎三
- 断章——私と大学 「朝日ジャーナル」12(32) 1970.8.9・16 p128～146
 『日高六郎教育論集』に所収
- '70・8・15 パネル討論 「わたしたちとアジア」 「朝日ジャーナル」12(34)
 1970.8.30 p4～17 他の参加者：佐藤勝己ほか4名
- 私の八月十五日 「国民文化」129 1970.8 p2～3
- 家永勝訴をどう生かすか 「世界」298 1970.9 p78～83 『日高六郎教育論
 集』に所収
- 〈書評〉中野好夫，新崎盛暉著『沖縄・70年前後』 「朝日ジャーナル」12(40)
 1970.10.11 p70～71
- 〈対談〉解体と創造 「群像」25(10) 1970.10 p262～291 対談者：高橋和巳
 『人間の復権と解放』に所収
- 八・一五集会のこと 「世界」299 1970.10 p65～75 『戦後思想と歴史の体
 験』に所収
- 〈対談〉国民の教育権と学校教育——教育裁判第一審判決をめぐる 「高校資
 料」8(9) 1970.11 p1～8 対談者：家永三郎 『人間の復権と解放』に所収
- 〈アンケート〉 「図書」256 1970.12 p30 子ども時代の読書についてのアン
 ケート
- 〈座談会〉教科書不使用の論理と情念 「朝日ジャーナル」12(50) 1970.12.20
 p17～23 他の出席者：茅嶋洋一，国分一太郎
- 「教育制度改革」ということについて 「教育評論」255 1971.1 p24～27
- 教科書と朝鮮 〈隨筆〉 「現代の眼」12(1) 1971.1 p224～225
- 問題提起 1 「国民文化」134 1971.1 p2～5 「第10回国民文化全国集会」
 における問題提起

- より困難な質問への回答を〈戦後の二十五年と『世界』の二十五年〉「世界」
302 1971.1 p297～301
- 〈座談会〉読者と知識人と編集者——変化の中の危機感「PIC 著者と編集者」
2(1) 1971.2 p2～12 他の出席者：布川角左衛門、香内三郎
- 市民と市民運動——提言 創刊号にあたって「市民」1 1971.3 p12～26
- 鋭い感受性の貴重さ〔〈第4回現代評論社賞選評〉〕「現代の眼」12(4) 1971.4
p243
- 「基本的条件」の前に〈意見 あらためて復帰とは何か〉「世界」307 1971.6
p174
- 〈書評〉朝日新聞社編『ほんとうの教育者はと問われて』「サンデー毎日」
50(29) 1971.7.4 p64～65
- 〈書評〉重藤文夫、大江健三郎著『対話・原爆後の人間』「サンデー毎日」
50(40) 1971.9.19 p64
- 本質的なこと、非本質的なこと、反本質的なこと〈人間として〉「人間として」
7 1971.9 p80～83 『人間の復権と解放』に所収
- 日中間題私見「世界」311 1971.10 p113～117
- 批判にさらされる組合運動「学習のひろば」116 1971.10 p42～43
- 〈討論〉社会変革の主体になり得るか〈シンポジウム 六〇年安保から沖繩闘
争へ〉「エコノミスト」49(50) 1971.11.30 p103～116 他の参加者：高
島通敏ほか3名
- 〈書評〉大沢真一郎著『後方の思想』「サンデー毎日」51(5) 1972.1.30 p92
- 中教審路線と教師の仕事——〈いま、ここで〉からの出発「教育評論」269
1972.1 p18～23
- 「中教審答申」と子どもの教育〈講座・「子どもと教育」より〉「国民文化」146
1972.1 p2～8
- 〈シンポジウム〉意識のなかの日本(1) 「国民文化」147 1972.2 p2～10
他の参加者：今川瑛一ほか6名
- 「思想の科学」とポピュリズム「思想の科学(第5次)」208 1972.3 p202～
203
- 〈シンポジウム〉意識のなかの日本(2) 「国民文化」148 1972.3 p2～13
他の参加者：大江志乃夫ほか12名
- 〈座談会〉「差別の思想」をどう克服するか——排外主義的国益論に加担するな
「エコノミスト」50(18) 1972.4.27 臨時増刊 p170～182 他の出席者：村

- 越末男ほか2名
生への微妙なゆれ [〈第5回現代評論社賞選評〉] 「現代の眼」 13(4) 1972.4
p263～264
- 〈座談会〉革新運動とコミュニティの形成 「市民」 8 1972.5 p57～67 他の
出席者：篠原一，横山桂次
- 〈書評〉長洲一二著『これからの社会と教育』 「潮」 153 1972.5 p377～379
政府のウソに犯罪〈私の意見 国民の「知る権利」とマスコミ報道について〉
「マスコミ市民」 60 1972.5 p42～43
- 人間の全体性の回復——日本の教育はどうあるべきか 「教育」 22(5) 1972.5
p6～14 『人間の復権と解放』に所収
- 被害者を抑圧する残酷について〈映画「水俣」上映・講演会から〉 「市民」 8
1972.5 p26～31
- 〈座談会〉言語の危機とメディア 「新日本文学」 27(6) 1972.6 p76～87 他
の出席者：中島誠，針生一郎
- 〈座談会〉「知る権利」をめぐる 「月刊社会党」 184 1972.6 p54～76 他の
出席者：吉川経夫ほか2名
- 常任委員会代表あいさつ 「国民文化」 151 1972.6 p2 「1972年度国民文化会
議大会」におけるあいさつ
- 〈対談〉ふたたび市民運動について 「市民」 9 1972.7 p6～14 対談者：松
田道雄
- 〈鼎談〉「風化」させられた被爆体験 「潮」 156 1972.7 p202～213 鼎談者：
今堀誠二，石牟礼道子
- 〈座談会〉日本的「市民文化」を問う 「市民」 11 1972.11 p7～17 他の出席
者：ヘンリー・スミス，見田宗介
- 日中友好未だ成らず 「世界」 325 1972.12 p35～40
- 歴史を見る目——先進的と後進的ということ 「群像」 27(12) 1972.12 p258
～261
- 〈座談会〉新たな共同体を求めて——水俣病患者と水俣病センター 「展望」
169 1973.1 p59～74 他の出席者：石牟礼道子ほか2名
- 戦後社会の質的転回——福沢諭吉の評価はなぜ変わったか 「月刊社会党」 191
1973.1 p90～96
- 報告 「国民文化」 158 1973.1 p2～5 「第11回国民文化全国集会」における
報告

ベトナム戦争と日本人—— 一日平和主義者であるということ 「朝日グラフ」
 2571 1973.2.20 臨時増刊 p128～129

調印以後と市民のベトナム反戦運動〈市民のことば〉「市民」13 1973.3
 p6～7

五〇代の確かさと不安〔〈第6回現代評論社賞選評〉〕 「現代の眼」14(4)
 1973.4 p249

日本人にとっての教訓〈特集 ベトナム戦争は終わったのか〉「世界」329
 1973.4 p46～53

患者さんたちが口をひらくとき〈市民のことば〉「市民」14 1973.5 p6～7

〈記念講演〉「中教審」答申と部落解放 「部落解放」40 1973.5 p23～31

〈対談〉教育の全体性の回復とは何か 「望星」4(5) 1973.5・6 p22～34
 対談者：遠山啓 『人間の復権と解放』に所収

〈書評〉ジョージ・フリードマン『力と知恵』上・下 「朝日ジャーナル」
 16(13) 1974.4.5 p55～57

〈生活の質〉を変えること 「市民」19 1974.5 p6～14

〈討論〉社会主義と知的自由——ソルジェニーツィン問題をどう受けとめるか
 「世界」342 1974.5 p188～206 他の参加者：木村浩ほか3名

常任委員会代表あいさつ 「国民文化」175 1974.6 p2～3

国民春闘とは何か〈総評への提言〉「月刊総評」204 1974.7・8 p22～23

〈座談会〉民衆レベルの連帯を求めて〈特集・泥沼の日韓〉「朝日ジャーナル」
 16(34) 1974.8.30 p9～17 他の出席者：大島孝一ほか4名

〈対談〉ファシズムの胎動を考える 「月刊社会党」211 1974.8 p44～64 対
 談者：佐々木基一

変革のなかの連続・連続のなかの変質 「国民文化」178 1974.9 p9～11

〈対談〉日本と韓国——いま何が問われているか 「潮」185 1974.11 p124～
 139 対談者：李恢成

〈インタビュー〉韓国から帰って〈レポート・訪韓報告〉「季刊三千里」1
 1975.2 p62～70 「金芝河らをたすける国際委員会代表団」の報告

[会見記] 咸錫憲氏、代表団と語る〈レポート・訪韓報告〉「季刊三千里」1
 1975.2 p70～74 代表団と咸錫憲氏との会見記

「生活の質」を考える〈第12回国民文化全国集会〉「国民文化」183 1975.2
 p2～6 ほぼ同内容のものが「月刊総評」(1975.3・4)に掲載

画一的社会のなかの画一化——放送五十年に思う 「マスコミ市民」91 1975.4

p30～34

- [討論] 政治思想 1 〈戦後思想の潮流 23〉「エコノミスト」 53 (16)
1975.4.15 p78～85 他の参加者：高島通敏，橋川文三 以下「政治思想
6」まで「政治思想の戦後」として高島通敏編『討論・戦後日本の思想』
(三一書房 1977) に所収
- [討論] 政治思想 2 〈戦後思想の潮流 24〉「エコノミスト」 53 (17)
1975.4.22 p78～85 他の参加者：高島通敏，橋川文三
- [討論] 政治思想 3 〈戦後思想の潮流 25〉「エコノミスト」 53 (18)
1975.4.29 p78～84 他の参加者：高島通敏，橋川文三
- [討論] 政治思想 4 〈戦後思想の潮流 26〉「エコノミスト」 53 (20)
1975.5.6 p78～85 他の参加者：高島通敏，橋川文三
- [討論] 政治思想 5 〈戦後思想の潮流 27〉「エコノミスト」 53 (21)
1975.5.13 p82～89 他の参加者：高島通敏，橋川文三
- [討論] 政治思想 6 〈戦後思想の潮流 28〉「エコノミスト」 53 (22)
1975.5.20 p76～84 他の参加者：高島通敏，橋川文三
- ひとつの思想的事件——映画『医学としての水俣病』と『不知火海』 「世界」
354 1975.5 p145～154 土本典昭著『逆境のなかの記録』(未来社 1976),
『解放教育』(1980.7 臨時増刊) に再録
- 思想としてのベトナム体験 「世界」355 1975.6 p31～37
- ベトナム人民勝利に思う 「教育評論」324 1975.8 p20～25
- 〈座談会〉自立した日本人の系譜をさぐる 〈日本「市民」列伝1〉 「市民(第2次)」
1 1975.9 p24～44 他の出席者：色川大吉ほか2名
- 〈座談会〉自力更生の教えるもの——中国大寨人民公社の話 「市民(第2次)」
2 1975.10 p48～65 他の出席者：安藤彦太郎ほか2名
- 思想の連続と断絶——フランスと日本 「学習のひろば」164 1975.10 p62～
64
- 〈全体講演〉アジアの解放と日本——近代日本百年の歩みをふりかえり，日本
とアジアの関係を考える 「部落解放」76 1975.10 p25～32
- 目に見えない変質 「思想の科学(第6次)」261 1975.10 臨時増刊 p2～6
- 〈書評〉鶴見俊輔著『私の地平線の上に』 「潮」197 1975.11 p243～246
- 生活の質について 「月刊社会党」229 1976.1 p158～170
- 戦後30年と憲法問題 「平和と民主主義」334 1976.1 p3～8
- 教育の創造について——新しい組合員への手紙 「教育評論」333 1976.4

- p24～31
- 〈書評〉芝生瑞和著『アンゴラ解放戦争』 「現代の眼」 17(4) 1976.4 p174～177
- 〈書評〉中村敏弘著『教育実践検討サークル——創造する東北の教師たち』 「教育」 328 1976.4 p62～63
- 中国の新しい挑戦と実験——大寨で感じたこと 「展望」 208 1976.4 p16～33
- 腐敗の構造とは何か——ロッキード事件に思う 「世界」 365 1976.4 p35～42
- 水俣病申請患者、支援者逮捕事件についての調査報告 「季刊不知火 いま水俣は」 4 1976.4 p52～53
- 自由闊達で 実験的な創造を〈アンケート 学歴社会と教育のゆくえ〉「ひと」 4(5) 1976.5 臨時増刊 p81～84
- 〈書評〉芝生瑞和著『アンゴラ解放戦争』 「朝日ジャーナル」 18(20) 1976.5.21 p62～64 「現代の眼」(1976.4) 掲載のものとは異なる
- 〈対談〉体制と市民運動 「季刊三千里」 6 1976.5 p24～36 対談者：金達寿
文化運動の再出発——シンポジウム報告の前口上 「新日本文学」 31(6) 1976.6 p189～191
- 戦争責任を議論する〈随想 私の中国「経験」記〉「現代の眼」 17(7) 1976.7 p186～187
- 苦い感情と経験 「新日本文学」 31(7) 1976.7 p35～39
- ロッキード事件と日本資本主義 「国民文化」 220 1976.7 p7～10
- 〈書評〉砂川ちよ著『砂川・私の戦後史』 森滝市郎著『反核30年』 「朝日ジャーナル」 18(36) 1976.9.3 p57～59
- 政治のカギを握る無党派市民——その受動性と能動性 「月刊エコノミスト」 7(9) 1976.9 p28～33
- 戦後史を考える——三木清の死からロッキード事件まで 「世界」 370 1976.9 p36～50 加筆して『戦後思想を考える』に所収
- 〈対談〉デッチ上げられた“冤罪”の背後〈狭山事件、この日本的差別の構造Ⅱ〉「潮」 207 1976.9 p222～235 対談者：野間宏
- はじめに〈戦犯追放 1976・8・15集会〉「国民文化」 202 1976.9 p2～3
- 八・一五敗戦とロッキード事件 「学習のひろば」 175 1976.9 p54～55
- 〈座談会〉天皇制と部落差別 「狭山差別裁判」 35 1976.10 p10～75 他の出

- 席者：井上清ほか2名
- 〈座談会〉ロッキード問題のゆくえと人民主権の思想 「新日本文学」 31(10)
1976.10 p30～45 他の出席者：前田俊彦ほか2名
- 〈シンポジウム〉戦後政治の転換期と革新の任務 「月刊社会党」 238 1976.10
p16～51 他の参加者：鎌倉孝夫ほか3名
- われわれが主人公だ 〈総選挙特集〉「月刊総評」 227 1976.10 臨時増刊 p4～7
- 三人 〈ずいひつ 波音〉「潮」 210 1976.11 p77～78
- 〈書評〉香内三郎著『言論の自由の源流——ミルトン『アレオパジティカ』周辺』
「Editor」 27 1976.11 p18～19
- この時代閉塞をこえて——既成事実への抵抗 「教育評論」 344 1977.1・2 p34
～37
- 〈記念講演〉教師のぎりぎりいっぱいの仕事 「教育評論」 346 1977.3 臨時増
刊 p18～26 ほぼ同内容のものが日本教職員組合編『日本の教育 第26
集』（一ッ橋書房 1977）に所収
- 戦後の天皇制について 「国民文化」 208 1977.3 p10～16 「紀元節」問題連
絡会議編『戦後50年 天皇制・軍事大国はいま』（新興出版社 1995）に所収
- 教育と文化 「季刊 教育のために」 1 1977.4 p16～29
- 〈書評〉石牟礼道子著『樁の海の記』 「朝日ジャーナル」 19(15) 1977.4.15
p67～69
- 追悼・竹内好さんの思い出 「思想の科学(第6次)」 282 1977.4 p4～6
- 〈文学のひろば〉「文学」 45(4) 1977.4 p56～57
- 大人と青年 〈巻頭言〉「青年心理」 2 1977.5 p5
- 〈座談会〉生活と政治をつくりかえよう 「月刊総評」(号数なし) 1977.5 臨時
増刊 p32～41 他の出席者：樋口恵子、槇枝元文
- 〈シンポジウム〉現代社会における人間と教育 〈教育研究の課題 2〉「現代教
育科学」 20(6) 1977.5 p87～104 他の出席者：川口勇ほか2名
- 竹内好の残したもの 「展望」 221 1977.5 p30～35
- 統一戦線への思想と行動 〈インタビュー構成・戦後思想の歩み 5〉「第三文明」
195 1977.5 p20～31 聞き手：新井直之 新井直之著『敗戦体験と戦後思
想 12人の軌跡』（論創社 1977）に所収
- 落ちこぼれとはなにか [巻頭言] 「月刊教育の森」 2(6) 1977.6 p13
- 憲法論議——百花斉放のすすめ 「世界」 379 1977.6 p18～34
- 〈書評〉久野収著『神は細部に宿りたまう』 「月刊エコノミスト」 8(7)

1977.7 p166～167

野間宏『狭山裁判』のこと〈小特集 狭山闘争〉「差別とたたかう文化」3

1977.7 p139～140

〈思想の言葉〉「思想」639 1977.9 p54～55

自立した施策と中間技術の開発〈特集 あらたな市民自治の展開 革新自治体に何を望むか〉「地方自治通信」95 1977.10 p12～13

中央と地方〈道標（みちしるべ）〉「京都市政調査会報」13 1977.10 p1 京都市政調査会編『自治への展望・京都 80年代への指標を求めて』（ナカニシヤ出版 1978）に所収

革新派のジレンマについて「世界」384 1977.11 p109～123

〈座談会〉模索から創造へ〈「連合の時代」を考える 1〉「月刊総評」239 1977.11 p60～69 他の出席者：宝田善ほか4名

競争社会と福祉圏をどう超えるか——人間が人間として生きるために〈私の考える「福祉日本」の未来像 12〉「公明」190 1977.12 p66～77

〈座談会〉模索から創造へ〈「連合の時代」を考える 2〉「月刊総評」240 1977.12 p18～27 他の出席者：宝田善ほか4名

〈対談〉歴史と責任「現代と思想」30 1977.12 p2～33 対談者：家永三郎 水俣から考えること（上）「思想の科学（第6次）」293 1978.1 p56～64 加筆して『戦後思想を考える』に所収

動労千葉のたたかいを支援する「新日本文学」33(2) 1978.2 p98～99

水俣から考えること（下）「思想の科学（第6次）」294 1978.2 p55～64 加筆して『戦後思想を考える』に所収

私の〈朝鮮経験〉「季刊三千里」13 1978.2 p84～91

「生きる」こと〈波〉「青年心理」7 1978.3 p38～39

フランス商人気質「思想の科学（第6次）」296 1978.3 臨時増刊 p103～106

〈シンポジウム〉八〇年代の教育の課題を探る「望星」9(4) 1978.4 p18～51 他の参加者：村松喬ほか3名

〈座談会〉八〇年代への胎動と平和運動の展望「月刊社会党」258 1978.5 p66～87 他の出席者：館林千里ほか2名

戦争について——私の「戦後思想史」講義「第三文明」208 1978.6 p20～27 加筆して『戦後思想を考える』に所収

〈暴力〉対〈満場一致〉——三・二六事件の投げかけるもの「展望」234 1978.6 p14～23

満場一致時代〈随筆 近況報告〉「現代の眼」19(6) 1978.6 p260～261
〈書評〉新井直之著『マスコミ日誌』 「潮」230 1978.7 p281～283
戦後思想史 第1回 戦中・中国経験(上) 「展望」235 1978.7 p16～27
どのような生活をもとめるのか——一九七八年度大会あいさつ 「国民文化」
225 1978.8 p10
職業としての新聞記者 「世界」394 1978.9 p39～51
〈解放〉への道筋について 〈解放教育運動への提言〉 「解放教育」8(12) 1978.10
p31～33
民主主義への挑戦 〈有事立法は許せない 各界の声〉 「月刊総評」250 1978.10
p21
〈共同報告〉日本の対朝鮮政策の転換を——金大中事件五年の現実の中で(青地
晨ほか共著) 「世界」396 1978.11 p35～102
砂田文部大臣への私信——教育勅語と能力主義など 「教育の森」3(11)
1978.11 p22～29
〈座談会〉大学研究室における在日朝鮮人の生活 「朝鮮人」16 1979.1 p2～
30 他の出席者：洪炯圭ほか4名 飯沼二郎編著『在日朝鮮人を語る I
七十万人の軌跡』(麦秋社 1984)に所収
〈対談〉知識人のロイヤリティについて 「現代の眼」20(1) 1979.1 p30～46
対談者：久野収
日本の教育・七〇年代から八〇年代へ 「教育評論」372 1979.1 p20～24
〈書評〉金芝河著 金芝河刊行委員会訳編『苦行 獄中におけるわが闘い』
「潮」237 1979.2 p208～210
保守政権の持続について 「思想の科学(第6次)」312 1979.4 臨時増刊 p12
～17
にもかかわらず……——インドシナ動乱に想う 「世界」402 1979.5 p31～
56
〈アンケート〉私の卒業論文 「流動」11(7) 1979.6 臨時増刊 p276
戦後日本の平和運動 「平和研究」4 1979.6 p50～61
現代の青年と『自由からの逃走』 「青年心理」15 1979.7 p27～37 加筆し
て『戦後思想を考える』に所収
〈シンポジウム〉教師のよって立つところ 「解放教育」9(7) 1979.7 p59～
74 他の参加者：西岡智ほか2名
総合雑誌の社会学 その主観的考察 「流動」11(8) 1979.7 p46～52

高桑純夫と平和の志 「月刊社会党」 275 1979.8 p176～180
小さな経験——留学生の日本観 「新日本文学」 34 (8) 1979.8 p18～19
文化と政治——上原専録元会長を偲んで 「ざ・ぺん」 1 1979.8 p66～67
「国民文化」(1979.9)の「常任委員あいさつ」とほぼ同じ内容
減私奉公から減公奉私まで 「朝日ジャーナル」 21 (32) 1979.8.17・24 p11～
17 加筆して『戦後思想を考える』に所収
下へ「開かれた総評」に〈来賓あいさつ〉「月刊総評」 261 1979.9 p35～36
常任委員代表あいさつ 〈1997年度国民文化会議大会〉「国民文化」 238 1979.9
p4～5
私の読書論 「児童心理」 33 (10) 1979.10 p144～146
私生活優先の平和イデオロギー? 「学習のひろば」 213 1979.11 p24～25
〈徹夜ティーチイン〉日付問題は、石川無実の決定的証拠だ 「部落解放」 141
1979.11 p14～44 他の参加者：針生一郎ほか10名
思い出すひとつのこと 〈特集 中野重治 人とその全仕事〉「新日本文学」
34 (12) 1979.12 p244～245
瀬田貞二君の思い出 〈瀬田貞二氏追悼〉 「子どもの館」 7 (12) 1979.12 p8
～13
『にんげん』——この貴重な贈り物 〈特集 読本『にんげん』誕生十周年〉
「解放教育」 9 (13) 1979.12 p6～12
〈文学のひろば〉 「文学」 47 (12) 1979.12 p74～75

1980年代

〈共同報告〉いま対韓政策に転換を——韓国の新事態に際して(青地辰ほか共著)
「世界」 410 1980.1 p103～115
空想連合政権論——最近の政局について 「世界」 410 1980.1 p187～193
〈座談会〉特集・狭山闘争十年をふりかえって 「狭山差別裁判」 74 1980.1
p6～22 他の出席者：山上益郎ほか3名
『1984年』と「第7体操学校」 「朝日ジャーナル」 22 (2) 1980.1.18 p10～16
加筆して『戦後思想を考える』に所収
歴史と民族の問題 〈シンポジウム「国民文化」と上原専録〉「国民文化」 242
1980.1 p9～11
遠山啓先生追悼 「ひと別冊 遠山啓追悼特集 その人と仕事」 1980.2 p173
～175

- 市民的常識からの反撃「狭山差別裁判」76 1980.3 p2～7
- 〈対談〉現代にとって三〇年代とは何か「現代の眼」21(3)1980.3 p32～49
対談者：菅孝行
- おそろしい論理だ〈怒りの声 事実調べもせずに棄却とは?!〉「部落解放」
148 1980.4 p65
- 〈価値観の多様化〉について——「管理すること・管理されること」断想(上)
「月刊エディター・本と批評」67 1980.4 p2～10 「〈価値観の多様化〉と画
一化」として『社会主義と労働運動』(1980.5)に転載
- 〈座談会〉「第三の道」をめぐる「朝鮮人」18 1980.4 p2～46 他の出席
者：金時鐘ほか3名 飯沼二郎編著『在日朝鮮人を語る I 七十万人の軌
跡』(麦秋社 1984)に所収
- 〈座談会〉80年代の連合論を考える「月刊社会党」283 1980.4 p10～35
他の出席者：大内力ほか2名
- 市民的常識への挑戦——狭山事件再審棄却の論理「世界」413 1980.4 p251
～257
- 管理主義について——「管理すること・管理されること」断想(中)「月刊エデ
ィター・本と批評」68 1980.5 p2～13
- 四月革命と安保闘争「季刊三千里」22 1980.5 p80～86 加筆して『戦後思
想を考える』に所収
- はたして世代の断絶はあるのか「青年心理」20 1980.5 p17～24 加筆して
『戦後思想を考える』に所収
- 「狭山」のたたかいをどうすすめるか「解放教育」10(6)1980.6 p8～15
- 〈書評〉『持田栄一著作集 5 教育変革の理論』 「月刊教育の森」5(6)1980.6
p155～157
- 〈アンケート〉面白かった、印象的だった一冊の本「思想の科学(第6次)」
328 1980.7 p60
- 行動の人としてのサルトル「現代思想」8(8)1980.7 p111～114
- 軍事大国としての歩み阻止を〈来賓あいさつ〉「月刊総評」273 1980.9 p23
～24
- 軍事大国化のなかの組織と個人「朝日ジャーナル」22(35)1980.9.5 p10～
17 加筆して『戦後思想を考える』に所収
- 権力に頭を下げるな〈広げよう狭山闘争の輪を〉「狭山差別裁判」82 1980.9
p17～18

- 〈インタビュー〉 社会党への知的結集と党建設 日高六郎氏に聞く 「月刊社会党」 290 1980.10 p17～26
- 〈討論会〉 狭山を万人のものに 「狭山差別裁判」 83 1980.10 p4～12 他の参加者：生越忠ほか14名
- 可能性・願望 〈私が「学ぶ喜び」を知ったとき——わたしが少年時代の思い出〉 「児童心理」 34(12) 1980.11 p127～129
- 〈共同報告〉 金大中氏裁判と日本——三たび対韓政策の転換を求める(青地晨ほか共著) 「世界」 420 1980.11 p120～132
- 大逆事件を思い出す 〈金大中死刑判決を糾弾する〉 「解放教育」 10(12) 1980.11 p84
- ニヒリズムについて——「管理すること・管理されること」断想(下) 「月刊エディター・本と批評」 73 1980.11 p36～46
- 〈共同報告〉 金大中氏裁判と日本——三たび対韓政策の転換を求める(青地晨ほか共著) 「世界」 421 1980.12 p65～87
- 自分自身を問うべきとき——平和教育について考えること 「ひと」 8(12) 1980.12 p4～12 加筆して『戦後思想を考える』に所収
- 〈シンポジウム〉 こんごの護憲運動をいかにすすめるか(要旨) 「平和と民主主義」 393 1980.12 p6～8 他の参加者：飛鳥田一雄ほか2名
- 80年代の教育の課題 「国民文化」 253 1980.12 p2～8
- 〈座談会〉 在日朝鮮人文学をめぐって 「朝鮮人」 19 1981.1 p2～41 他の出席者：金石範ほか5名 飯沼二郎編著『在日朝鮮人を語る II 在日の文化と思想(麦秋社 1984)』に所収
- デモクラシイ・ファシズムについて 〈ファシズムの定義をめぐって〉 「思想の科学(第7次)」 339 1981.5 p2～8
- 世界のなかの日本——理念の力の回復を 「解放教育」 11(8) 1981.7 p8～17
- 私はその理由を知りたい 「朝日ジャーナル」 23(30) 1981.7.24 p92～94 オーストラリア政府の入国拒否問題について
- 教科書を通じた国民の思想管理 「月刊社会党」 301 1981.8 p94～101
- 危機の管理と危機の克服 〈1981・8・15集会より〉 「国民文化」 262 1981.9 p2～4
- 現代の〈英雄^{ヒーロー}〉について 「青年心理」 28 1981.9 p6～22
- 〈対談〉 再びファシズムの胎動を考える 「月刊社会党」 303 1981.10 p14～31 対談者：佐々木基一

「両論併記」を越えるもの〈憲法・教育基本法に根ざす教育を——私はこう考える〉「教育評論」411 1981.10 p27～28

六〇年代——ひとつの概観 経済主義と大衆行動 「朝日ジャーナル」23(39) 1981.10.1 臨時増刊 p128～137

反憲法的状況を阻止しよう〈第18回護憲大会に期待する〉「平和と民主主義」404 1981.11 p3

〈対談〉入国拒否が国際交流に寄与する皮肉な現実〈論議続くオーストラリア政府の「日高入国拒否」問題〉「朝日ジャーナル」24(3) 1982.1.22 p100～104 対談者：R. パルバース

日本の危機と教師の仕事 「教育評論」415 1982.1 p28～31

要望と期待〈選評〉「国民文化」268 1982.3 p15 1981年度国民文化月間「文化闘争」原稿の入選発表にあたっての選評

ロマン・ローランについて思い出すこと 「ユニテ(第3期)」15 1982.3 p2～5

いろんな人が存在していて その人がどんなことを感じているのか 人間についてのイマジネーションをもつこと(談)「月刊すくらむ」159 1982.4 p28～31

現代社会と子どもたち 「児童心理」36(6) 1982.5 臨時増刊 p8～19

すいませんのことは 藤井治夫著「なぜ非武装中立か」 「月刊すくらむ」160 1982.5 p11

天皇制を必要とするもの 「季刊 いま、人間として」1 1982.6 p96～103

「私の戦争体験」を読んで 「月刊総評」296 1982.8 p9～12

戦後史のなかの反戦・平和——8・15集会実行委代表あいさつ〈1982・8・15 反核あらたな出発〉「国民文化」274 1982.9 p2～3

反核・反侵略の世論を大切に 「月刊総評」298 1982.10 p8～10

「反省」とはなにか —— アジアのなかの教科書問題 「世界」443 1982.10 p46～55

いま考えること、なすべきこと 「国民文化」276 1982.11 p2～8

教科書「問題」を民衆のなかに 「季刊三千里」32 1982.11 p34～39

教科書問題が提起したもの 「月刊社会党」317 1982.11 p21～27

新春に想う 日本は戦後変わったか 「月刊総評」301 1983.1 p19～27

キミは趣味にも生きられない——政治に無関心な若者たちに警告する(談) 「月刊すくらむ」172 1983.5 p22～26

護憲・反ファシズムの運動の前進を願って「月刊社会党」324 1983.5 p20
～27

本好きは、いなくなる 「思想の科学(第7次)」369 1983.5 p42～43
「いま、考えるべきこと なすべきこと」「耕(山崎農業研究所所報)」36
1983.6 p4～16

いま、もう少しの自立を——社会と自分とのつながり [上]「季刊 いま、人
間として」5 1983.6 p134～141

〈共同討議〉保守本流の破綻と中曽根の右選択 「月刊総評」306 1983.6 p14
～25 他の参加者：山口定, 中島誠

世界も曲り角に来ている 「社会主義と労働運動」74 1983.8 p14～17 シン
ポジウム「曲り角に来た日本」における問題提起

〈対談〉いま、民主主義の根を探る——どこに足場を築くか「世界」453
1983.8 p34～49 対談者：鶴見俊輔

そして、もう少しのつながりを——社会と自分とのつながり (下)「季刊 い
ま、人間として」6 1983.9 p69～79

〈対談〉総評労働運動の再生と課題——開かれた総評をめざして 「月刊総評」
309 1983.9 p24～34 対談者：真柄栄吉

何をすべきか、そのことをもって 「社会主義と労働運動」75 1983.9 p16～
17 シンポジウム「曲り角に来た日本」における発言

〈パネルディカッション〉日本のこと 考えていいかな?! 「国民文化」286
1983.9 p2～15 他の参加者：高校生有志ほか

ザ・センキョ——その意味するもの〈論壇〉「世界」458 1984.1 p14～18

60年安保闘争〈30年を語る——平和と民主主義のために〉「平和と民主主義」
430 1984.1 p10～11

〈対談〉中曽根流“正論”にひそむ油断ならぬ深慮遠謀 「朝日ジャーナル」
26(11) 1984.3.16 p83～87 対談者：森毅

若者への手紙〈若者へ 私の現代若者論〉「青年心理」43 1984.3 p86～87

〈座談会〉選考経過 「国民文化」293 1984.4 p8～10 他の出席者：稲葉三
千男, 中島誠 1983年度国民文化月間「文化運動論・文化運動の記録」入選
発表にあたって

原田さんのこと 「部落解放」212 1984.4 p54～55

中曽根首相のフォークボール——私見・教育改革論議 「世界」462 1984.5
p27～37

狭山判決の意味論的批判〈「狭山裁判と科学」その後 3〉 「技術と人間」 13(6)
1984.6 p56～63 狭山事件再審弁護団編『自白崩壊 狭山事件三〇年』(日
本評論社 1984)に所収

ラ・トロープ大学で話したこと、話さなかったこと——私とマルクス主義
「思想の科学(第7次)」385 1984.6 p2～6

それでも市民は考え、動く——日本の管理社会の中で 「Asahi Journal」 26(35)
1984.8.17 p17～20

あいさつ〈国民文化会議1984年度総会の記録〉「国民文化」298 1984.9 p9
運動方針提案 共通認識をつくるために〈国民文化会議1984年度総会の記録〉
「国民文化」298 1984.9 p6～8

国籍と就職〈ある視点〉 「解放教育」 14(9) 1984.9 p6～7

〈討論〉いま流行!? 教育 「国民文化」299 1984.10 p2～5 他の参加者：高
校生・大学生ほか

きびしさとなごやかさ〈『季刊三千里』十年によせて〉「季刊三千里」40 1984.11
p246～247

十二月八日に想うこと 「国民文化」303 1985.2 p11

〈対談〉「昭和の60年」をどうとらえるか 「潮」310 1985.2 p86～101 対談
者：加藤周一

〈インタビュー〉父の思い出 「思想の科学(第7次)」396 1985.3 p50～58

来賓あいさつ 「月刊社会党」348 1985.3 臨時増刊 p308～309 日本社会党
第49回定期全国大会におけるあいさつ

差別を超える視点 「解放教育」15(5) 1985.4 p43～56

しいたげられたものへのやさしさ——故岡村昭彦氏を悼む 「国民文化」305
1985.4 p5

柳田耕一〈たのしさ論〉〈戦後の思想家 107人〉「思想の科学(第7次)」
400 1985.6 p101

すべて「可能性」で〈各界から怒りの声〉「狭山差別裁判」139 1985.7 p11

〈未発表討論〉「平和問題談話会」について 「世界」477 1985.7 臨時増刊 p2
～53 他の参加者：久野収ほか5名

〈真実〉を追求するために〈特集 狭山事件特別抗告棄却を批判する〉「部落解
放」233 1985.8 p49～51

戦後青年の意識〈連続講座 戦後日本を考える 10〉「国民文化」309 1985.8
p8～16 加筆して日高編『戦後日本を考える』(筑摩書房 1986)に所収

- 〈対談〉日本人の戦争体験と『真空地帯』 「図書」432 1985.8 p2～10 対談者：野間宏
- 認識をささえる行動性 植田劭の横顔 〈日本民間学の現在〉「思想の科学(第7次)」403 1985.9 p6～7
- 三つの四〇年目——「記憶をいきいきと保つこと」の意味 「世界」479 1985.9 p23～32
- 「戦後」の原点を問う——公式参拝と西独大統領演説 「月刊総評」334 1985.10 p5～8
- ヨーロッパ非戦の原点——西独大統領の演説の紹介にあたって 「月刊社会党」355 1985.10 p58～59
- あいさつ 〈1985年8・15集会パネルディスカッション 戦後40年、いま若者たちは〉 「国民文化」312 1985.11 p11～12
- 昭和六〇年・戦後四〇年 〈時代を総括する〉「解放教育」15(13) 1985.11 p8～12
- 演説紹介の一部修正について 〈編集者への手紙〉「世界」482 1985.12 p359
- 〈憲法講演〉戦後四〇年と憲法(要旨) 「平和と民主主義」453 1985.12 p6～7
- 論文の部・選評 「月刊社会党」357 1985.12 p71 日本社会党結党四〇周年記念論文の選評
- 〈対談〉臨教審の無能さがますます明らかになるのはご同慶のいたり。だけどねえ… 〈連載対談 いま、子どもの教育を語ろう 22〉「児童心理」40(1) 1986.1 p135～148 対談者：村上義雄
- 〈対談〉いじめ 受験戦争 臨教審——競争主義に代わる共生の原理を 「エコノミスト」64(12) 1986.3.18 p44～51 対談者：飯島衛
- 〈討論〉天皇制——現在・過去・近未来 「法学セミナー増刊 総合特集シリーズ 33 天皇制の現在」1986.5 p24～53 他の参加者：横田耕一、橘川俊忠
- 編集後記 「思想の科学(第7次)」415 1986.6臨時増刊 p168
- 緊急発言 「臨教審第二次答申」を読む 「解放教育」16(8) 1986.7 p81
- 軍縮、非核こそ国際社会への責務——第二の〈脱亜入欧〉路線を警告する 「月刊総評」343 1986.7 p4～7
- 〈対談〉戦後を経験してきたものの目 「ちくま」185 1986.8 p10～18 対談者：山部芳彦

人間であることの闘い——われわれの「戦後」と獄中十五年の徐兄弟 「世界」
491 1986.8 p68～74

戦後最悪のナショナリズム 「平和と民主主義」462 1986.9 p2

四つの貧困の克服〈今月の言葉〉「月刊社会党」367 1986.9 p13

〈シンポジウム〉今、市民とマスコミに問われているもの 「法学セミナー増刊
シリーズ「新・権利のための闘争」資料集・人権と犯罪報道」1986.11
p101～120 他の参加者：北山六郎ほか4名

〈新春鼎談〉人権、暮らしの現場を結ぶ 「月刊社会党」371 1987.1 p14～37
鼎談者：内海愛子、土井たか子

〈アンケート〉私の三冊「図書」454 1987.5 臨時増刊 p70 「岩波文庫」のな
かの推せんする3冊について

「日の丸」「君が代」を考える〈教育を改革するために9〉「世界」503 1987.7
p262～267

その時言いそびれたこと〈あの時、言い忘れたこと〉「思想の科学(第7次)」
429 1987.8 p30

ファッションには自由がある〈アンケート“ファッション”とはどういうもの
だろうか〉「思想の科学(第7次)」432 1987.11 p28

明日の日本を考える——いま何をきたえるべきか〈連続講座 明日の日本を考
える 10〉「国民文化」338 1988.1 p2～10 加筆して日高編『明日の日本
を考える』(筑摩書房 1988)に所収

〈座談会〉覇権と摩擦から脱却する 「月刊社会党」384 1988.1 p20～39 他
の出席者：富塚文太郎ほか2名

教育改革の原理をどこに求めるか——臨教審答申批判 「国民文化」339 1988.2
p11～16 より詳細なものが『第17回民主教育をすすめる国民大集会記録』
([1988])および『教育評論』(488 1988.2)に掲載

〈講演〉教育改革の原理をどこに求めるか——臨教審答申批判 「教育評論」
488 1988.2 p18～30

憲法前文を読んで〈憲法と私〉「月刊社会党」389 1988.5 p54

選評 「国民文化」342 1988.5 p16 1987年度国民文化月間原稿入選発表
にあたって

春が待たれる——韓国の「民主化」と保安監護処分 「世界」515 1988.6 p265
～270

ひとつの朝が来た——徐俊植氏の釈放 「世界」517 1988.7 p127～129

- 「少数良心」と少数者のたたかい 「解放教育」 18 (8) 1988.8 p8～14
〈対談〉日本とアジア—— 経済関係を中心に 「思想の科学(第7次)」 443
1988.8 p82～95 対談者：隅谷三喜男
- 八八年度総評大会でのあいさつ 「国民文化」 345 1988.8 p16
半世紀前に読んだ本『トニオ・クレゲル』の読み方 〈20代で読んだ本 20〉
「第三文明」 328 1988.8 p100～101
- あいさつ 「少数者の普遍性」について 「国民文化」 346 1988.9 p2～3
1988年8・15集会におけるあいさつ
- 感謝の心をこめて 〈追悼 桑原武夫〉 「思想の科学(第7次)」 444 1988.9
p72～73
- 〈座談会〉水俣大学の可能性 「月刊自治研」 30 (9) 1988.9 p78～87 他の参
加者：後藤孝典, 柳田耕一
- 真の「開かれた労働運動」を 〈来賓あいさつ〉 「月刊総評」 369 1988.9 p54～
55
- 『戦後思想を考える』の英語版 「図書」 470 1988.9 p49～51
- 〈平和〉と〈繁栄〉を考える—— 軍事力増強時代のなかで 「世界」 521 1988.11
p21～29
- 「昭和」のおわりに—— 戦争責任, 元号その他 〈「昭和の終焉」に思う〉 「世界」
525 1989.3 p75～83
- 来賓あいさつ 「月刊社会党」 401 1989.4 臨時増刊 p266～267 日本社会党
第54回定期全国大会におけるあいさつ
- 「新学習指導要領」批判 「解放教育」 19 (7) 1989.6 p10～19
- 〈シンポジウム〉日本の政治をどう変えられるか 「国民文化」 355 1989.6 p2
～16 他の参加者：高島通敏ほか3名
- いま国民の選択は—— 自民党と社会党—— 問われる「自由主義」「社会主義」の
哲学 「エコノミスト」 67 (31) 1989.7.25 p10～15
- 若い教師への手紙 1 〈21世紀を考える〉 「解放教育」 19 (9) 1989.8 p6～7
若い教師への手紙 2 〈21世紀を考える〉 「解放教育」 19 (11) 1989.9 p6～7
若い教師への手紙 3 〈21世紀を考える〉 「解放教育」 19 (12) 1989.10 p6～7
- フランス革命二百年の意味を考える—— 「経済大国・人権小国」日本について
「部落解放」 300 1989.10 p113～119
- 「経済大国・人権小国」 〈21世紀を考える〉 「解放教育」 19 (13) 1989.11 p6～7
『現代の理論』処分問題 〈特集 戦後史と『現代の理論』〉 「現代の理論」 268

1989.12 p78～79

〈シンポジウム〉憲法をいかに政治に生かすか——政治転換期における護憲運動の課題 「平和と民主主義」501 1989.12 p6～9 他の参加者：土井たか子ほか2名

私たちはアメリカ人を変える 〈21世紀を考える〉「解放教育」19(14) 1989.12 p6～7

1990年代

足もとからのペレストロイカ 「新日本文学」45(1) 1990冬 p98～101 松岡英夫、有田芳生編『日本共産党への手紙』(教育史料出版会 1990)に所収
ふたたび若い教師への手紙 〈21世紀を考える〉「解放教育」20(1) 1990.1 p6～7

ベルリンの壁から三八度線まで——徐勝さんの釈放を願って「世界」536 1990.1 p224～233

〈人権〉という妖怪 「群像」45(2) 1990.2 p241～244

構造的テロリズムに反対する 〈特集 本島長崎市長狙撃事件と言論〉「マスコミ市民」259 1990.3 p2～3

〈シンポジウム〉総選挙で何を問うか——政治改革と政権交替 「国民文化」364 1990.3 p2～12 他の参加者：岡野加穂留ほか3名

長崎市長を支えるもの 〈許さぬ長崎市長銃撃事件〉「世界」538 1990.3 p10～13

〈インタビュー〉疑似一神教のおそろしさ 「思想の科学(第7次)」464 1990.4 p67～73 聞き手：鶴見俊輔

歴史の転換(1989—90年)のなかで——国民文化会議のこれからを考える 〈総会討論にむけて〉「国民文化」369 1990.8 p2～5

歴史の共鳴板を求めて 〈1990年8・15集会 激動する世界の中の日本〉「国民文化」370 1990.9 p2～5

子ども・教育の主権者 「解放教育」20(11) 1990.10 p26～27

「ゆたかな教育」とはなにか 〈総学習・総要求・総行動組織者集会講演〉「教育評論」522 1990.11 p10～20

アジアの目——「国連平和協力法」はどうみられているか 「世界」548 1990.12 p61～65

〈対談〉社会主義か、資本主義かと問うより市民感覚こそ大切にされるべきだ

〈2001年を見通すための「社会主義」講座 17〉「SAPIO」 2(24) 1990.12.27
p45～48 対談者：岸本重陳

野間宏氏のご逝去 「国民文化」374 1991.1 p15

はじめとおわり〈追悼 野間宏氏〉「世界」 551 1991.3 p179～182

海外からの弔電・弔文〈特集 追悼・野間宏〉「新日本文学」 46(4) 1991.4
p6

手品の議論〈主張〉「平和と民主主義」520 1991.7 p2

湾岸戦争のなかで日本を考える〈連続講座 激動する世界の中の日本 8〉
「国民文化」380 1991.7 p2～10 加筆して日高編『激動する世界と日本を
考える』(筑摩書房 1992)に所収

教育の再生をめざして「教育総研ニュース」1 1991.10 p1

悲しみの心をこめて、続さんを思う〈続副所長の死を悼む〉「教育総研ニュー
ス」2 1991.12 p12

世界の激動のなかで教育を考える 「教育総研ニュース」2 1991.12 p9

時代・思想・願望——〈社会主義〉のあと「世界」563 1992.1 p34～42

世界に目をひろげて〈日教組「人権教育指針」に期待する——21世紀の教育に
むけて〉「解放教育」22(1) 1992.1 p74

〈報告〉記憶しておくべきこと 「国民文化」388 1992.3 p2～3 1991年
12・8集会における報告

小さな器に大きな夢を 「教育総研ニュース」5 1992.6 p1 『ブックレット
生きる』の刊行について

哀悼 「記録」160 1992.7 p3 影書房編集部編『狼火(のろし)はいまだあが
らず 井上光晴追悼文集』(影書房 1994)に所収

小文字の文化——標識としての記録 「世界」571 1992.8 p198～200

〈ポスト・冷戦〉の思想的意味とこれからの教育研究活動 「教育総研 理論
フォーラム」1 1992.8 p3～17

〈ヒヤリング〉青年たち、親・家庭を語る 「教育総研 理論フォーラム」2
1992.8 p18～26 他の聞き手：永畑道子ほか9名

感想——教育総研理論フォーラムを読んで 「教育総研ニュース」7 1992.11
p3

「教育研究活動」と人権の思想——日教組第42次教育研究全国集会・記念講演
から 「教育評論」551 1993.4 p72～73 詳細は日本教職員組合編『日本の
教育 第42集』(一ツ橋書房 1993)に所収

パリの外国人の部屋さがし〈座標〉「解放教育」23(4) 1993.4 p6～7
はじめに 「教育総研 理論フォーラム」10 1993.6 p3 『『EC 統合と教育改革』調査団報告』の序文
九条こそ最大の国際貢献 「市民の意見 30 の会・東京ニュース」17 1993.7 p6～7 上記は要旨、詳細は派兵チェック編集委員会編刊『非武装国家の現在の意味を考える』(1993.8) に所収
就任に際して 「教育総研ニュース」11 1993.7 p2 国民教育文化総合研究所 所長就任に際しての文章
時代のおわりとはじまり〈1993 年度総会討論資料・いま考えたいこと〉「国民文化」406 1993.9 p12～15
真の NGO として人権の具体化めざす〈新春を迎えて——憲法の理念をひろめよう〉「平和と民主主義」550 1994.1 p5
全国教研の歴史をふりかえる 「教育総研ニュース」13 1994.1 p1
平和意識と「平和」政策 「世界」591 1994.2 p54～66
自由な仮説の提案を〈教育総研レポート 1〉「教育評論」563 1994.4 p52～53
閣僚の問題発言を糾せ 「国民文化」420 1994.11 p3
世界のなかの子どもたち〈第 6 回教育文化フォーラム 教育改革を愛媛から考える〉「教育評論」570 1994.11 p10～13
大江光君と「子どもの権利条約」〈座標〉「解放教育」25(1) 1995.1 p6～7
〈アンケート〉いま、教育の争点はなにか——教え・学びのシステムの転換へ「ひと」23(12) 1995.2 p19～20
日本の平和主義について〈研究シンポジウム 1994 No. 9〉「国民文化」424 1995.3 p2～3
はじめのことは 「教育総研年報 '95」1995.7 2p(頁付なし)
創刊にあたって〈巻頭言〉「季刊 FORUM 教育と文化」1 1995.10 p4～5
戦後五〇年、日本とドイツ——[1995 年 8・15 集会] 実行委員会代表あいさつ 「国民文化」433 1995.12 p4～7
〈講演〉戦後五〇年をめぐって〈国民文化会議結成四〇周年記念・文化フォーラムより〉「国民文化」434 1996.1 p2～4 詳細は「戦後五〇年を考える」として日高、高畠通敏編『21 世紀 私たちの選択』(日本評論社 1996) に所収
小さな感想——「戦後教育 50 年」ということ 「季刊 女子教育もんだい」66

- 1996.1 p4～9
〈対談〉「国民」をめぐる（1）「影書房通信」11 1996.6 p1～10 対談者：徐京植
- 「21世紀 私たちの選択」〈いま・考えたいこと〉「国民文化」440 1996.7 p2～3
- 日米安保条約の変質 「婦人の友」90(8) 1996.8 p60～64
- 〈対談〉「国民」をめぐる（2）「影書房通信」12 1996.9 p1～8 対談者：徐京植
- 情熱に支えられた理性 〈追悼特集・「生き方」としての丸山真男〉「世界」627 1996.10 p245～247
- 「若者文化をよむ」を読む 〈「若者文化をよむ」を読んで〉「季刊FORUM 教育と文化」6 1997.1 p44～52
- 弟、日高八郎君への最後の手紙 〈日高八郎会長追悼特集〉「世界文学」85 1997.6 p119
- 無力感からの脱却を——ガイドライン改訂によせて 「世界」642 1997.11 p39～45
- 岩手県農村文化懇談会編『戦没農民兵士の手紙』〈私の薦めるこの1冊〉「図書」584 1997.12 p70
- どうしたらいいのか 〈日米平和友好条約運動賛同者からのメッセージ〉「市民の意見30の会・東京ニュース」45 1997.12 p5～6
- 丸山真男さんのラジカルな民主主義 〈研究シンポジウム1997 No.8『丸山真男を語る——同時代人として』〉「国民文化」458 1998.1 p12～16 未掲載の後半部分も含め、日高、加藤周一著『同時代人丸山真男を語る』（世織書房 1998）に所収
- 「戦後教育」を語る 「季刊FORUM 教育と文化」11 1998.4 p122～131 「教育総研年報 '98」（1998.7）にも所収
- 歴史的事件を記憶するということ 〈いま・考えたいこと〉「国民文化」460 1998.5 p2～3
- 「一生懸命下働きする」人たちと共に立つ 「みすず」452 1998.11 p23～26
- 戦前の「戦前」と、いまの「戦前」 「市民の意見30の会・東京ニュース」53 1999.4 p2～4

2000年代

- 〈インタビュー〉戦争責任〈未完の世紀 12〉「論座」57 2000.1 p90～103
聞き手：西島健男 鶴見俊輔ほか著『この百年の課題』（朝日新聞社 2001）
に所収
- 提案〈一九九九年総会より〉「国民文化」470 2000.1 p2～7
- 尾崎行雄「墓標の代わりに」再読（上）「世界」671 2000.2 p184～198
- 尾崎行雄「墓標の代わりに」再読（下）「世界」672 2000.3 p184～194
- 「丸木俊さんへの追悼文」〈美術館に寄せられた声〉「原爆の図 丸木美術館
ニュース」66 2000.3 p6
- アラビア湾岸の透谷「すばる」22(5) 2000.5 p78～79
- 歴史に学ぶということ〈特集 いま・考えたいこと〉「国民文化」472 2000.5
p2～3
- 〈不義〉と〈無謀〉——八月十五日という日「市民の意見30の会・東京ニュー
ス」67 2001.8 p2～4
- 〈社会〉の意味、〈国家〉の意味〈巻頭言〉「季刊FORUM 教育と文化」27
2002.4 p4～7
- 〈ゆとり〉と〈学力〉 総合学習のすすめ方〈パリ発・日高六郎のメッセージ〉
「季刊FORUM 教育と文化」28 2002.7 p98～101
- 「家庭教育」の充実？「恥」と書いたプラカード〈パリ発・日高六郎のメッセ
ージ〉「季刊FORUM 教育と文化」29 2002.10 p94～97
- 「愛国心」について——私の夢物語「季刊FORUM 教育と文化」30 2003.1
p99～108
- さよなら 家永三郎さん 山住正己さん〈パリ発・日高六郎のメッセージ〉
「季刊FORUM 教育と文化」31 2003.4 p80～83
- 「国際的」と「国家的」と〈パリ発・日高六郎のメッセージ〉「季刊FORUM 教
育と文化」32 2003.7 p115～120
- セヌエ河のほとりから——六・一五集会へのメッセージ「市民の意見30の
会・東京ニュース」79 2003.8 p23
- バカロレアの試験問題〈パリ発・日高六郎のメッセージ〉「季刊FORUM 教
育と文化」33 2003.10 p89～91
- 〈国会〉について——「平和教育」資料〈パリ発・日高六郎のメッセージ〉
「季刊FORUM 教育と文化」34 2004.1 p71～74
- 小さなエピソード〈提言「有事法」制下で生きる市民としてのあり方 4〉

- 「市見の意見 30 の会・東京ニュース」82 2004.2 p2
白い運動着〈パリ発・日高六郎のメッセージ〉「季刊 FORUM 教育と文化」
35 2004.4 p81～84
「愛国心のこと」, 「公布文」のこと〈パリ発・日高六郎のメッセージ〉「季刊
FORUM 教育と文化」36 2004.8 p93～94

IV. 新聞記事

1940年代

- 批評家の一つの仕事「文化タイムス」1947.6.2
＜書評＞ 桑原武夫著『現代日本文化の反省』「日本読書新聞」1947.6.11
素朴な愛情「東京民報」1947.9.27

1950年代

- ＜書評＞ 笠信太郎著『もの見方について』「日本読書新聞」1950.9.20
一九八四年 25時「日本読書新聞」1950.12.13
道徳教育論議について 悪たれ小僧の説「日本読書新聞」1951.1.31
＜書評＞ 国分一太郎著『新しい綴方教室』「日本読書新聞」1951.4.11
＜書評＞ 理論社編『美しい生活のために』「日本読書新聞」1951.6.6
＜書評＞ 小田実著『明後日の手記』「日本読書新聞」1951.7.11
風にそよがぬ葦 精力的な抗議の筆 現実的な力となるには「日本読書新聞」
1951.8.15
＜座談会＞ われわれの同時代観 満州事変から今日まで「日本読書新聞」
1951.10.31 他の出席者：平野謙ほか2名
読者の書評 選評「日本読書新聞」1951.10.31
読者の書評 選評「日本読書新聞」1951.11.14
＜書評＞ 手塚富雄著『一青年の思想の歩み』「日本読書新聞」1951.12.12
＜書評＞ 井口一郎著『マス・コミュニケーション』「図書新聞」1952.1.21
＜書評＞ S.I.ハヤカワ著 大久保忠利訳『思想と行動における言語』「日本読
書新聞」1952.1.23
新聞 読まぬ場合の歪み 農村調査の結果から ＜特集 大学生の社会科学＞
「一橋新聞」1952.4.20
天皇制と世代 ＜おなかのなかの天皇制＞「日本読書新聞」1952.5.14

- <書評> 堀田善衛著『祖国喪失』 「日本読書新聞」 1952.6.18
- <書評> キャン・トリル編 平和問題談話会訳『戦争はなぜ起るか』 「図書新聞」 1952.6.30
- “里程標”から“道しるべ”へ 九月号総合雑誌から 「朝日新聞」 1952.8.23夕
- 読者の書評 選評 「日本読書新聞」 1952.9.15
- 総選挙にのぞむもの 総合雑誌評 「朝日新聞」 1952.9.24夕
- 奴隷根性からの解放 総合雑誌十一月から 「朝日新聞」 1952.10.23
- 度はずれの“さいぎ心” 総合雑誌十二月から 「朝日新聞」 1952.11.29
- 自主的ということの意味 総合雑誌新年号から 「朝日新聞」 1952.12.27
- 現代日本文明批評家の水脈 論吉以来の伝統と宿命 「日本読書新聞」
1953.1.12
- 恐怖に対決する勇気と賢明さと 総合雑誌二月号評 「朝日新聞」 1953.1.31
- 選挙と農村 <随想> 「日教組教育新聞」 1953.5.15
- <座談会> 農村調査という仕事 問題点とその反省 「日本読書新聞」
1953.6.1 他の出席者：古島敏雄，福武直
- 暗い会話 都会の青年 <青年の位置をさぐる> 「読売新聞」 1953.7.25
- <書評> 桑原武夫著『文化への発言』 武谷三男著『文化論』 「日本読書新聞」
1953.9.7
- 故郷に持続的な組織を 学生も自己を守らねばならぬ 「東京大学学生新聞」
1953.10.12
- <書評> 田宮虎彦著『異端の子』 きだ・みのる著『霧の部落』 「日本読書新聞」
1953.11.9
- この調査をみての感想 学生の読書遍歴を中心に 「日本読書新聞」 1953.12.7
- <書評> 荒垣秀雄著『新聞の片隅の言葉』 「日本読書新聞」 1954.4.5
- 新しい思想を育てる 思想の科学研究会の動向 「日本読書新聞」 1954.5.10
- 堅い資産株を想うオヤジたち <学生に関する十二章 育親 その4> 「東京大学学生新聞」 1954.5.21
- おそろしい郷愁 反省と見透し欠く 回顧・実録ものの危険な傾向 「日本読書新聞」 1954.8.16
- <書評> 亀井勝一郎著『二十世紀日本の理想像』 「図書新聞」 1954.11.6
- <書評> 中島健蔵，山室静編『人間の心の歴史』 「日本読書新聞」 1955.1.24
- 講師として <日教組全国教研集會に学ぶ> 「東京大学学生新聞」 1955.2.7
- ひろく深い視野を 読者調査に寄せて 「日教組教育新聞」 1955.2.18

政治的関心と総合雑誌 選挙の特集号によせて「毎日新聞」1955.2.23
“裁判の神聖”に踏み入る 正木ひろし『裁判官』の問題 「日本読書新聞」
1955.4.18
横の連絡機関に「朝日新聞」1955.6.13夕 「草の実会」の発足にあたって
「変わった」と「変らない」 八月十五日の思い出をめぐって <論壇時評> 「読
売新聞」1955.7.25
雑誌がとらえた戦後十年 ほんとうの“歴史”を「日本読書新聞」1955.8.1
“偏向教科書”について 民主党のパンフレット問題に思う「朝日新聞」
1955.9.10
<書評> 大河内一男編『社会科学の名著』 「図書新聞」1955.9.17
働く人々と文化運動 「母の歴史」事件評をめぐって 「日本読書新聞」
1955.10.17
読書のあり方 新しい時代の読書論 「図書新聞」1955.11.5
日本人の世界地図 <民衆と思想 1955年 ②> 「朝日新聞」1955.12.22
歴史の曲り角に立って 現代と対決する歴史家 「世界史」的展望を 「日本読
書新聞」1956.1.23
<座談会> 心理学ブームの功罪 一つの文明批評として 「日本読書新聞」
1956.3.5 他の出席者：島崎敏樹，飯島衛
学問の墓を掘るもの 文教二法と学問思想の自由 <赤門時評> 「東京大学
学生新聞」1956.4.9
出色の論文なし 社会評論選後評 <第一回“五月祭賞”入選発表> 「東京大
学学生新聞」1956.5.14・21
<書評> 小田切秀雄著『さまざまな思想の新しい関係について』 「日本読書
新聞」1956.6.4
形式民主主義とは 最近の新聞を読んで「総評」1956.6.2
近代主義に頹廃はないか 危険な些末主義への傾斜 「東京大学学生新聞」
1956.6.25
“憲法感覚”を育てよう それに反している事実が多い 「朝日新聞」
1956.6.27
戦争体験と戦争責任 “心の腐蝕”進行中 <特集・戦争の記憶> 「日本読書
新聞」1956.8.13 『現代イデオロギー』に所収
ほしい独自の見識 “そろわない意見”が当然 <マス・コミュニケーションの
問題点 1> 「朝日新聞」1956.10.1

教育における『中正』とはなにか <教科書旋風をつく> 「日教組教育新聞」
1956.10.5

この表を読んで 日本人の精神的風土 「日本読書新聞」 1956.10.29 「読書
週間特集調査 現代読書人の生態」の表を読んだの感想

<書評> 久野収, 鶴見俊輔著『現代日本の思想』 「図書新聞」 1956.12.8

判断力への試練 ハンガリー事件と知識人の態度 「日本読書新聞」 1956.12.10

大衆社会と革命の論理 新しい概念の大胆な創造を <今日の状況とマルクス
主義 Ⅲ> 「東京大学学生新聞」 1957.1.28

組合員を内がわからつかもう 日教組教育新聞四〇〇号に寄せて 「日教組教
育新聞」 1957.3.22

<書評> 亀井勝一郎著『現代史の課題』 「日本読書新聞」 1957.5.27

マルクス主義ブームへの危惧 <処女論文のこと> 「日本読書新聞」
1957.7.15

<書評> 唐沢富太郎著『日本人の履歴書』 「図書新聞」 1957.8.3

<書評> フェイト著『民族社会主義革命』 サルトル著『スターリンの亡霊』
フライヤー著『ハンガリーの悲劇』 「東京大学新聞」 1957.8.7

<書評> 加藤秀俊著『中間文化論』 「東京新聞」 1957.9.25 夕

強くなる努力を 自由を守るために 「朝日新聞」 1957.10.3 夕 「ひととき」欄
の投書の匿名希望をめぐって

持続的な編集を 東京で忘れたころ地方に行き渡る <論壇時評 上> 「東
京新聞」 1957.10.21 夕

“人間崩壊”に抗して 見逃されやすい生産の場の問題 <論壇時評 下> 「東京
新聞」 1957.10.22 夕

「現代の社会心理」を読んで ひとつの比喩的感想 「日本読書新聞」 1957.10.28

<座談会> 日本の左翼 (上) 「東京大学新聞」 1957.11.13 他の出席者: 竹
内好, 小田切秀雄

<座談会> 日本の左翼 (中) 「東京大学新聞」 1957.11.20 他の出席者: 竹内
好, 小田切秀雄

<座談会> 日本の左翼 (下) 「東京大学新聞」 1957.11.27 他の出席者: 竹内
好, 小田切秀雄

無気力化する社会に抗して 持続的エネルギーを培おう 「朝日新聞」 1957.12.26
『現代イデオロギー』に所収

結論 薄らいだ未来感覚 変革のエネルギーは変質した <世論調査 東大生

- の夢と現実> 「東京大学新聞」1958.1.1
- 「ひととき」に寄せる期待 “声”の段階を越えその次の一步へ 「朝日新聞」1958.1.1
- <書評> 岩崎武雄編『現代文明論』 「日本読書新聞」1958.1.13
- <書評> 桑原武夫著『この人々』 「東京新聞」1958.3.23
- 日録「日本読書新聞」1958.4.7
- 日録「日本読書新聞」1958.4.14
- 日録「日本読書新聞」1958.4.21
- 日録「日本読書新聞」1958.4.28
- 評論選後評 評論のムード化でなくムードの批評を <五月祭賞発表 入選作なし> 「東京大学新聞」1958.5.14
- 断想 学生の就職について 「東京大学新聞」1958.7.2
- この共産党 小山弘健氏の『戦後日本共産党史』にふれつつ 「日本読書新聞」1958.7.21
- <書評> 古在由重ほか編『現代マルクス主義』全三巻 「図書新聞」1958.8.16
- 乱世に生きることの容易さ 戦争は臆病を要求する 「8月15日の日記」によせて 「週刊読書人」1958.8.18
- 文化放送問題 労働組合を否定する近代的企業の中の古い意識 「日本読書新聞」1958.9.1
- 今日の日本をどう見るか 分裂した階層 その連帯意識をどう回復するか 「早稲田大学新聞」1958.9.9
- <対談> 出版時評 暗い法の支配に抵抗 「試練の現代文明」「尋問」「松川裁判」など 「朝日新聞」1958.9.27 対談者：久野収
- 民衆に信頼される新聞 「日常的事実」を掘り下げよ <論壇> 「朝日新聞」1958.10.1
- 意見の違いと共同行動 統一戦線の原則について <論壇> 「婦人民主新聞」1958.10.19
- プラスだと信ずる型で 読書の世界ではアナーキズムこそ 「読者の読書遍歴」を読んで 「週刊読書人」1958.10.27
- <対談> 出版時評 知識人と大衆 “両者の断絶”考え直せ 「朝日新聞」1958.11.29 対談者：埴谷雄高
- 社会科学 うねる悪気流に <回顧1958・その2> 「日本読書新聞」1958.12.8
- <対談> 一九五八年の論壇 「週刊読書人」1958.12.22 対談者：戒能通孝

核戦争と安保条約論 一月号の総合雑誌から 「北海道新聞」 1958.12.25
出版時評 この一年を回顧して 金字塔は『松川裁判』 「朝日新聞」
1958.12.27

大地の詩人 “負のエネルギー” に挑む正の工作者・谷川雁 「東京大学新聞」 1959.1.14
辺地北海道と怪物 “大東京” 二月号の総合雑誌から 「北海道新聞」 1959.1.27
抵抗の姿勢を確立せよ 闘いのなかで質的な前進 「日教組教育新聞」 1959.2.6
アフリカと日本の教育をつなぐもの 三月号の総合雑誌 「北海道新聞」 1959.2.24
世論のわからない安保条約改定問題 四月号の総合雑誌から 「北海道新聞」 1959.3.20
“独立王国主義” を破れ 文化運動の五カ年計画、七カ年計画を 「日本読書新聞」 1959.4.6

読みすてできない三つの問題 日中問題・天皇制・地方選挙 五月号の総合雑誌から 「北海道新聞」 1959.4.22

<書評> シーバート、ピータスン、シュラム著『マス・コミの自由に関する四理論』 「週刊読書人」 1959.4.27

関東 京浜の潜在的力量 関八州との関係を建直せ <日本文化地図 1959> 「日本読書新聞」 1959.5.4

大きな移り変わり 天皇制と現代の大学生 「毎日新聞」 1959.5.9
「評論」選後評 力量のたしかさ(柳生氏) <第四回「五月祭賞」発表> 「東京大学新聞」 1959.5.20

民衆運動論は力作 読みごたえある地方選挙分析 六月号の総合雑誌から 「北海道新聞」 1959.5.20

興味あるアジア問題 七月号の総合雑誌から 「北海道新聞」 1959.6.19
安保問題の新事態 だれにとって「最大の危機」か 「日教組教育新聞」 1959.7.10
注目すべき防衛構想の一提案 八月号の総合雑誌から 「北海道新聞」 1959.7.21
能動的、不断の努力 真に民主主義を守るもの <民主主義の現実 6> 「朝日新聞」 1959.8.11

「後悔の日」となる恐れ 安保改定をめぐる中野・大内論評 今月の論壇から 「北海道新聞」 1959.8.20

どこまでも守りぬこう——「言論 集会 結社の自由」 <論壇> 「婦人民主新聞」 1959.8.23

出そろった安保改定批判 十月号の総合誌から 「北海道新聞」 1959.9.19
おどろくべき前衛の自殺行為 「現代の理論」処分を非難する 「日本読書新聞」

1959.9.21 『『現代の理論』処分によせて』として『現代イデオロギー』に所収
世界の明るさと日本の暗さ 十一月号の総合雑誌から「北海道新聞」1959.10.22
知識人の社会的責任 「安保改定問題」をめぐる論壇 総合誌十二月号から
「北海道新聞」1959.11.20
大胆自由な交流 一人一票の権利 <逆ピラミッド文化への挑戦 第4回国民
文化全国集会の記録から> 「日本読書新聞」1959.11.30

1960年代

今日の知識人の主体性 「進歩主義批判」のワナにかかるものはだれか 「週刊
読書人」1960.1.1
マス・コミの世界 <五冊の本棚> 「日本読書新聞」1960.3.7
不安の時代 第一は安保改定 ガンは自覚されずに進む 「朝日新聞」
1960.4.26
評論選後評 批評精神の欠如 常識的な思考を排せ <第五回「五月祭賞」発
表> 「東京大学新聞」1960.5.18
運動の私有性を撃て 精神のコンミュンへ 「日本読書新聞」1960.7.4 「運動
の私有性について」として『現代イデオロギー』に所収
<緊急座談会> “安保闘争”の前進のために その成果と欠陥の総括 「週刊読
書人」1960.7.4 他の出席者：吉本隆明、武井昭夫
民衆とのつながり 成果と共に欠陥にも眼を向けよ <時評> 「社会新報」
1960.7.10
権力の暴力 「東京大学新聞」1960.7.11
安保闘争と教育 「日教組教育新聞」1960.7.15
私の意見ではない <「清水幾太郎氏の闘い」に寄す> 「図書新聞」1960.7.30
同紙7月16日号の「清水幾太郎氏の闘い」への反論
酔えない勝利 安保は選挙にどう反映したか <論壇> 「婦人民主新聞」
1960.11.27
<書評> 梅棹忠夫著『日本探検』 「日本読書新聞」1960.11.28
安保闘争 中立主義への転換 <60年の総決算> 「社会新報」1960.12.25
評論選後評 “安保以後”と思想 ひきしまったローザ論 <第六回「五月祭
賞」発表> 「東京大学新聞」1961.5.17
沈黙の批判甘く見るな <“安保の火”は消えない 爆発した怒りの日—5・19—
単独採決から1年> 「社会新報」1961.5.21

- <対談> 転機の日本マルクス主義 四つの潮流の特質と今後の課題 「週刊読書人」1961.6.5 対談者：佐藤昇
- 劇団三期会の「長い夜の記録」をみて 民衆の意識の暗黒部分を 「東京大学新聞」 1961.7.12
- 革新運動全体の問題 <日共春日脱党の波紋広がる 私はこう見る> 「社会新報」 1961.7.23
- <対談> 天高く気濁る 組織内民主主義, 日ソ協会から新日本文学会の問題まで 「日本読書新聞」1961.10.16 対談者：木下順二
- 文化創造の組織と主体 新しい段階を迎えた国民文化会議 「週刊読書人」1961.11.20
- 嶋中事件一周年に『思想の科学』廃棄問題 「日本読書新聞」1962.1.22
- 20周年に寄せて 読書新聞の三つの機能 「日本読書新聞」1962.6.11
- 護憲運動の課題 「東京大学新聞」1962.7.5
- 東大生の憲法意識（上）世論と同一傾向 「毎日新聞」1962.7.16 夕
- 東大生の憲法意識（中）平和主義の理念で理解 「毎日新聞」1962.7.17 夕
- 東大生の憲法意識（下）金科玉条とはしない 「毎日新聞」1962.7.20 夕
- “画期的な年鑑” <待望の「国民政治年鑑」出る> 「社会新報」1962.8.5
- <書評> 吉本隆明著『擬制の終焉』 「図書新聞」1962.8.18
- 戦争における二つの死 「8・15」に考えるべきこと 「週刊読書人」1962.8.20
- <座談会> 現代学生の実態分析 読書傾向と政治意識を中心に 「週刊読書人」1962.10.29 他の出席者：尾崎盛光, 増島宏
- 全体の問題 空洞的エセ進歩性が 一応示された「進歩性」のかげに <23大学学生の憲法意識調査まとまる 確認された改憲阻止> 「東京大学新聞」1962.12.14
- <シンポジウム・1962年> 知識人の自立と連帯 「日本読書新聞」1962.12.17 他の参加者：長洲一二ほか4名
- <対談> 平和運動の統一をもとめて 「婦人民主新聞」1963.1.1 対談者：松岡洋子
- <書評> D・リースマン著『現代文明と人間性』 「週刊読書人」1963.1.7
- <書評> わだつみ会編『十五年戦争』 「読売新聞」1963.2.28 夕
- <座談会> 今日の連帯の条件 認識者と創造者と国民の統一へ 「週刊読書人」1963.3.11 他の出席者：木下順二, 野間宏
- <書評> 水田洋著『霧の国太陽の国——ヨーロッパ思想の旅』 「東京新聞」

1963.6.26 夕

なにかが動きはじめた——新しい質の思想と感覚の発見の場に 「日本読書新聞」 1963.7.15

今年の平和運動 感情の対立を反省 小集会で意見の交換を 「婦人民主新聞」 1963.12.15

<書評> R・デニー著 石川弘義訳『ミューズのおどろき——大衆文化の美学』 「東京大学新聞」 1964.1.15

愉快地に議論しよう <平和運動にこう期待する> 「平和新聞」 1964.1.25

〔鼎談〕 戦後史の再検討 <今月の論調 上> 「毎日新聞」 1964.2.23 夕 鼎談者：長洲一二，家永三郎

〔鼎談〕 近代史の側面と憲法問題 <今月の論調 中> 「毎日新聞」 1964.2.24 夕 鼎談者：長洲一二，家永三郎

〔鼎談〕 福祉国家論〔ほか〕 <今月の論調 下> 「毎日新聞」 1964.2.25 夕 鼎談者：長洲一二，家永三郎

〔鼎談〕 戦後史の再検討 <今月の論調 上> 「毎日新聞」 1964.7.23 夕 鼎談者：長洲一二，家永三郎

〔鼎談〕 近代史の側面と憲法問題 <今月の論調 中> 「毎日新聞」 1964.7.24 夕 鼎談者：長洲一二，家永三郎

〔鼎談〕 憲法問題の中の福祉国家論〔ほか〕 <今月の論調 下> 「毎日新聞」 1964.7.25 夕 鼎談者：長洲一二，家永三郎

〔鼎談〕 インドシナの危機とゴールドウォーターの登場 <今月の論調 上> 「毎日新聞」 1964.8.22 夕 鼎談者：長洲一二，川田侃

〔鼎談〕 池田三選体制と新政局〔ほか〕 <今月の論調 中> 「毎日新聞」 1964.8.24 夕 鼎談者：長洲一二，川田侃

〔鼎談〕 創価学会の衆院選進出をめぐる〔ほか〕 <今月の論調 下> 「毎日新聞」 1964.8.25 夕 鼎談者：長洲一二，川田侃

〔鼎談〕 戦後思想の潮流 <今月の論調 上> 「毎日新聞」 1964.9.24 夕 鼎談者：長洲一二，久野収

〔鼎談〕 「大東亜戦争肯定論」をめぐる <今月の論調 中> 「毎日新聞」 1964.9.26 夕 鼎談者：長洲一二，久野収

〔鼎談〕 平和運動の反省と将来〔ほか〕 <今月の論調 下> 「毎日新聞」 1964.9.27 夕 鼎談者：長洲一二，久野収

〔鼎談〕 ソ・中・英三大事件をめぐる <今月の論調 上> 「毎日新聞」

- 1964.10.24 夕 鼎談者：長洲一二，堀田善衛
〔鼎談〕世界の中の日本〔ほか〕 <今月の論調 中> 「毎日新聞」1964.10.25 夕
鼎談者：長洲一二，堀田善衛
〔鼎談〕ナショナリズムの諸問題 <今月の論調 下> 「毎日新聞」
1964.10.26 夕 鼎談者：長洲一二，堀田善衛
核をもたない国として——中国の核実験と原水禁運動 「婦人民主新聞」
1964.11.1
〔鼎談〕激動する世界 ソ連政変を中心として <今月の論調 上> 「毎日新聞」
1964.11.24 夕 鼎談者：長洲一二，福田歓一
〔鼎談〕中国の核実験をめぐる <今月の論調 中> 「毎日新聞」
1964.11.26 夕 鼎談者：長洲一二，福田歓一
〔鼎談〕英労働党の勝利とジョンソンの再選〔ほか〕 <今月の論調 下>
「毎日新聞」1964.11.27 夕 鼎談者：長洲一二，福田歓一
流動化する政治意識 東京・千葉の調査から 「社会新報」1964.12.13
<座談会> 昭和10年=昭和40年（上）貫く共通性と可能性 「日本読書新聞」
1964.12.14 他の出席者：針生一郎，宮本研
<座談会> 昭和10年=昭和40年（下）日常性と動乱イメージ 「日本読書新聞」
1964.12.21 他の出席者：針生一郎，宮本研
〔鼎談〕ナショナリズムをめぐる その1 <今月の論調 上> 「毎日新聞」
1964.12.22 夕 鼎談者：長洲一二，加藤周一
〔鼎談〕ナショナリズム その2 <今月の論調 中> 「毎日新聞」
1964.12.24 夕 鼎談者：長洲一二，加藤周一
〔鼎談〕その他 <今月の論調 下> 「毎日新聞」1964.12.25 鼎談者：長洲
一二，加藤周一
〔鼎談〕保守と革新の諸問題（その1） <今月の論調 上> 「毎日新聞」
1965.1.25 夕 鼎談者：長洲一二，小松茂夫
〔鼎談〕保守と革新の諸問題（その2） <今月の論調 中> 「毎日新聞」
1965.1.26 夕 鼎談者：長洲一二，小松茂夫
〔鼎談〕大学教育の問題点〔ほか〕 <今月の論調 下> 「毎日新聞」
1965.1.27 夕 鼎談者：長洲一二，小松茂夫
〔鼎談〕国連の危機・極東情勢 <今月の論調 上> 「毎日新聞」
1965.2.22 夕 鼎談者：長洲一二，坂本義和
〔鼎談〕日韓・沖縄問題〔ほか〕 <今月の論調 中> 「毎日新聞」

1965.2.23 夕 鼎談者：長洲一二，坂本義和
〔鼎談〕 ヒロシマ・ノートなど <今月の論調 下> 「毎日新聞」
1965.2.24 夕 鼎談者：長洲一二，坂本義和
人間の威厳と人間の連帯 大江健三郎氏の「ヒロシマ・ノート」が訴えるもの
「日本読書新聞」1965.3.1
〔鼎談〕 緊迫するアジアの諸問題 <今月の論調 上> 「毎日新聞」
1965.3.26 夕 鼎談者：長洲一二，小田実
〔鼎談〕 続・緊迫するアジアの諸問題〔ほか〕 <今月の論調 中> 「毎日新聞」
1965.3.27 夕 鼎談者：長洲一二，小田実
〔鼎談〕 日本の教育つづき〔ほか〕 <今月の論調 下> 「毎日新聞」
1965.3.29 夕 鼎談者：長洲一二，小田実
〔鼎談〕 ベトナム問題 <今月の論調 上> 「毎日新聞」1965.4.24 夕 鼎談
者：長洲一二，萩原延寿
〔鼎談〕 南北問題と日本の安全保障 <今月の論調 中> 「毎日新聞」
1965.4.26 夕 鼎談者：長洲一二，萩原延寿
〔鼎談〕 “戦後”の評価をめぐって <今月の論調 下> 「毎日新聞」
1965.4.27 夕 鼎談者：長洲一二，萩原延寿
アメリカの新聞批判 単なる認識不足ではない 「東京新聞」1965.5.10 夕
〔鼎談〕 憲法と日本の安全 <今月の論調 上> 「毎日新聞」1965.5.24 夕 鼎
談者：長洲一二，大江健三郎
〔鼎談〕 アジアの平和をめぐって <今月の論調 中> 「毎日新聞」
1965.5.25 夕 鼎談者：長洲一二，大江健三郎
〔鼎談〕 “底流”をさぐる諸特集 <今月の論調 下> 「毎日新聞」
1965.5.26 夕 鼎談者：長洲一二，大江健三郎
六月九日のこと——画一性に墮さぬ統一のイメージを 「日本読書新聞」
1965.6.7
ベトナム要望書の射程距離（上）衛藤瀋吉氏への反論 「東京新聞」
1965.7.12 夕
ベトナム要望書の射程距離（下）衛藤瀋吉氏への反論 「東京新聞」
1965.7.13 夕
応募作を読んで 四つの典型的視覚 「日本読書新聞」1965.8.9
今も生きる「政治」論争 「近代文学」をめぐって <戦後史の人びと1>
「朝日新聞」1965.8.11 夕 『『近代文学』をめぐって』として『戦後思想と歴史の

体験』に所収

民主主義回復のために 残された道、国会解散 「社会新報」1965.11.17 日韓
条約の強行採決をめぐる

思想相対化時代の青年像 <現代青年の思想と行動 3> 「週刊読書人」
1966.3.7

閉鎖的な“自立”の傾向 意識状況のあらわれ <第十一回「五月祭賞」発表>
「東京大学新聞」1966.5.16

敵のなかの味方——宮本百合子の一文 「婦人民主新聞」1966.5.29

防衛論二つ <論壇時評 上> 「東京新聞」 1966.6.23 夕

“中国整風”についての評論が目立つ <論壇時評 下> 「東京新聞」
1966.6.24 夕

八・一五の意味をさぐる論文二つ <論壇時評 上> 「東京新聞」
1966.7.22 夕

注目すべき大胆な大学改革案 <論壇時評 下> 「東京新聞」1966.7.23 夕

『核』に対処する平和論 <論壇時評 上> 「東京新聞」1966.8.22 夕

北の停戦意図を探る <論壇時評 下> 「東京新聞」1966.8.23 夕

“対話”不在の小宇宙 <論壇時評 上> 「東京新聞」1966.9.26 夕

出色のベトナム対談 <論壇時評 下> 「東京新聞」1966.9.27 夕

熱い関心集まる中国 <論壇時評 上> 「東京新聞」1966.10.27 夕

一種のドラマ的感銘 <論壇時評 下> 「東京新聞」1966.10.28 夕

<対談> 10・21 ストとこれから 倒閣運動へ全力 国民の怒り結集し 「社
会新報」1966.11.6 対談者：堀井利勝

政治の腐敗つく <論壇時評 上> 「東京新聞」1966.11.21 夕

“思想の本質を忘れる” <論壇時評 下> 「東京新聞」1966.11.22 夕

<書評> 南博著『社会心理学』 「図書新聞」1966.12.10 上記は再録、初出
は「東大新聞」とあるが不明

すぐれた米知識人論 <論壇時評 上> 「東京新聞」1966.12.19 夕

反省うながす指摘 <論壇時評 下> 「東京新聞」1966.12.20 夕

衆院選後の展望 <論壇時評 上> 「東京新聞」1967.1.20 夕

腐敗選挙をつく <論壇時評 下> 「東京新聞」1967.1.21 夕

期待を裏切った北爆再開 <論壇時評 上> 「東京新聞」1967.2.24 夕

百家争鳴の文化大革命論 <論壇時評 下> 「東京新聞」1967.2.25 夕

思想問題が再登場 <論壇時評 上> 「東京新聞」1967.3.23 夕

逆転した平和論 <論壇時評 下> 「東京新聞」1967.3.24 夕

アジア情勢のカナメ『米中』 <論壇時評 上> 「東京新聞」1967.4.24 夕

心にしみる農村訪問記 <論壇時評 下> 「東京新聞」1967.4.25 夕

“宙ぶり”に堪える思想 憲法侵蝕の状況について 「日本読書新聞」1967.5.8

情念過剰だが前進 マルクスの生産的指摘 対馬論文 <第12回五月祭賞発表> 「東京大学新聞」1967.5.15

革新都政、中心問題に <論壇時評 上> 「東京新聞」1967.5.26 夕

思想的意味こそ深刻 <論壇時評 下> 「東京新聞」1967.5.27 夕

めずらしさに期待 <婦民への注文> 「婦人民主新聞」1967.5.28

<対談> 現代を生きるための新しい読書計画 岩波文庫40年記念「考える人」(五つの箱)発売を機に「週刊読書人」1967.7.10 対談者：野間宏

世代 「京都新聞」1967.10.29

戦後批評と複眼の思想 “自立的立場”という錯覚 「日本読書新聞」1967.10.30

『戦後思想と歴史の体験』に所収

許されぬ底辺の放棄 <原爆被害者援護法制定をめぐるティーチ・インから上> 「社会新報」1967.11.15

<インタビュー> 一九七〇年の思想と革新の課題 われわれは何をなすべきか 「社会新報」1968.1.1 聞き手：鶴崎友亀

ことしの“四月二十八日”今こそ運動統一の時 <4・28 沖縄復帰デーをめざして 上> 「社会新報」1968.4.21

六月を反戦と平和のために 「ベトナム反戦全国行動」の呼びかけ(阿部知二ほか共著) 「ベ平連ニュース」1968.5.1

評論部門 私は不安を感じる 明晰な論理構成を <五月祭賞 選考をおえて> 「東京大学新聞」1968.5.20

日高六郎氏のメッセージ 「図書新聞」1968.7.20 中央公論社による「思想の科学 天皇制特集号」廃棄事件の過程で、同社労組に送られたメッセージ

社会党への空想的提案 <風速計 やさしい時事解説> 「婦人民主新聞」1968.9.27

明治百年と教科書裁判(要旨) 「教科書検定訴訟を支援する全国連絡会ニュース」1968.11.25

情勢はきびしい 日高六郎氏の問題提起 「社会新報」1968.12.1 第9回国文化全国集会における問題提起

<新年座談会> 国民総結集へ「革新の思想」をどう築く 「社会新報」

1969.1.1 他の出席者：野間宏ほか3名

5月3日と8月15日 原点の緊張取戻そう 無視できぬ若者の声 「朝日新聞」

1969.5.2 夕

繁栄論と戸締り論 『安保がわかる』を批判する（上）「日教組教育新聞」

1969.12.2

欠落する四つの問題 『安保がわかる』を批判する（下）「日教組教育新聞」

1969.12.16

1970年代

安保60年から70年へ（上）経済「進出」のなかの優雅と粗暴 「毎日新聞」

1970.6.27 夕

安保60年から70年へ（下）言葉と行動の分裂に抗して 「毎日新聞」

1970.6.29 夕

“転換”を確実なものに 8・15を前に思う 「国民の教育権」定着を 「朝日新聞」

1970.8.11

<書評> 太田雅夫著『桐生悠々』 「日本読書新聞」 1970.11.30

<対談> 革新の手で70年代の都市づくり 「社会新報」 1971.1.1 対談者：
飛鳥田一雄

日本的ナショナリズム 満州事変勃発から四十年（上）再び国粋と国権の潮流
「東京新聞」 1971.1.8 夕 『戦後思想と歴史の体験』に所収

日本的ナショナリズム 満州事変勃発から四十年（下）和魂洋才の巧みな操作
「東京新聞」 1971.1.9 夕 『戦後思想と歴史の体験』に所収

ハタチになった教研集会 沖縄の“空白”直視せよ 「朝日新聞」 1971.1.12

沖縄の教育 静かに進む琉球処分方式 「毎日新聞」 1971.2.13 夕

快適な生活 青島で経験した回心 <わが思索わが風土 1> 「朝日新聞」
1971.8.16 夕 『戦後思想と歴史の体験』に所収

縁木求魚 戦時に民主主義主張 <わが思索わが風土 2> 「朝日新聞」
1971.8.17 夕 『戦後思想と歴史の体験』に所収

心のものさし 批判持ちながら沈黙 <わが思索わが風土 3> 「朝日新聞」
1971.8.18 夕 『戦後思想と歴史の体験』に所収

賢者の目 正しさとやさしさと <わが思索わが風土 4> 「朝日新聞」
1971.8.19 夕 『戦後思想と歴史の体験』に所収

惨勝楽敗 免れない国民の責任 <わが思索わが風土 5> 「朝日新聞」

1971.8.20夕 『戦後思想と歴史の体験』に所収
「8・15」とはなんであったのか「毎日新聞」1971.8.20夕
<書評> 鶴見俊輔対話集『同時代』 「日本読書新聞」1971.11.15
「婦民」的ないきかたしかない <婦民・二五年・私> 「婦人民主新聞」
1972.3.17
まだ機密があるのでは <“知る権利”主張し、行動を「国民の知る権利を守る会」から> 「社会新報」1972.4.16
藤村と『破戒』（上）題材の衝撃力問う 体験と知識のすべてを投入 <思想史を歩く> 「朝日新聞」1972.5.29
藤村と『破戒』（中）やはり「差別小説」？ 評価と共に厳しい批判 <思想史を歩く> 「朝日新聞」1972.6.5
藤村と『破戒』（下）儀礼的な部落理解 “時代のカベ”を打破れず <思想史を歩く> 「朝日新聞」1972.6.12
水俣病センター（仮称）私感「告発」1972.10.25
賃上げよりも物価値下げ 生活の質を変えるべきとき <現代とはいかなる時代か 市民公開セミナー・三氏の講演から> 「毎日新聞」1974.3.13 講演の要旨、詳細は「市民」（1974.5）に掲載
<対談> これからの市民運動「毎日新聞」1974.3.20夕 対談者：小田実
喜びと悲しみを共に「水俣」号外 1974.4.25 水俣病センター・相思社の完成に当って
韓国への旅から帰って 権力に屈せぬ二人に感動 毅然たる持久の姿勢「朝日新聞」1974.8.28夕
「生きている兵隊」はいま生きているか 言論の自由についての断想「北海道新聞」1975.7.24夕
選びぬかれた文章 <点鐘> 「日教組教育新聞」1975.9.9
文化の質について 心の荒廃がすすむなかで <現代を問いなおす（講演要旨）> 「社会新報」1975.10.1
藤野先生の赤インク <点鐘> 「日教組教育新聞」1975.10.7
学歴社会と主任 <点鐘> 「日教組教育新聞」1975.11.4
基本的人権と国民生活 <スト権闘争を支援 三氏の講演から> 「社会新報」1975.11.5
自民の体質を暴露「社会新報」1975.12.3 公労協、公務員共闘のスト権奪還ストに関連して

ひたむきの心 <点鐘> 「日教組教育新聞」 1975.12.9
テーブル大きく <国民文化会議結成 20 周年記念シンポジウムでの問題提起> 「社会新報」 1975.12.14
デッチ上げを確信する 10・7 謀圧事件調査団に参加して 「水俣」 1975.12.25
中小都市でも開催望む <結党 30 周年記念文化講演会をおえて 感想と要望> 「社会新報」 1975.12.28
「主任拒否」の心意気 <新春随想> 「日教組教育新聞」 1976.1.1
日本の政治を動かす政党に <'76 賀春 日本社会党への期待と注文> 「社会新報」 1975.1.1
説得力のある答案 <点鐘> 「日教組教育新聞」 1976.1.20
水俣病申請患者・支援者逮捕事件についての調査報告(稲葉三千男ほか共著)
「水俣」 1976.1.25
構造的腐敗 <点鐘> 「日教組教育新聞」 1976.2.24
校舎も内的事項 <点鐘> 「日教組教育新聞」 1976.3.23
カネ、必要と欲望 <点鐘> 「日教組教育新聞」 1976.4.27
なにかをしなければならぬ <みんなのこだま 提言> 「週刊ピーナツ」
1976.5.29
「落ちこぼし」の尺度 <点鐘> 「日教組教育新聞」 1976.6.22
再び日本人民の弱さ <点鐘> 「日教組教育新聞」 1976.7.20
「政治犯」ポー夫妻 <点鐘> 「日教組教育新聞」 1976.8.31
教師のぼやき <点鐘> 「日教組教育新聞」 1976.10.5
汚職なしに成立たず 日本社会に根本的メスを ロッキード事件のなかで戦後
政治を考える 「社会新報」 1976.10.17
石川一雄氏の「学校」 <点鐘> 「日教組教育新聞」 1976.11.2
天皇祝賀問題の本質 日高六郎氏に聞く <特集 天皇在位 50 年祝典に反対
する 下> 「社会新報」 1976.11.10
大学入試「改革」 <点鐘> 「日教組教育新聞」 1976.11.30
ひとつの詩集 <点鐘> 「日教組教育新聞」 1976.12.28
たのしみの目減り <新春随想> 「日教組教育新聞」 1977.1.1
教師のぎりぎりいっぱいの仕事 「日教組教育新聞」 1977.2.15 第 26 次教育研
究全国集会における記念講演要旨、詳細は「教育評論」(1977.3 臨時増刊) お
よび『日本の教育 第 26 集』(1977.5) に掲載
認識、勇気、弁解 <点鐘> 「日教組教育新聞」 1977.2.15

教師のぎりぎりいっぱいの仕事 「社会新報」1977.2.20 第26次教育研究全国集会における記念講演要旨

<書評> 古在由重編『知識人と現代研究者の記録』 「北海道新聞」1977.3.8

竹内好さんの存在 <点鐘> 「日教組教育新聞」1977.3.15

早く汗まみれになれ <点鐘> 「日教組教育新聞」1977.4.19

現代史教育のすすめ <点鐘> 「日教組教育新聞」1977.5.24

特輯号「入学試験と教育」 <点鐘> 「日教組教育新聞」1977.6.28

自らに苦言できる政党に <社会党の躍進へ期待と注文> 「社会新報」1977.7.8

片手落ちのツケ <点鐘> 「日教組教育新聞」1977.8.9

不知火海巡回映画班 <点鐘> 「日教組教育新聞」1977.9.13

「外国人の見た日本」 <点鐘> 「日教組教育新聞」1977.10.11

タウト父子の紙片 <点鐘> 「日教組教育新聞」1977.11.15

品評なすべからず <点鐘> 「日教組教育新聞」1977.12.13

<座談会> 国民に根ざした党へ 社会党再生の方向を語る (上) 「社会新報」1978.1.1 他の出席者：飛鳥田一雄，岩井章

<座談会> 国民に根ざした党へ 社会党再生の方向を語る (下) 「社会新報」1978.1.10 他の出席者：飛鳥田一雄，岩井章

沖縄から日本を見る <点鐘> 「日教組教育新聞」1978.1.17

人間変革へ文化闘争 全国大会に期待する 「解放新聞」1978.1.30

「本土なみ」の二重性 <点鐘> 「日教組教育新聞」1978.2.21

“腕”の見せどころ <点鐘> 「日教組教育新聞」1978.3.21

<利>でさそって<義>をうちたてるのは困難です 新「愛国人」教育について 「京都新聞」1978.4.9夕

組織の生きざま <点鐘> 「日教組教育新聞」1978.4.18

水俣との<つき合い> 選びとった生の充実 新たな思想の芽育てる 「朝日新聞」1978.4.19夕

文化人署名拡大にとりくむ <再審を勝ちとろう> 「解放新聞」1978.5.15

隠し文字 <点鐘> 「日教組教育新聞」1978.5.30

誤植と引用と解釈と 雑誌「展望」6月号からの短評について 「毎日新聞」1978.6.8夕

審判は歴史が下す <提訴十三周年に思う> 「教科書裁判ニュース」1978.6.15

制度的と創造的 <点鐘> 「日教組教育新聞」1978.7.11

近代日本に鋭いメスを <創刊 900 号を祝す> 「解放新聞」 1978.12.18
東大闘争の 10 年後 大学の改革なし 「教育」公害に侵される若者 「毎日新聞」
1979.1.30 夕
ゼロから出発する気で <分権自治の 80 年代へ ガンバレ日本社会党> 「社
会新報」 1979.3.30
ある選挙運動的一幕 最下位候補者を応援して 手弁当、費用はカンパ 「朝
日新聞」 1979.4.28 夕
民衆連帯の視点 <日朝連帯強化へ新たな一歩 朝鮮問題シンポジウム'79>
「社会新報」 1979.7.10
<書評> 土本典昭著『わが映画発見の旅』 「週刊読書人」 1979.9.10
再生の意思はつきり <人間尊重の 80 年代へ 社会党を強く大きく> 「社会
新報」 1979.10.5
総ざらい点検を <総選挙結果と社会党 私の提言> 「社会新報」 1979.10.12
国民のなかに党への期待高めよ <流動政局と社会党の任務 識者に聞く>
「社会新報」 1979.11.9
韓国民主化支援を <在日朝鮮人 65 万人とともに 朝鮮統一のための国際婦
人集会、日本婦人集会の成功を> 「婦人しんぶん」 1979.11.25
ブハーリンを執念深く <ひと、本に会う 私の読書術> 「朝日新聞」
1979.12.23

1980 年代

「管理主義」強化との闘い 「自立」と「抵抗的参加」を <私の発言> 「社会新
報」 1980.1.1
おそろしい論理だ(談) <なぜ事実審理を避けたのか> 「解放新聞」 1980.2.18
“情報”を憎悪する彼ら 『知る権利』と二つの法律案——情報公開法と機密保護
法 「沖縄タイムス」 1980.2.23
自由な現代批判と人間解放 E.フロムの思想について 「朝日新聞」
1980.3.22 夕
国家と民衆について 政治的に利用される不条理に納得しない鋭い嗅覚を
「毎日新聞」 1980.4.1 夕
<対談> 安保体制と民主主義 日高六郎さんと語る <小田実の直撃対談>
「社会新報」 1980.4.25
大きな思想と個性 <松本英一推せんの言葉> 「解放新聞」 1980.5.28 号外

防衛論議の理念と現実 六・一五 二〇周年に際して 反戦平和の視点欠落
「朝日新聞」1980.6.13夕

<書評> 菅孝行著『鶴見俊輔論』 「週刊読書人」1980.6.16

党自身の革新を <社会党にひと言> 「社会新報」1980.6.22

地についての連合戦線を <社会党の再起に寄せる ダブル選挙をふりかえっ
て> 「社会新報」1980.6.27

軍国主義と差別 「解放新聞」1980.9.1 第5回部落解放西日本夏期講座におけ
る講演要旨

人権尊重を対決の軸に <試練の護憲大会 若い主体どう築く> 「社会新報」
1980.11.7

民主教育を考える(上) 管理社会化に反撃を 右傾化支える統合の手段「社会
新報」1980.12.12

民主教育を考える(下) 民衆の自立が大事 “管理の網”破るために 「社会新
報」1980.12.16

<書評> 師岡佑行著『戦後部落解放論争史』 「解放新聞」1980.12.22

管理主義とのたたかいを <ことし一年 これだけはやりたい> 「婦人しんぶ
ん」1981.1.1

管理体制からの解放へ 教師が自らを問え「毎日新聞」1981.1.13

教科書は一つの教材にすぎない——教師が自由に選択を 「東京新聞」
1981.7.22夕

国を超える志 <もの申す> 「社会新報」1981.7.28

多弁な反対は空念仏 肉声こそ民衆動かす <戦後史を読みなおす 3 逆コー
スと政治主義> 「朝日新聞」 1981.8.8夕

[インタビュー] 戦後思想 危機の現状 日高六郎氏に聞く「毎日新聞」
1981.12.7夕

平和を守る強い指導を <飛鳥田委員長が三選> 「社会新報」1981.12.25

<新春インタビュー> 日高六郎さんに聞く(上) 受益主義のもたらしたもの
「解放新聞」1982.1.4 聞き手：藤田敬一

<新春インタビュー> 日高六郎さんに聞く(下) 自立と連帯の創造をめざし「解
放新聞」1982.1.18 聞き手：藤田敬一

学校で“宣言”学習 <全水60周年に期待する> 「解放新聞」1982.1.25

「反核」ということ 国家は管理体制強化 精神の窒息を招く恐れ 「毎日新聞」
1982.6.7夕

8・15と日本人の歴史観 独善的な「進出」史観 浮かばれぬ戦死者の霊 「沖縄タイムス」1982.8.9夕

核と人間 新しい文化を創るために 「婦人しんぶん」1982.10.10

いま社会党への期待 百人にきく(主な回答) 「社会新報」1982.11.16

ともに生き・闘うことの意味 「解放新聞」1982.12.6

国会から角栄追え〈懲役五年の重さ(識者の声)〉「社会新報」1983.2.1

〈マルクス没後百年座談会 上〉たえざる変革こそが 「解放新聞」1983.4.25
他の出席者：大賀正行ほか2名

〈マルクス没後百年座談会 下〉人間の全体的解放を問う 「解放新聞」
1983.5.2 他の出席者：大賀正行ほか2名

管理破る文化の哲学を(談) 〈党再生への直言 各界・現場を結ぶ声〉 「社会新報」1983.8.23

自民党と田中派勝たすな〈私たちは社会党の躍進に期待します〉「社会新報」
1983.12.6

〈インタビュー〉差別構造温存の管理社会をうて 〈《現代》と差別 1〉「解放新聞」1984.4.2 聞き手：土方鉄

〈講演要旨〉日本の未来を探せ 「水俣」1984.12.5 相思社10周年大収穫祭における講演

〈インタビュー〉「超教審 in 東京」を呼びかけた日高六郎さん 競争でなく共生を 「社会新報」1985.1.1 聞き手：温井編集長

本当の「教育の自由」を〈来賓あいさつ〉 「社会新報」1985.1.22

敗戦から四十年の今を問う 二つの保守主義——日本と西ドイツ 「婦人しんぶん」1985.8.25

「第九」と「君が代」〈若い日の私〉「毎日新聞」1986.2.20 毎日新聞社編刊『若い日の私 II』(1987)に所収

高校・大学格差の解消こそポイント〈社会党のシンポ 共に生き、学ぶ、育つ 教育改革の結実を〉 「社会新報」1986.4.25

苦労をになう人たち〈女の輪で地球を守れ 2000号からの出発〉 「婦人民主新聞」1986.8.1

土井たか子候補 自分の言葉を大切に〈われら委員長候補応援団〉「社会新報」1986.9.2

〈書評〉金香都子著『猪飼野(いかいの)路地裏 通りゃんせ』 「図書新聞」1988.11.12

「18歳参政権」の政策掲げよ〈第54回定期全国大会 来賓のあいさつ〉「社会新報」1989.1.27

労組依存体質改め 市民運動との結合も〈月刊社会党400号記念シンポジウム 社会党の現在と未来〉「社会新報」1989.5.10

〈書評〉吉野源三郎著『職業としての編集者』 「週刊読書人」1989.5.22

〈がんばれ土井社会党 私たちも応援します〉「社会新報」1989.7.4

心の〈市民革命〉示した参院選 いまこそ社会党は自己脱皮を「社会新報」1989.8.1

1990年代

〈がんばれ!! 土井社会党〉「社会新報」1990.2.7

政治改革は政党に任せられない「国民サイド」からの発想こそ「毎日新聞」1990.4.6夕

強固な自負心培うフランス人の気質〈余白を語る〉「朝日新聞」1990.6.29夕
文：西島健男

〈書評〉トーマス・R・H・ハイブズ著『海の向こうの火事 ベトナム戦争と日本 1965—1975』 「週刊読書人」1990.9.10

「戦争貢献」より「平和貢献」を 哲学欠ける日本の政治〈時代の目〉「毎日新聞」1991.2.9

〈社会党よがんばれ!! 統一自治体選挙の勝利をめざして〉「社会新報」1991.3.26
日高六郎さんからのメッセージ「解放新聞」1991.5.27 「野間宏さんを偲ぶ会」へのメッセージ

特権なき市民社会建設を ソ連共産党の終えん「毎日新聞」1991.8.31

アジア民衆との信頼回復を〈論壇〉「朝日新聞」1992.1.1

志失わない姿勢に期待 山本正和さん〈私たちは、この人を応援しています〉「社会新報」1992.6.2

〈記念講演〉教育研究活動と人権の思想 「日教組教育新聞」1993.1.19 第42次教育研究全国集会における記念講演要旨、詳細は日本教職員組合編『日本の教育 第42集』（一ツ橋書房 1993）に掲載

「総評よ、ご苦労さま」〈わたしと総評〉「社会新報」1993.3.5

時代の流れと思想の動きと〈自分と出会う〉「朝日新聞」1993.5.10夕

良導体社会 パリから「日教組教育新聞」1995.4.11

環境や人権視野に平和論を ポスト冷戦、いま戦後「第三期」 「朝日新聞」

- 1995.10.13 夕 日高, 高島通敏編『21世紀 私たちの選択』(日本評論社 1996)に所収
- 〈インタビュー〉戦争への道開く後方支援 日米安保「再定義」と安全保障 日高六郎さんに聞く 「朝日新聞(大阪版)」1996.5.5 聞き手:古森勲
- [インタビュー] 戦後民主主義とともに歩んだ社会学者 日高六郎さん(上) 市民意識から出直しを〈この人と〉 「毎日新聞」1996.6.17夕 聞き手:田中良太
- [インタビュー] 戦後民主主義とともに歩んだ社会学者 日高六郎さん(中) 「真の友人」持てない日本人〈この人と〉 「毎日新聞」1996.6.18夕 聞き手:田中良太
- [インタビュー] 戦後民主主義とともに歩んだ社会学者 日高六郎さん(下) 21世紀は「冬の時代」 〈この人と〉 「毎日新聞」1996.6.19夕 聞き手:田中良太
- 境界を溶かし込む「過去」——映画『絵の中のほくの村』の視線 「毎日新聞」1996.8.13夕
- アジアに深い関心(談) 〈雑誌「世界」の元名編集長 安江良介氏が死去〉 「北海道新聞」1998.1.6夕
- ジャーナリストの責任 安江良介さんの死を悼む 「中日新聞」1998.1.16夕 「安江良介追悼集」刊行委員会編刊『追悼集 安江良介 その人と思想』(1999)に所収
- 歴史をふりかえるジャーナリズム 30年前を回顧するフランスと健忘症に陥った日本との落差 「京都新聞」1998.7.22
- [インタビュー] 日高六郎さん「体制順応」の流れ心配〈憲法記念日 2氏に聞く〉 「信濃毎日新聞」1999.5.3
- ふしぎな住宅地〈今月の随想〉「京都新聞」1999.9.1

2000年代

- 戦争を忘れず 異見を排除せず 国民文化会議が残したもの 「朝日新聞」2001.4.7夕
- イラク・北朝鮮 有事を考える 米「戦死者ゼロ作戦」の幻想 〈潮流〉「北海道新聞」20 2003.4.27

あ と が き

日高六郎氏の文章は大変多い。しかし、例外的とっていいくらいに著作集もまだ刊行されておらず、単独での著書も10冊に満たない。かわりに共著書、編書・共編書が多数にのぼる。このことは、氏が、自身一己のことよりも、いかに多くの人たちとの連帯、共同のしごとに力をそそいできたかを示していると思う。

私は長年の読者のひとりだが、氏の著作が一層広く深く読まれること、日高六郎研究が進められること、さらに著作集が刊行される場合にはその基礎を提供しうることを願って、本編を編さんした。

編さんにあたっては、全て原資料にあたって確認するようにつとめたが、資料の所在が分らず原資料にあたれなかったものも数点残った（「掲載頁未詳」等としたのがそれである）。遺漏も、なおあると思う。お気づきの点があればご教示いただければ幸いである。

本編の作成にあたり、日高六郎氏ご自身に種々アドバイスをいただいたほか、伊藤宏、大橋弘、岡村光章、尾崎広一、土屋紀義、原寿雄、藤林泰、松下礼子、山部芳彦、吉川勇一の各氏をはじめ、多くの方々のご協力をいただいた。本誌編集担当の相島宏氏にも大変お世話になった。厚くお礼を申し上げたい。また文献の探索・確認のために、移動図書館を含む横浜市中央図書館、神奈川県立図書館、東京都立中央図書館、国立国会図書館、日本教育会館附設教育図書館を中心に、多くの機関を利用させていただいた。親切に対応して下さった各機関の皆さんにもお礼を申し上げたいと思う。

2004年9月

(ひらかわ ちひろ 元職員)